



もっと知ってパソコン

オプション周辺機器の取り付けに挑戦！
機能や設定など、もっと知りたいあなたに！
パソコン各部の名前や仕様一覧も収録！

マニュアルを活用しよう

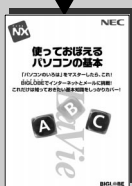
このパソコンには次のマニュアルや練習ソフトが用意されています。

『はじめにお読みください』でセットアップを終了したら、目的に応じて次のマニュアルや練習ソフトを活用してください。



『はじめにお読みください』

パソコンを使っているいろいろなことをはじめたい！



『使っておぼえるパソコンの基本』

- ・インターネットやメールをする
- ・文字の入力のしかた
- ・Windowsの基本操作
- ・BIGLOBEに入会する

このパソコンの機能をもっと使いこなしたい！

『もっと知りたいパソコン』

- ・パソコンの機能を詳しく知る
- ・周辺機器を接続する
- ・パソコンのメンテナンスをする
- ・BIOSの設定を変更する



パソコン初心者なので、基本的なことから覚えたい！



『パソコンのいろは』

- ・NXパッドの使いかた
- ・文字の入力のしかた
- ・Windowsの基本操作を覚える
- ・インターネットの練習

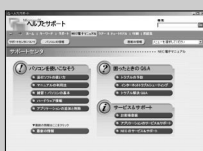
困ったなあ、どうしたらいいのかな？



『困ったときのQ&A』

- ・トラブルを解決する
- ・パソコンを再セットアップする

知りたいことを画面上で調べてみよう



『サポートセンター』(電子マニュアル)

- ・添付のアプリケーションを使う
- ・トラブルを解決する
- ・アプリケーションを追加 / 削除する
- ・サービス&サポート窓口紹介

巻末に簡単な操作方法が載っています。

はじめに

このマニュアルは、パソコンの機能全般についての取扱説明書です。各機能について詳しく知りたいときや周辺機器を接続したいとき、パソコンの設定を変更したいときなど、必要に応じて活用してください。

2001年 5 月 初版

表記について

記号

パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。

 警告	注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。
 注意	注意事項を守っていただけない場合、人が損害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみの発生が想定されることを示します。
 感電注意	注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、毒物注意、破裂注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。

その他の記号

 チェック	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性あります。
 メモ	利用の参考となる補足的な情報や、用語について説明しています。
 参照	関連する情報が書かれている所を示しています。

モデル

モデルの呼びかた

CD-R/RWモデル	CD-R/RWドライブを内蔵しているモデルのことです。(LaVie Gシリーズのみ)
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブを内蔵しているモデルのことです。
LAN内蔵モデル	LANインターフェイスを内蔵しているモデルです。

対象モデル一覧

型名	表記の区分	
	CD-R/RW with DVD-ROM	通信機能
LC800J/74DH	CD-R/RW with DVD-ROMモデル	LAN内蔵モデル
LC750J/74DH		

:内蔵FAXモデム以外の通信機能

LaVie Gシリーズについて

LaVie Gシリーズの各モデルについては、添付の『LaVie Gシリーズをご購入されたお客様へ』をご覧ください。

操作方法

【 】	【 】で囲んである文字は、キーボードのキーを示します。 【 】+【 】はキーを同時に押すことを表しています。
	 は、Enterキーを表しています。
「 」→「 」→「 」→「 」	「 」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。 [例] 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「メモ帳」 「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「プログラム」を選択し、横に現れるサブメニューから「アクセサリ」→「メモ帳」を順に選択することを示します。

コントロールパネルの開きかた

コントロールパネルは次のどちらかの方法で開くことができます。

- ・「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」
 - ・「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックして、表示された「マイコンピュータ」画面の「コントロールパネル」アイコンをダブルクリックする
- 「コントロールパネル」の画面に操作したいアイコンが表示されていない場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックしてアイコンを表示させてください。

「サポートセンタ」の開きかた

サポートセンタは次のどちらかの方法で開くことができます。

- ・デスクトップのアクティブメニューNXで「サポートセンタ」をクリックする
- ・「スタート」ボタン→「NEC電子マニュアル」→「サポートセンタ」

「添付ソフトの使い方」

次の方法で「添付ソフトの使い方」を開き、各アプリケーションの使い方を参照することができます。

「スタート」ボタン→「NEC電子マニュアル」→「添付ソフトの使い方」

記載内容

- ・イラストや画面は、モデルによって異なることがあります。
- ・本文中に記載の画面は、実際の画面と多少異なることがあります。

ソフトウェアの正式名称

Windows、 Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 2000 Professional	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
インターネット エクスプローラ、 Internet Explorer	Microsoft® Internet Explorer 5.5
Outlook Express	Microsoft® Outlook® Express 5.5
MS-IME2000	Microsoft® IME 2000
MS-IME2002	Microsoft® IME 2002
DirectCD	DirectCD™ 3
Easy CD Creator	Easy CD Creator™ 4 Standard
スナップショット	スナップショット Ver2.1
VideoStudio	Ulead VideoStudio Version4.0 SE Basic
DVDit!	DVDit!™ LE
インナーシート クリエイター	インナーシートクリエイター for LaVie



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

■ 技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第50条第1項の規定に基づく技術基準等適合認定を受けています。申請回線と認定番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

対象機種	電話回線
LC800J、LC750J、 LG10G、LG75G	A00-0938JP

■ 電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

■ 漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

■ 瞬時電圧低下について

[バッテリーパックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[バッテリーパックを取り付けている場合]

本装置にバッテリーパック実装時は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

■ レーザ安全基準について

このパソコンには、レーザに関する安全基準（JIS-C-6802、IEC825）クラス1適合のCD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのいずれかが内蔵されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。が、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNECパソコンインフォメーションセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本はお取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外NECでは、本製品の保守・修理対応をしておりますので、ご承知ください。
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされている Windows® Meは本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません(詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Outlook、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Adobe、AcrobatおよびAcrobatロゴはAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。携帯電話はソースネクスト株式会社の登録商標です。

「Ulead」/「VideoStudio」は、Ulead Systems, Inc.の登録商標です。

Pentiumは、Intel Corporationの登録商標です。

SpeedStepは、Intel Corporationの商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPIは、Microcom, Inc.の登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

AdaptecおよびAdaptec社のロゴは、Adaptec, Inc.の登録商標です。

Easy CD Creator、DirectCDは、Adaptec, Inc.の商標です。

cdmaOneは、CDGの登録商標です。

Sonic、Sonic Solutions、DVDIt!はSonic Solutionsの商標です。

「BIGLOBE」/「SmartGallery」/「イルミネーション・エンブレム」/「親子でね!っとりんく」は、日本電気株式会社の商標または登録商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation 2001

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

■ 輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等はありません。

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

■ Notes on export

This product(including software)is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.

Export of this product(including carrying it as personal baggage)may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

このパソコンの基本機能	1
本体の各部の名称	2
本体前面	2
本体背面	3
本体底面	4
表示ランプ	5
表示ランプの名称と役割	5
イルミネーション・エンブレム™	7
ワンタッチスタートボタン	9
ワンタッチスタートボタンを使う	9
ワンタッチスタートボタンの設定を変更する	11
キーボード	13
キーの名称	13
キーの使いかた	14
キーボードの設定をする	16
日本語入力を使う	18
NXパッド	19
NXパッドの使いかた	19
スクロールスライドスイッチを使う	20
NXパッドの設定をする	22
カラーコーディネートパネル	25
カラーコーディネートパネルをデザインする	25
インナーシートを変える	25
インナーシートを作成する	26
別売のカラーコーディネートパネルに変える	31
ハードディスク	32
ハードディスクを使用するときの注意	32
ハードディスクの領域の確保とフォーマット	33
FAT32ファイルシステムの利用	36
フロッピーディスクドライブ	39
名称と役割	39
このパソコンで使用できるフロッピーディスクの種類	39
フロッピーディスクドライブを使用するときの注意	39
フロッピーディスクのセットのしかたと取り出しかた	40
フロッピーディスクをフォーマットする	41

CD-R/RWドライブ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	42
名称と役割	42
使用できるディスク	42
使用するときの注意	44
ディスクのセットのしかたと取り出ししかた	45
音楽CDやDVD VIDEOディスクを再生する	48
Easy CD Creatorを使う	49
DirectCDを使う	51
液晶ディスプレイ	55
画面表示を調整する	55
表示できる解像度と表示色	57
バーチャルスクリーン	59
デュアルディスプレイ機能	60
バッテリー	62
バッテリーのみで使う	62
バッテリーを充電する	62
バッテリーの残量を確認する	64
バッテリーリフレッシュ	66
バッテリーパックを交換する	67
省電力機能	71
省電力機能とは	71
省電力機能を使用するときの注意	72
スタンバイ状態(サスペンド)	73
休止状態(ハイバネーション)	76
Intel® SpeedStep™テクノロジー	78
セキュリティ機能	81
このパソコンのセキュリティ機能	81
パスワードを設定してパソコンの利用者を制限する	81
その他のセキュリティ機能を使う	84
サウンド機能	86
音量を調節するには	86
音量調節つまみを使う	86
ボリュームコントロールを使う	86
ピープ音を設定する	89
光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について	89
音楽CDのデジタル出力設定	90

通信機能 91

モデム	92
内蔵のモデムを利用する	92
インターネットへの通信環境を切り替える	95
携帯電話 / PHS接続機能	96
携帯電話またはPHSと接続する	96
携帯電話 / PHS接続機能を使用するときの注意	97
接続先を設定する	98
ダイヤル設定のしかた	98
いろいろなデータ通信を行う	100
携帯電話連携機能	104
携帯電話連携機能とは	104
携帯電話に登録してある情報を編集する	104
iモード機能を備えている携帯電話と連携して使う	105
LAN(ローカルエリアネットワーク)	108
LANへの接続	108
運用上の注意	109
ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス)	111
CATVでインターネットを利用する	112
ホームネットワーク	113
パソコン間でホームネットワークを構築する	113
親子でね!っとりんくを追加する	114
親子でね!っとりんくを使う	117
親子でね!っとりんくを削除する	118

マルチメディア機能 119

音楽の再生 / 編集機能	120
音楽を再生するには	120
CDプレイモードで音楽CDを再生する	122
Windows Meを起動して音楽CDや音楽データを再生する	123
編集してオリジナルMDを作る	123
編集してオリジナル音楽CDを作る	125
映像の再生 / 編集機能	126
映像を再生する	126
映像を編集する	127

画像ファイルや映像ファイルを活用する	138
インターネットで映像を楽しむ	139
インターネットに映像を配信するには	139
ライブフォト/iを使って画像を配信する	139
ビデオ登録君を使って映像を配信する	142
DVD形式のビデオデータ作成機能	146
DVD形式のビデオデータの作成のしかた	146
DVDit!で編集できるデータにする	148
DVDit!で仕上げる	149
DVD形式のビデオデータを保存する	152
作成したDVD形式のビデオデータを再生する	154
マルチメディアファイルの管理機能	157
SmartGalleryとは	157
SmartGalleryを起動する	157
SmartGalleryについて	158
基本的な使いかた	161
SmartGalleryを活用する	165

周辺機器を使う 175

このパソコンに接続できる周辺機器	176
本体前面 / 左側面	176
本体背面	177
本体底面	178
周辺機器を接続する前に	179
周辺機器を利用する	179
周辺機器を利用するときの注意	179
周辺機器を使えるようにセットアップする	181
プリンタ	183
プリンタを接続する	183
プリンタを設定する	184
マウス	188
別売のマウスの設定方法	188
NXパッドを使用する設定に戻す	191
他社製のマウスイヤバを使用するときの注意	192
外部ディスプレイを使う	193

CRTディスプレイを使う	193
プロジェクタを使う	194
テレビを使う	195
表示するディスプレイを切り替える	195
接続した外部ディスプレイを設定する	196
PCカード	198
PCカードとPCカードスロットを使う	198
PCカードを使用するときの注意	199
PCカードのセットのしかたと取り出しかた	199
メモリ	203
メモリを増設する	203
増設RAMボードを取り扱うときの注意	203
増設RAMボードの取り付けかたと取り外しかた	204
IEEE1394コネクタ	210
IEEE1394とは	210
IEEE1394対応機器を接続する	210
IEEE1394コネクタでファイルを転送する	212
USB 対応機器	213
USBとは	213
USBコネクタに接続する	213
その他の機器を使う	217
その他の周辺機器について	217
ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ (S/PDIF) 出力端子 ..	217
シリアルコネクタ	218
パラレルコネクタ	219
マウス / テンキーボード用コネクタ	220

BIOSセットアップメニュー 221

BIOS セットアップメニュー	222
BIOSセットアップメニューを使ってできること	222
BIOSセットアップメニューを使う	222
BIOSセットアップメニューを終了する	223
工場出荷時の値に戻す	224
設定項目一覧	224
起動順位の設定	229

付録	231
パソコンのお手入れ	232
用意するもの	232
パソコンのお手入れをはじめる前に	232
お手入れのしかた	233
Windows 2000 Professionalを使う	234
Windows 2000 Professionalを使うための手順	234
機能一覧	235
本体	235
LaVie Gシリーズ	238
内蔵FAXモデム	241
携帯電話 / PHS接続機能	244
内蔵LAN機能	245
割り込みレベルとDMAチャンネル	246
割り込みレベルとDMAチャンネルについて	246
補足情報	248
サウンド機能について	248
索引	255

P A R T

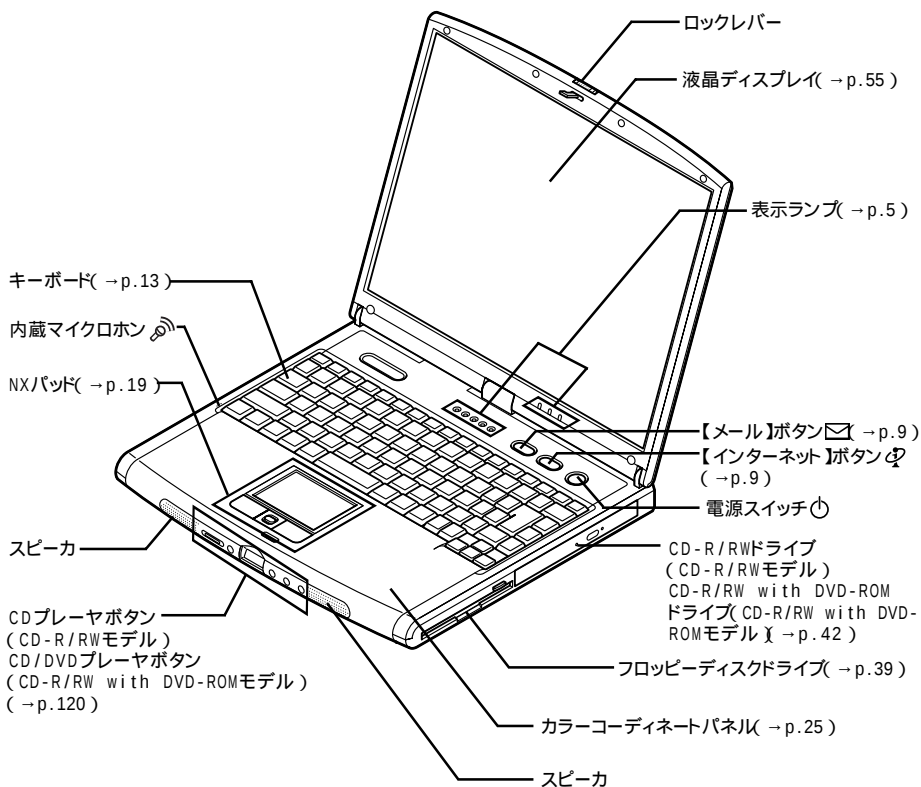
1

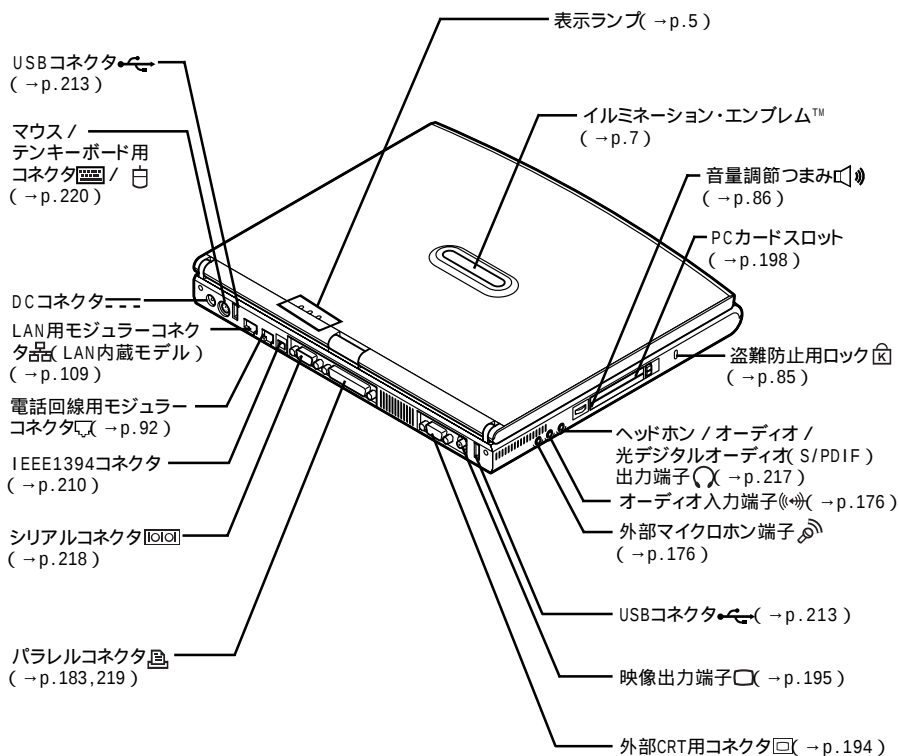
このパソコンの基本機能

このパソコンの各部の名称とおもな機能について
説明しています。

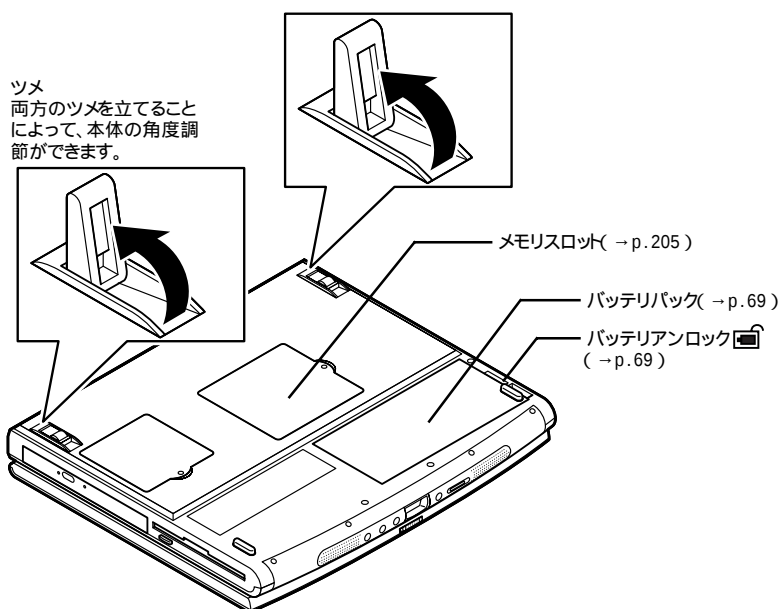
本体の各部の名称

本体前面



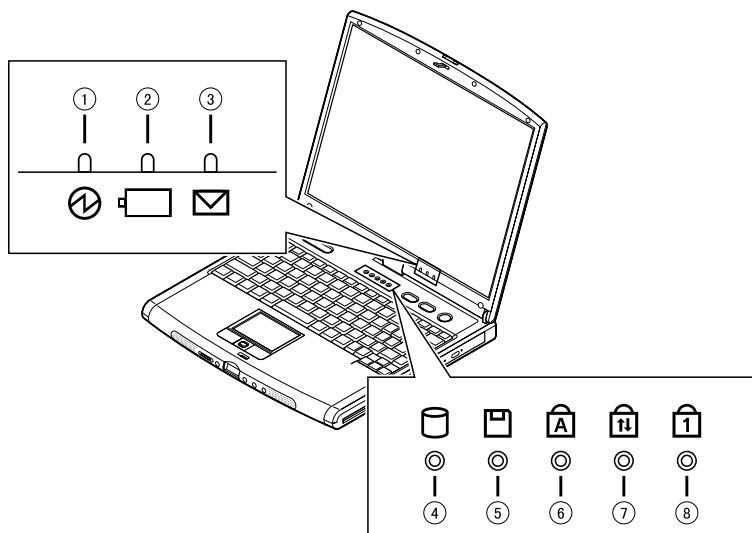


本体底面



表示ランプ

表示ランプの名称と役割



電源ランプ (⚡)

ランプ		状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態
黄色	点灯	バッテリー容量が少ない
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー容量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリー容量が残りわずか
	点滅	スタンバイ状態でバッテリー容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

バッテリー充電ランプ (🔋)

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリー充電中
	点滅	バッテリーのエラー
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

：バッテリーを取り付けなおしてもエラーが出るときは、バッテリーフレッシュを行ってください (→ p.66)。

メール着信ランプ(✉)

ランプ	状態
緑点灯	メール着信あり
消灯	メール着信なし

アクセスランプ(🔌)

ランプ	状態
緑点灯	ハードディスクやCD-ROMなどのディスクにアクセス中
消灯	ハードディスクやCD-ROMなどのディスクにアクセスしていない

フロッピーディスクアクセスランプ(🔌)

ランプ	状態
緑点灯	フロッピーディスクにアクセス中
消灯	フロッピーディスクにアクセスしていない

キャップスロックキーランプ(🔑)

ランプ	状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている 英字を入力すると大文字になります
消灯	【Caps Lock】がロックされていない 英字を入力すると小文字になります

スクロールロックキーランプ(🔑)

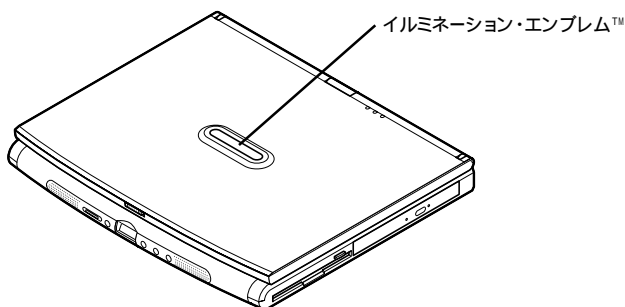
ランプ	状態
緑点灯	【Scr Lock】がロックされている
消灯	【Scr Lock】がロックされていない

ニューメリックロックキーランプ(🔑)

ランプ	状態
緑点灯	【Num Lock】がロックされている キーを押すとキー前面の文字が入力されます
消灯	【Num Lock】がロックされていない キーを押すとキー上面の文字が入力されます

イルミネーション・エンブレム™

イルミネーション・エンブレム™は、液晶ディスプレイの背面に搭載されているランプです。イルミネーション・エンブレム™には、誰からのメールが到着したのか、どのホームページが更新されたのかをランプの色で知らせる機能があります。また、インテリア感覚で常時ランプを点灯させておくこともできます。



イルミネーション・エンブレム™の設定をする

イルミネーション・エンブレム™は、7種類(赤、緑、黄、青、紫、水、白)の色に点灯させることができます。また点灯の方法として次のような設定ができます。

- ・ 1色を点灯させる
- ・ 定期的に色を変更しながら点灯させる
- ・ Windows起動時に点灯させる

■ イルミネーション・エンブレム™を点灯させる

- 1色を点灯させる

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「イルミネーション・エンブレム(™)」→「イルミネーション・エンブレム(™)の設定」をクリックする
イルミネーション・エンブレム(™)の設定が起動します。
- 2 点灯のON/OFFボタン  がグレー表示(OFF状態)になっている場合は、クリックして点灯をONにする
- 3 「定期的に色を変更しながら点灯する」が ☒ になっている場合は ☐ にする
- 4 点灯させたい色のボタンをクリックする
- 5 「OK」ボタンをクリックする

- 定期的に色を変更しながら点灯させる
「定期的に色を変更しながら点灯する」を☒に設定してある場合は、指定した点灯間隔(1～60秒)ごとに色を変更しながら点灯させることができます。

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「イルミネーション・エンブレム(TM)」
→「イルミネーション・エンブレム(TM)の設定」をクリックする
イルミネーション・エンブレム(TM)の設定が起動します。

2 点灯のON/OFFボタンがグレー表示(OFF状態)になっている場合は、
クリックして点灯をONにする

3 「定期的に色を変更しながら点灯する」が☐になっている場合は☒にする

4 色を変更する時間を設定する
「点灯間隔」のつまみを左右にドラッグして設定します。



メモ

右へ動かすと点灯間隔が長くなり、左へ動かすと点灯間隔が短くなります。
設定は、最小1秒、最大60秒間隔で1秒ごとに設定できます。

5 「OK」ボタンをクリックする

- Windows起動時に点灯させる

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「イルミネーション・エンブレム(TM)」
→「イルミネーション・エンブレム(TM)の設定」をクリックする
「イルミネーション・エンブレム(TM)の設定」が起動します。

2 点灯のON/OFFボタンがグレー表示(OFF状態)になっている場合は、
クリックして点灯をONにする

3 「コンピュータ起動時に点灯する」が☐になっている場合は、☒にする

4 「OK」ボタンをクリックする

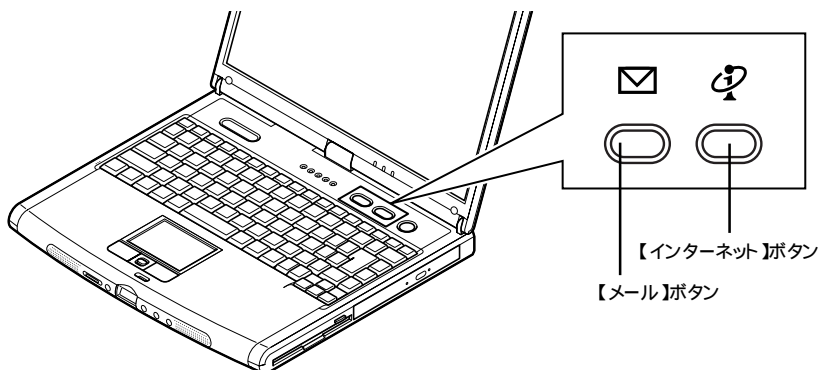
イルミネーション・エンブレム™を使用するときの注意

- ・イルミネーション・エンブレム™は、電源が入っている状態のときに機能します。
スタンバイ状態または休止状態では機能しません。
- ・自動メール受信ユーティリティを使用してメールの到着確認やホームページの
更新チェックを行っている場合は、自動メール受信ユーティリティの設定が優先
となるため、「イルミネーション・エンブレム(TM)の設定」で行った設定どおりに
イルミネーション・エンブレム™を点灯させることはできません。

ワンタッチスタートボタン

ワンタッチスタートボタンを使う

このパソコンには次のワンタッチスタートボタンがあります。



チェック

セーフモードなど、Windows Meのキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンの機能は使えません。

【インターネット】ボタン

■ 電源がONの状態の場合

パソコンの電源がONの状態では【インターネット】ボタンを押すと、インターネットへの接続がはじまります。購入時の状態では、「インターネット無料体験」が起動するように設定されています。設定を変更すると「Internet Explorer」などのインターネットブラウザを起動することができます。



参照

【インターネット】ボタンの設定 → 「【インターネット】ボタン / 【メール】ボタンの設定をする」(p.11)

■ 電源がOFFの状態 / スタンバイ状態の場合

パソコンの電源がOFFの状態、またはスタンバイ状態で、【インターネット】ボタンを押すと、電源がONになり、インターネットの接続が始まります。購入時の状態では、「インターネット無料体験」が起動するように設定されています。設定を変更すると、「Internet Explorer」などのインターネットブラウザを起動することができます。



参照

【インターネット】ボタンの設定 → 「【インターネット】ボタン / 【メール】ボタンの設定をする」 (p.11)

【メール】ボタン

■ 電源がONの状態の場合

パソコンの電源がONの状態では【メール】ボタンを押すと、メールソフトが起動します。購入時の状態では、「メールボタン利用のご案内」が表示されます。設定を変更すると、「Outlook Express」などのメールソフトを起動することができます。



参照

【メール】ボタンの設定 → 「【インターネット】ボタン / 【メール】ボタンの設定をする」 (p.11)

■ 電源がOFFの状態 / スタンバイ状態の場合

パソコンの電源がOFFの状態、またはスタンバイ状態で、【メール】ボタンを押すと、電源がONになり、メールソフトが起動します。購入時の状態では、「メールボタン利用のご案内」が表示されます。設定を変更すると、「Outlook Express」などのメールソフトを起動することができます。



参照

【メール】ボタンの設定 → 「【インターネット】ボタン / 【メール】ボタンの設定をする」 (p.11)

ワンタッチスタートボタンの設定を変更する

【インターネット】ボタン / 【メール】ボタンの設定をする

【インターネット】ボタン / 【メール】ボタンの設定は、「ワンタッチスタートボタンの設定」を使って行います。

■ 「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定」をクリックする
「ワンタッチスタートボタンの設定」の画面が表示されます。



チェック

ショートカット(拡張子が .lnk のファイル)で、プロパティの「ショートカット」タブの「リンク先」に何も表示されていないファイルは、ワンタッチスタートボタンに登録してもショートカットが表示されません。
登録後正常に実行されない場合は、そのショートカットを右クリックし、プロパティの内容を確認してください。



メモ

インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックして起動することもできます。



参照

ワンタッチスタートボタンの設定→「添付ソフトの使い方」・「ワンタッチスタートボタンの設定」または「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」



メモ

「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」は、「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」→「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」をクリックすると表示できます。

ワンタッチスタートボタンの有効 / 無効を切り替える

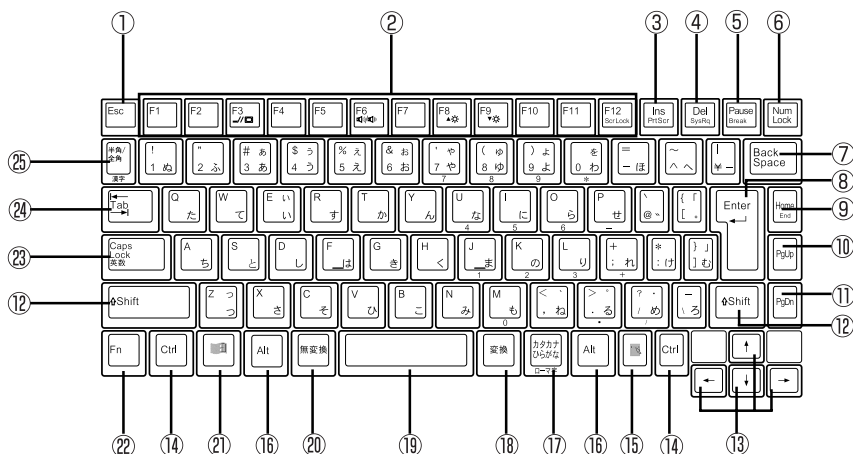
次の操作でワンタッチスタートボタンの有効 / 無効を切り替えることができます。

- 1** 「スタート」ボタン→「プログラム」→「ワンタッチスタートボタンの設定」で、「ワンタッチスタートボタンを無効にする」または「ワンタッチスタートボタンを有効にする」をクリックする
ワンタッチスタートボタンが無効の状態のときは「ワンタッチスタートボタンを有効にする」が表示され、有効の状態のときは「ワンタッチスタートボタンを無効にする」が表示されています。
- 2** ワンタッチスタートボタンを有効または無効にするメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする
- 3** 再起動を促すメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

再起動後、ワンタッチスタートボタンの有効 / 無効が切り替わります。

キーボード

キーの名称



- ①【Esc】: エスケープキー
- ②【F1】～【F12】: ファンクションキー
- ③【Ins】: インサートキー
- ④【Del】: デリートキー
- ⑤【Pause】: ポーズキー
- ⑥【Num Lock】: ニューメリックロックキー
- ⑦【Back Space】: バックスペースキー
- ⑧【Enter】: エンターキー（リターンキー）
- ⑨【Home】: ホームキー
- ⑩【PgUp】: ページアップキー
- ⑪【PgDn】: ページダウンキー
- ⑫【Shift】: シフトキー
- ⑬【↑】【↓】【←】【→】: カーソル移動キー
- ⑭【Ctrl】: コントロールキー
- ⑮【⊞】: アプリケーションキー
- ⑯【Alt】: オルトキー
- ⑰【カタカナ ひらがな】: かなキー
- ⑱【変換】: 変換キー
- ⑲スペースキー
- ⑳【無変換】: 無変換キー
- ㉑【⊞】: Windowsキー
- ㉒【Fn】: エフエヌキー
- ㉓【Caps Lock】: キャップスロックキー
- ㉔【Tab】: タブキー
- ㉕【半角 / 全角】: 半角 / 全角キー

キーの使いかた

特殊なキーを使う

キー操作	説 明
【Num Lock】	一度押すとニューメリックロックキーランプ()が点灯し、キー前面に青で表示されている数字や記号が入力できるようになります。もう一度押すとランプは消灯し、キー上面の文字が入力できるようになります。
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプ()が点灯し、アルファベットを入力すると大文字が入力されます。もう一度押すとランプは消灯し、アルファベットを入力すると小文字が入力されます。
【Alt】+【半角 / 全角】 または 【半角 / 全角】	押すごとに、日本語入力システムのオン / オフが切り替わります。
【Alt】+ 【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっているとき、一度押すと英数字を入力できるようになります。
【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっているとき、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します(→ p.15)
【  】	右クリックするのと同じ機能があります。
【  】	「スタート」ボタンをクリックするのと同じ機能があります。
【  】+【R】	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを表示します。
【  】+【M】	現在起動しているウィンドウをすべてアイコン化します。
【Shift】+【  】+【M】	【  】+【M】でアイコン化したウィンドウを元に戻します。
【  】+【F1】	Windowsのヘルプを表示します。
【  】+【F】	ファイルやフォルダを検索するウィンドウを表示します。
【Ctrl】+【  】+【F】	コンピュータを検索するウィンドウを表示します。
【  】+【Tab】	タスクバーに表示されているボタンを順番に切り替えます。

ホットキー機能を使う

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、パソコンの設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。

組み合わせが可能なキーとその機能のアイコンは、【Fn】と同じ色(青)でキー上面に印刷されているものもあります。

キー操作	機能	説明
【Fn】+【F3】	ディスプレイの切り替え ( / )	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」→「テレビ」→「液晶ディスプレイ」→「CRT」の順に切り替わります(→p.195)。
【Fn】+【F5】	画面の伸縮	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する/しないを切り替えます。
【Fn】+【F6】	ビープ音量調節 ( / )	ビープ音のオン/オフを設定します(→p.89)。
【Fn】+【F8】	輝度を上げる ( /☀)	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階) (→p.55)。
【Fn】+【F9】	輝度を下げる (☾/ )	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階) (→p.55)。
【Fn】+【F12】	スクロールロック	【Scr Lock】の役割
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】+ 	右Windows	右  の役割
【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】+【Home】	End	【End】の役割

: テレビが接続されているときのみ切り替わります。



メモ

【Fn】+【F3】～【F12】で設定した内容は、電源を切ったり再起動したりすると解除されます(【Fn】+【F8】、【F9】を除く)。

キーボードの設定をする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「キーボード」アイコンをダブルクリックする
「キーボードのプロパティ」が表示されます。



「キーボードのプロパティ」では、ウィンドウ左上の「速度」「言語」の各タブを選ぶと、次のような設定を行うことができます。

- ・文字入力時のくりかえし入力タイミグ調節
- ・カーソルの点滅速度の調節
- ・日本語入力システムの選択
- ・レイアウトの設定

「速度」タブでの設定

- 表示までの待ち時間
一つのキーを押し続けたときに、入力のくりかえしがはじまるまでの時間を調節します。
- 表示の間隔
一つのキーを押し続けたときに、文字の入力がくりかえされる間隔を調節します。
- カーソルの点滅速度
カーソルの点滅間隔を調節します。

「言語」タブでの設定

- 追加
「追加」ボタンをクリックして「入力言語の追加」または「言語の追加」ウィンドウを表示させ、追加したい言語を選びます。

- プロパティ
日本語入力システムを一覧から選んで、「プロパティ」ボタンをクリックすると、環境設定のウィンドウが表示されます。「ローマ字 / かな入力」、「入力モード / 方式」、「句読点の種類」などを設定できます。
- 削除
削除したい言語を一覧から選んで、「削除」ボタンをクリックすると、その言語が一覧から削除されます。
- キーの設定
入力言語の切り替えを行うキーの組み合わせを選ぶことができます。
- タスクバー上に状態を表示(MS - IME2000の場合)
「タスクバー上に状態を表示」をクリックして☒にすると、日本語や日本語入力システムを簡単に切り替えることができるメニューをタスクバーに表示できます。
- 言語バーをデスクトップ上に表示する(MS - IME2002の場合)
「基本設定」欄の「言語バー」ボタンをクリックして「言語バーをデスクトップ上に表示する」を☒にすると、日本語や日本語入力システムを簡単に切り替えることができるメニューをデスクトップに表示できます。

別売のキーボードやテンキーボードを使うには

別売のテンキーボードやキーボードを接続して使用することができます。
テンキーボードは本体背面のマウス / テンキーボード用コネクタ( / )に接続します。キーボードはUSB対応のキーボードを本体背面のUSBコネクタ()に接続することができます。



参照

- ・別売のテンキーボードやキーボードの接続 → PART4の「その他の機器を使う」の「マウス / テンキーボード用コネクタ」(p.220)
- ・別売のUSB対応キーボードの接続 → PART4の「USB対応機器」(p.213)

日本語入力を使う

このパソコンでは、日本語入力システムとしてMS-IME2002またはMS-IME2000を使用できます。

日本語入力システムのオン / オフを切り替える

日本語入力システムのオン / オフを切り替えるときは、【半角 / 全角】または【Alt】+【半角 / 全角】を押します。日本語入力システムがオンになると、日本語入力システムのツールバーが表示されます。オン / オフは、キーを押すごとに切り替えることができます。



メモ

MS-IME2000の場合は、インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをクリックして表示されるメニューでオン / オフを切り替えることもできます。日本語入力システムがオンのときは、はになっています。

日本語を入力する

日本語入力システムの詳しい使いかたは、日本語入力システムの「ヘルプ」を利用してください。



参照

日本語入力の練習をする→「パソコンのいろは」→「ステップ4 日本語の入力」

■ MS-IME2002の「ヘルプ」を使う

- 1 MS-IME2002のツールバーからをクリックする
- 2 メニューの「言語バーのヘルプ」をクリックする
- 3 表示されたヘルプ画面で、調べたい項目をダブルクリックする
ヘルプを終了したいときは、をクリックします。

■ MS-IME2000の「ヘルプ」を使う

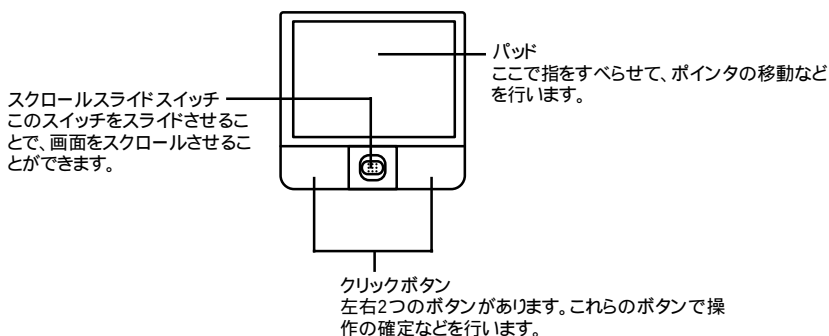
- 1 MS-IME2000のツールバーからをクリックする
- 2 メニューの「目次とキーワード」をクリックする
- 3 表示されたヘルプ画面で、調べたい項目をダブルクリックする
ヘルプを終了したいときは、をクリックします。

NX パッド

NX パッドの使いかた

このパソコンにはポインティングデバイスとしてNXパッドが内蔵されています。

名称と役割

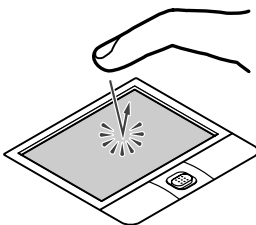


パッドのみを使って操作する

NXパッドではクリックボタンを使わずにパッドのみを使って操作することもできます。

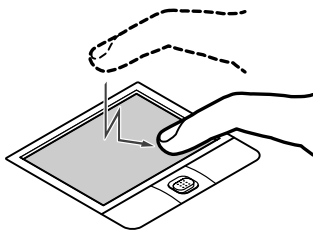
- **タップとダブルタップ**

指先で軽くパッドをたたく操作です。1回たたくことを「タップ」、2回続けてたたくことを「ダブルタップ」といいます。それぞれクリック、ダブルクリックするのと同じことです。



- ドラッグ

アイコンやフォルダの上にポインタを合わせた状態で、パッドに2回続けて触れ、2回目に触れたときにパッドから指を離さずにすべらせるとドラッグできます。



参照

NXパッドの使いかたを練習する→「パソコンのいろは」-ステップ1の「NXパッドに慣れる」

スクロールスライドスイッチを使う

スクロールスライドスイッチを使うと、画面を上下左右にスクロールさせたり、画面を拡大縮小させることができます。



チェック

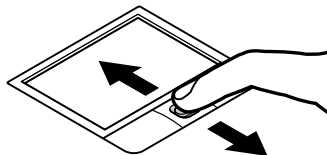
スクロールスライドスイッチの機能に対応していないアプリケーションではスクロールスライドスイッチを使用できません。

- 画面を上下方向にスクロールさせる

1 アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックする

2 スクロールスライドスイッチをパッド側、または手前にスライドさせる
パッド側にスライドさせると画面が上にスクロールし、手前にスライドさせると画面が下にスクロールします。

また、スクロールスライドスイッチをスライドさせたままにすることで、連続して画面をスクロールさせることができます。

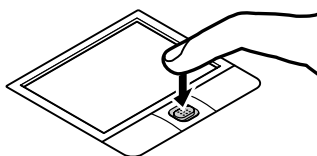


チェック

スクロールスライドスイッチを押した状態でスライドさせようとしてもスクロールしないことがあります。スクロールさせるときは、スクロールスライドスイッチを押さずに軽く指をおいてスライドさせてください。

- 画面を上下、左右方向にスクロールさせる

- 1 スクロールさせたい画面にポインタを移動する
- 2 スクロールスライドスイッチを押す
ポインタの形がやに変わります。



チェック

スクロールスライドスイッチを押すときは、スイッチをスライドさせないように注意してください。スライドさせた場合、通常の上方向のスクロール機能が働きます。

- 3 ポインタの形が変わったら、パッドを使ってスクロールさせる
パッド上で指をすべらせた方向にスクロールします。
パッドによるスクロールを終了したい場合は、もう一度、スクロールスライドスイッチを押してください。ポインタの形が元に戻ります。



チェック

- ・ アプリケーションによってスクロールできる方向は異なります。
- ・ ポインタの形がのときは、上下方向にのみスクロールできます。

- ズーム機能を使う



チェック

アプリケーションによってはこの機能は使用できません。

- 1 拡大、縮小したい画面にポインタを動かす
 - 2 キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールスライドスイッチをパッド側に、または手前にスライドさせる
パッド側にスライドさせると画面の表示が拡大され、手前にスライドさせると縮小します。
- NXパッドの一時的なオン / オフ機能として使う
スクロールスライドスイッチを使って、NXパッドを一時的にオンまたはオフにすることができます(→ p.22)

NXパッドの設定をする

WindowsでNXパッドをより使いやすく設定することができます。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
「マウスのプロパティ」が表示されます。



「マウスのプロパティ」では、ウィンドウの左上の各タブを選ぶと、次のような設定を行うことができます。

- ・ ボタンの設定
- ・ オートジャンプの設定
- ・ オートスクロール機能
- ・ タッピングの調節
- ・ ポインタデザインの選択
- ・ ジェスチャーの調節 (NXパッド使用時のみ設定可能)
- ・ NXパッドの動作の調節
- ・ その他

「ボタン」タブの設定

- ボタン設定
左右のクリックボタンの設定や、スクロールスライドスイッチ(スライドスイッチ)の設定ができます。
- ダブルクリック速度
ダブルクリックのクリック間隔の調整を行います。
- スクロールロック機能
スクロール中にスライドスイッチを押すと、スクロールを継続させることができます。スクロールロック機能は、クリックボタンやスライドスイッチを押すか、タップすることで解除できます。



チェック

スクロールロック機能を解除しないと、自動的にスタンバイ状態にならない場合があります。

「ポインタ」タブの設定

- デザイン
ポインタのデザインを変更することができます。

「動作」タブの設定

- 速度と加速度
ポインタの動作速度を調節します。
- アクセラレーション
パッド上で指をすばやく動かすことで、ポインタの移動速度を「速度」欄で設定した以上に速くすることができます。パッド上でゆっくり指を動かしたときは、「速度」欄で設定した速度で動きます。
- オートジャンプ
ウィンドウやダイアログボックスを開いたときに、ポインタをボタンの上に自動的に合わせるように設定できます。
- 軌跡
「表示する」を ☒ にすると、ポインタの軌跡が表示されます。

「タッピング」タブの設定

- タッピング
☐ にすると、タップが効かないように設定できます。
- タッピング速度
タップする速度を調節します。タップの間隔(指をパッドに触れてから離すまで)を調整することで、間違っただけではタップにならないように設定できます。
- ドラッグロックの設定
パッド上でドラッグをしている場合のドラッグロックの設定ができます。ドラッグしている途中でパッドから指を離しても、ドラッグしたままの状態を保つことができます。
- タイピング
キー入力時に間違っただけでタップされたり、ポインタが移動するのを防ぐことができます。

「ジェスチャー」タブの設定

- コーナータップ
パッドの左上角や右上角をタップする動作に、次の機能を割り当てることができます。
 - ・ ショートカットメニューの表示
 - ・ 全ウィンドウ最小化
 - ・ オートスクロール
 - ・ 最近使ったファイルの表示
 - ・ イージーキャプチャー
 - ・ お気に入りの表示



メモ

イーजीキャプチャーは、「ペイント」などのアプリケーションを起動しなくても、NXパッドを操作して簡単な絵を作成し、起動中のアプリケーションに貼り付けることができる機能です。

- ブラウザ補助機能

パッドの上端を左右どちらかになぞって指を離すと、ブラウザの「進む」「戻る」の操作ができます。

- スクロール機能

「スクロール機能を使う」を ☒ にして「設定」ボタンを選ぶと、次の各機能を使うように設定できます。

- ・ スクロール速度

スクロールする速度を設定することができます。

- ・ スクロール領域

パッド上のスクロール機能で使用する部分を「スクロール領域」といいます。スクロール領域の広さを変更することができます。

「その他」タブの設定

- トレイアイコン

「タスクバーにアイコンを表示する」を ☐ にすると、インジケータ領域(タスクトレイ)にNXパッドのアイコンが表示されなくなります。

- IMEキャプチャー

IMEパッドの手書き入力エリアでタップすると、絶対座標モードで入力できるようになります。「使用する」を ☒ にすると、この機能が有効になります。

- イーजीキャプチャーの設定

「イーजीキャプチャーの設定」ボタンを選ぶと、次の各設定を変更できます。

イーजीキャプチャーは、「ジェスチャー」タブの中の「左(または右)コーナータップ」で割り当てることができます。

- ・ キャンバスサイズ

使用するキャンバスの幅、高さを変更できます。

- ・ 線の種類

使用する線の太さ、色を変更できます。

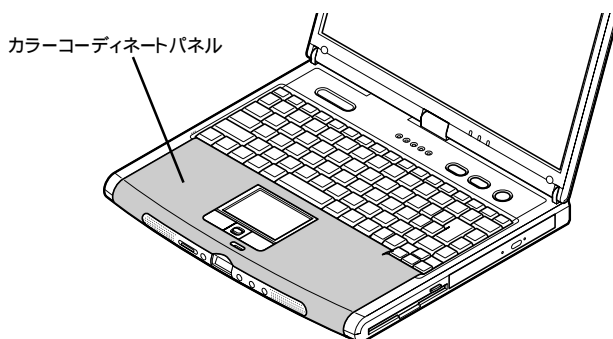
- ・ オプション

「前回のイメージを保存する」を ☒ にすると、イーजीキャプチャーで描いたイメージが保存され、次回イーजीキャプチャーを開いたときに表示されます。

カラーコーディネートパネル

カラーコーディネートパネルをデザインする

カラーコーディネートパネルとは、このパソコンのパームレスト部分にあたるパネル部分のことです。このカラーコーディネートパネルは取り外すことができ、本体とカラーコーディネートパネルの間にデザインされたシート(インナーシート)をはさみこんだり、別売のカラーコーディネートパネルに変更したりしてパソコンの外観を自由にすることができます。



チェック

LC800J、LC750Jをお使いの場合、カラーコーディネートパネルの色が濃い場合、インナーシートを利用できません。インナーシートをはさみこむ場合は、別売の半透明のカラーコーディネートパネルを用意してください(→p.31)。

また、LaVie Gシリーズで色の濃いカラーコーディネートパネルのモデルを購入された場合も同様に、別売の半透明のカラーコーディネートパネルが必要になります。

インナーシートを変える

インナーシートクリエイターを使ってインナーシートを作成し、本体とカラーコーディネートパネルの間にインナーシートをはさみこみます。

インナーシートを変更する手順

- 1 インナーシートのデザインを選ぶ
インナーシートクリエイターを使ってインナーシートを作成します。



参照

インナーシートクリエータの使いかた→次の「インナーシートを作成する」または
インナーシートクリエータのオンラインヘルプ

2 インナーシートを印刷する

インナーシートは2つに分割して印刷されます。



参照

- ・プリンタの接続のしかた→PART4の「プリンタ」(p.183) またはお使いの
プリンタに添付のマニュアル
- ・印刷のしかた→インナーシートクリエータのオンラインヘルプ

3 印刷できたインナーシートの「 右 」と書かれているシートを切り取る

4 切り取った「 右 」のシートを「 左 」と書かれているシートに貼り付ける のりしろ(「 ノリ 」と書かれている5ミリ程のところ)に貼り付けます。

5 「 左 」と書かれているシートを切り取る

6 カラーコーディネートパネルを取り外す



参照

カラーコーディネートパネルの取り外しかた→「カラーコーディネートパネルを取り
外す」(p.28)

7 インナーシートをセットする

8 カラーコーディネートパネルを取り付ける



参照

カラーコーディネートパネルの取り付けかた→「カラーコーディネートパネルを
取り付ける」(p.29)

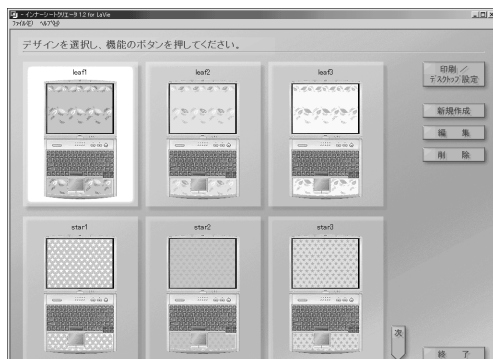
インナーシートを作成する

「インナーシートクリエータ」は、インナーシートを作成、編集、印刷するためのアプリケーションです。

インナーシートクリエータを使って、すでに用意されているデザインの中からお気に入り
のインナーシートを選んだり、好きな画像データを使ってオリジナルデザインの
インナーシートを作成することができます。

■ インナーシートクリエータを起動する

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「インナーシートクリエータ」→「インナーシートクリエータ」をクリックする
インナーシートクリエータの画面が表示されます。



2 インナーシートを選ぶ

すでに用意されているデザインから選ぶ場合は、表示されているデザインの中から気に入ったものをクリックします。

新たにオリジナルの画像ファイルなどを使ってインナーシートを作成する場合は、「新規作成」ボタンをクリックし、使用するファイルを選びます。

3 デザインを編集する場合は「編集」ボタンをクリックし、表示される手順にしたがってインナーシートを完成させる

4 インナーシートが完成したら「印刷 / デスクトップ設定」ボタンをクリックして印刷する

■ インナーシートに合わせてディスプレイの壁紙を変える

インナーシートクリエータを使って、画面の壁紙をインナーシートに合わせた壁紙に変えることができます。

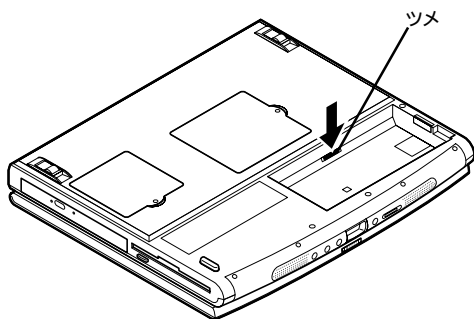


参照

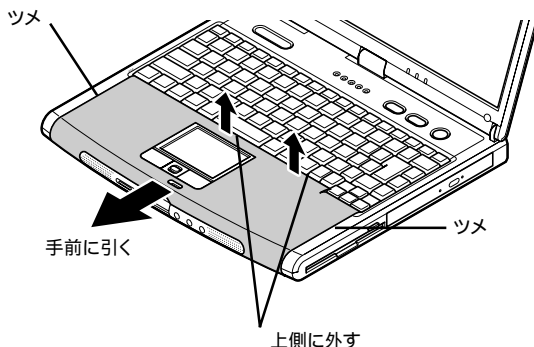
壁紙を変える→インナーシートクリエータのオンラインヘルプ

■ カラーコーディネートパネルを取り外す

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 ACアダプタを取り付けている場合は、ACアダプタを取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す
- 4 バッテリーパックを取り外す(→ p.69)
- 5 図のツメを硬貨などを使って押す

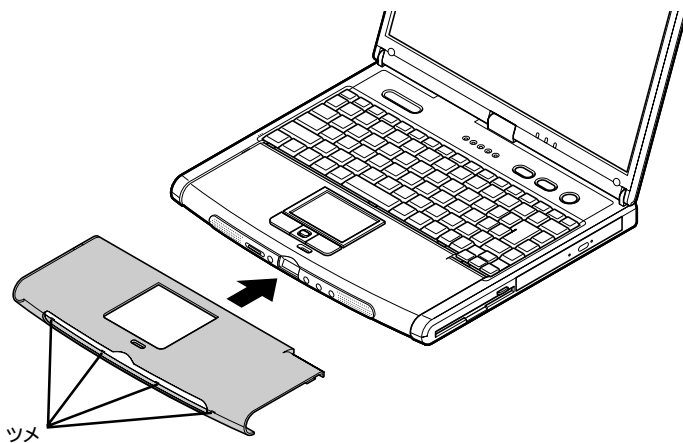


- 6 液晶ディスプレイ側が上になるように本体をもう一度裏返してから、液晶ディスプレイを開ける
- 7 図の位置にあるカラーコーディネートパネルと本体の隙間に指を入れて上側に外し、カラーコーディネートパネルの両側面にあるツメが外れたら、手前側に引き抜く

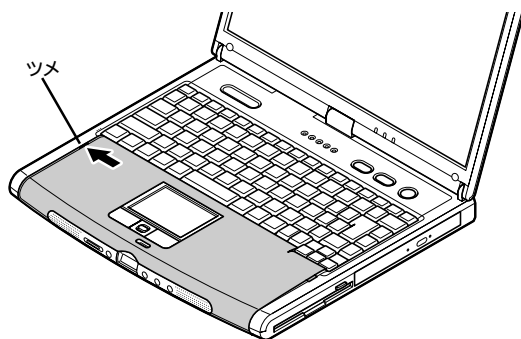


■ カラーコーディネートパネルを取り付ける

1 カラーコーディネートパネルの底面にあるツメを本体に差し込む



2 カラーコーディネートパネルの左側のツメを差し込む

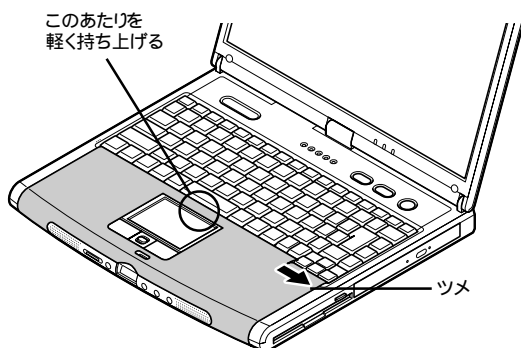


- 3** カラーコーディネートパネルの図の位置を軽く持ち上げ、右側のツメを本体に差し込む

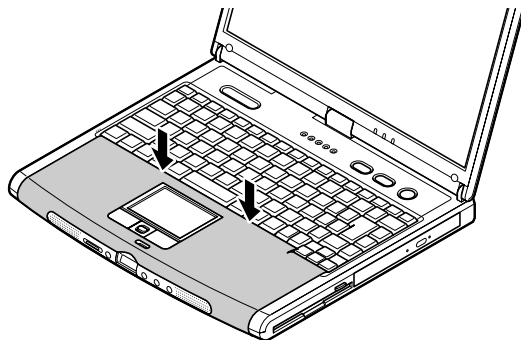


チェック

強く持ち上げすぎると、カラーコーディネートパネルを破損することがありますので注意してください。



- 4** 図の矢印のあたりを押して、カラーコーディネートパネルのツメを本体に差し込む



- 5** 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す

- 6** バッテリーパックを取り付ける(→p.70)

別売のカラーコーディネートパネルに変える

このパソコンのカラーコーディネートパネルを別売のカラーコーディネートパネルに変更することができます。別売のカラーコーディネートパネルとして次のものが用意されています。

- PC-VP-WS02 カラーコーディネートパネル (SB)<Submarine Blue Metallic>
- PC-VP-WS04 カラーコーディネートパネル (CB)<Clear Blue>
- PC-VP-WS05 カラーコーディネートパネル (CL)<Clear>

ハードディスク

ハードディスクを使用するときの注意

ハードディスクとは

ハードディスクとは、Windows Meやアプリケーションなどのソフトウェア、またはそれらで作成したデータを記録し、読み出すための装置です。非常に精密な機械なので、強い衝撃や過度の重量などが加わらないように注意してください。



チェック

データの読み書き中(アクセスランプ()の点灯中)は少しの衝撃が故障の原因となる場合がありますので注意してください。

データのバックアップについて

ハードディスクが故障すると、大切なデータが失われてしまうことがあります。特に、自分で作成したデータなどは再セットアップしても元通りにはできません。大切なデータは、フロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどのハードディスク以外の媒体にこまめにバックアップ(コピー)をとっておくことをおすすめします。



参照

バックアップの取りかた →『困ったときのQ&A』PART1の「トラブルの予防」または「サポートセンター」の「トラブルの予防」-「大事なデータはバックアップを取ろう」

ハードディスクの購入時の状態

このパソコンは購入時、ハードディスク全容量の75%がCドライブ、残りの25%がDドライブに割り当てられており、次のように領域が作成されています。

例：ハードディスクの全容量が「20Gバイト」の場合

Cドライブ：約15Gバイト(FAT32)

Dドライブ：約5Gバイト(FAT32)



参照

FAT32について →「FAT32ファイルシステムの利用」(p. 36)

ハードディスクの領域の確保とフォーマット

ハードディスクの領域を削除した場合や、新たにハードディスクを増設した場合などには、ハードディスクの領域の確保とフォーマットが必要です。

ハードディスクの領域の確保とフォーマットは、「容量の確認」→「領域の確保」→「フォーマット」の順に行います。

ハードディスクの容量の確認

はじめに、領域を確保しようとしているハードディスクの容量を確認します。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「MS-DOSプロンプト」をクリックする
次のように表示されます。

C : ¥WINDOWS >

- 2 次のように入力する

FDISK 

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。



メモ

「FDISK」コマンドは「領域の確保」「領域の削除」「ハードディスクの状態の確認」を行うプログラムです。

- 3 「Y」を選んで【Enter】を押す
「FDISKオプション」の画面が表示されます。
- 4 「4」を入力し、【Enter】を押す
- 5 表示された画面でハードディスクの容量を確認する
- 6 【Esc】を押す
- 7 【Esc】を押す
次のように表示されます。

C : ¥WINDOWS >

ハードディスクの領域の確保

1 次のように入力する

- ・ハードディスクの総容量が8,192Mバイト以下の場合

FDISK /x 

- ・ハードディスクの総容量が8,193Mバイト以上の場合

FDISK 

「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか(Y/N)」と表示されます。

2 「Y」を入力し【Enter】を押す

FAT32ファイルシステムで領域を作成します。

より効率よく大容量ハードディスクを利用することができます。

「N」を入力した場合は、FAT16ファイルシステムで領域を作成します。

最大2Gバイトまでの容量をひとつのドライブとして扱えます。

「FDISKオプション」の画面が表示されます。

3 「1」を入力し【Enter】を押す

領域を作成する画面が表示されます。

4 「2」を入力し【Enter】を押す

「領域のサイズをMバイトか全体に対する割合(%)で入力してください。拡張MS-DOS領域を作ります」と表示されます。



チェック

確保される領域は、入力した領域サイズよりも大きくなる場合があります。例えば、FAT16で2,047Mバイトを取得しようすると、2,052Mバイトなどの値になり、FAT16で取得できない場合があります。このような場合は、2,047Mバイトより小さい値で入力してください。

5 【Enter】を押す

「拡張MS-DOS領域を作成しました。」と表示されます。

6 【Esc】を押す

7 サイズを入力して【Enter】を押す

8 拡張MS-DOS領域がなくなるまで手順7をくりかえし、すべての拡張MS-DOS領域を論理ドライブに割り当てる

9 【Esc】を3回押す
次のように表示されます。

C: ¥WINDOWS >

10 次のように入力する

EXIT 

Windows Meの画面に戻ります。

11 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」でをクリックして「再起動」を選び、「OK」ボタンをクリックする
再起動します。

ハードディスクをフォーマットする

領域を確保したら、続いてハードディスクをフォーマットします。

1 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする

2 新たに領域を確保したドライブをクリックする

3 「ファイル」メニュー→「フォーマット」をクリックする
「フォーマット」の画面が表示されます。

4 「通常のフォーマット」をクリックする

5 「開始」ボタンをクリックする
確認の画面が表示されます。

6 「OK」ボタンをクリックする
フォーマットがはじまります。
しばらくすると、フォーマットが終了してフォーマットの結果が表示されます。

7 「閉じる」ボタンをクリックする
スキャンディスクの実行を促す画面とヘルプが表示されます。

8 「OK」ボタンをクリックする

9 「フォーマット」ウィンドウをクリックする

10 「閉じる」ボタンをクリックする

11 ヘルプにしたがって、スキャンディスクを実行する
複数のドライブをフォーマットしたいときは、手順2～11の操作をくりかえしてください。

FAT32ファイルシステムの利用

FATとは

FAT(File Allocation Table)ファイルシステムとは、MS-DOSやWindowsで、ディスクのどの場所にどのようなファイルがあるかを記録 / 管理するシステムのことです。Windows Meでは次の2つのFATファイルシステムをサポートしています。

- FAT32

FAT16を拡張したファイルシステムです。FAT32では理論上2Tバイト(2,048Gバイト)までの容量を扱うことができます。またFAT16よりも効率よく大容量ハードディスクを利用することができます。



参照

FAT32に関する情報 → 「Windows」フォルダのGENERAL.TXT

- FAT16

MS-DOSや従来のWindowsで使われている基本的なファイルシステムです。最大2Gバイトまでの容量をひとつのドライブとして扱うことができます。

FAT32ファイルシステムを使用するときの注意

FAT32を使用するときは、次の注意事項を確認してから使用してください。

- ・ FAT32はこのパソコンにインストールされているWindows Meでのみ使うことができます。
- ・ 購入時の状態では、FAT32ファイルシステムでハードディスクの領域が確保されています。購入時の状態で使用する場合は、ここでFAT32の設定を行う必要はありません。
- ・ 別売のアプリケーションによっては正しく動作しないことがあります。
- ・ スキャンディスク、バックアップ、およびデフラグなど、「アクセサリ」の「システムツール」にあるディスク管理ツールはFAT32に対応しています。ただし、「ドライブスペース」でFAT32のドライブを圧縮することはできません。

「FDISK」コマンドでFAT32の領域を作成する

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「MS-DOSプロンプト」をクリックする

「MS-DOSプロンプト」の画面が表示されます。

- 2 次のように入力する

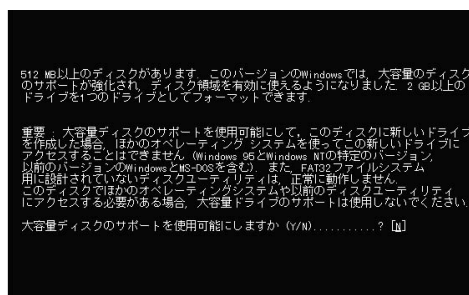
・ハードディスクの総容量が8,192Mバイト以下の場合

FDISK /x 

・ハードディスクの総容量が8,193Mバイト以上の場合

FDISK 

ハードディスクの容量が512Mバイト以上のときは、次のような大容量ディスクのサポートを行うかどうかを確認するメッセージが表示されます。



参照

ハードディスクの容量を確認する→「ハードディスクの容量の確認」(p.33)

- 3 【Y】を押して【Enter】を押す

- 4 領域を作成する

512Mバイト以上の領域を作成すると、その領域にはFAT32が適用されます。作成した領域が512Mバイトよりも小さいときには自動的にFAT16が適用されます。

- 5 領域の作成が終了したら、【Esc】を押す

- 6 次のように入力する

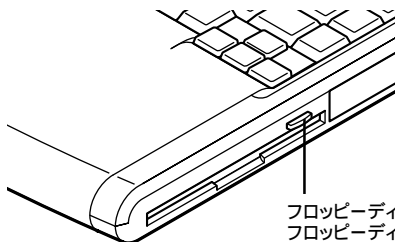
EXIT 

7 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」でをクリックして「再起動」を選び、「OK」ボタンをクリックする
再起動します。

8 作成したドライブをフォーマットする(→p.35)

フロッピーディスクドライブ

名称と役割



フロッピーディスクイジェクトボタン
フロッピーディスクを取り出すためのボタンです。

このパソコンで使用できるフロッピーディスクの種類

このパソコンのフロッピーディスクドライブでは、次の形式のフロッピーディスクを使うことができます。

作業内容	データの読み書き	フォーマット	ディスクコピー
フォーマット			
640Kバイト	-	-	-
720Kバイト	○	○	○
1.2Mバイト		-	-
1.44Mバイト	○	○	○

○：使用可

-：使用不可

：1.2Mバイトのフロッピーディスクを使用するには、3モード対応フロッピーディスクドライブが必要です。添付の「アプリケーションCD-ROM Vol.2」の中に入っているREADME.TXTをご覧ください。セットアップを行ってください。

EドライブにCD-ROMをセットした場合

E: ¥win98¥3modefd¥ readme.txt

フロッピーディスクドライブを使用するときの注意

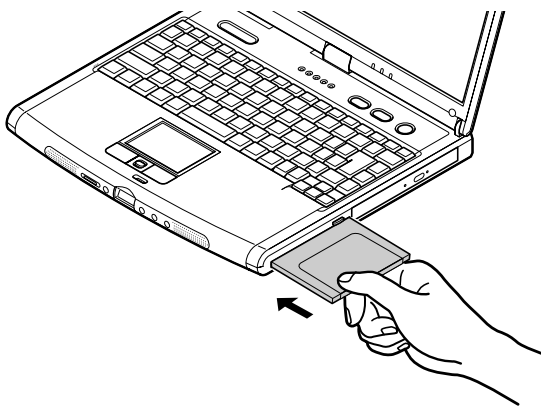
- ・このパソコンでは、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
- ・Windowsの「ディスクのコピー」またはMS-DOSプロンプトのDISKCOPYコマンドでコピーを行うときは、コピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください。

- ・フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクアクセスランプ()が点灯し続けたり、フォーマットしようとするとフォーマット開始までの時間が長くなる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
- ・MS-DOS Ver. 6.2以前のFORMATコマンドでフォーマットしたフロッピーディスクを、MS-DOSプロンプトからDISKCOPYコマンドでディスクコピーすることはできません。「マイコンピュータ」の「3.5インチFD」アイコンを右クリックし、「メニュー」から「ディスクのコピー」を実行してください。
- ・2DDのフロッピーディスクを720KBでフォーマットした場合、いったんフロッピーディスクを取り出し、もう一度入れ直してから使用してください。フォーマット後に、フロッピーディスクを入れ直さずにファイルを書き込もうとすると、フォーマットが正常に終了していても、エラーが発生する場合があります。
クイックフォーマットされたフロッピーディスクの場合は、この手順は必要ありません。

フロッピーディスクのセットのしかたと取り出しかた

フロッピーディスクをセットする

- 1 カチッと音がするまでフロッピーディスクをゆっくりと水平に差し込む
フロッピーディスクがセットされるとイジェクトボタンが少し飛び出します。



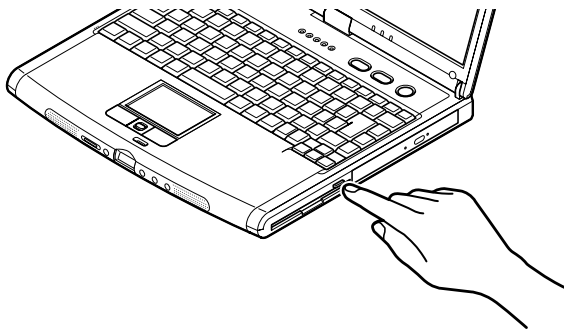
フロッピーディスクを取り出す



チェック

フロッピーディスクを書き込み中、または読み取り中は、フロッピーディスクアクセスランプ(凹)が点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。

- 1 イジェクトボタンを押す
フロッピーディスクが少し飛び出します。



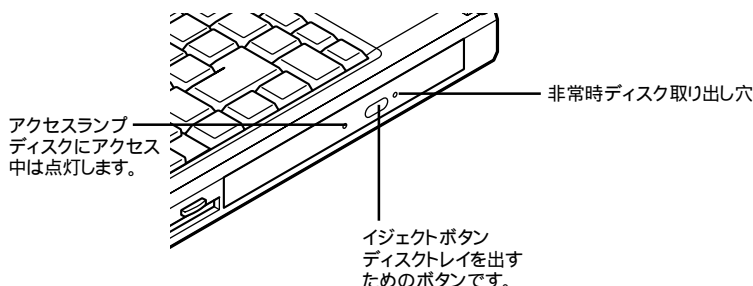
- 2 フロッピーディスクをゆっくりと水平に引き出す

フロッピーディスクをフォーマットする

- 1 フロッピーディスクをセットする
- 2 「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする
「マイコンピュータ」ウィンドウが開きます。
- 3 「3.5インチFD」アイコンをクリックする
- 4 「ファイル」メニュー→「フォーマット」をクリックする
「フォーマット」ウィンドウが表示されます。
- 5 「フォーマットの種類」から実行するフォーマットの種類を選ぶ
はじめてフォーマットをするフロッピーディスクのときは「通常のフォーマット」を選んでください。
- 6 「開始」ボタンをクリックする
フォーマット作業が開始されます。

CD-R/RWドライブ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ

名称と役割



メモ

イジェクトボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、イラストと多少異なることがあります。

使用できるディスク

	再生		読み込み		書き込み	書き換え
	音楽CD、 ビデオCD、 フォトCD	DVD VIDEO ディスク	CD-ROM、 CD-R、 CD-RW	DVD-ROM	CD-R、 CD-RW	CD-RW
CD-R/RWドライブ	○	×	○	×	○	○
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	○	○	○	○	○	○

○:使用可能

×:使用不可

■ CD-RやCD-RWへの書き込み

使用できるCD-RおよびCD-RWは、ISO9660に準拠したディスクです。書き込みできる容量は、使用するアプリケーションによって異なりますので、詳しくはアプリケーションのヘルプをご覧ください。

CD-RまたはCD-RWに書き込みするときは、「Easy CD Creator」または「DirectCD」というアプリケーションを使用します。それぞれの機能や使用方法については、「Easy CD Creatorを使う」(→p.49)または「DirectCDを使う」(→p.51)をご覧ください。

■ CD-RやCD-RWへ書き込むときの注意

- ・ お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどからのコピー作成およびその利用のための著作権を所有していなかったり、著作権の所有者からコピーの許可を得ていない場合は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの際は、オリジナルのCDの使用許諾条件、複製に関する注意事項にしたがってください。
- ・ Easy CD Creatorなど、Track at once(トラック アット ワンス)方式やDisk at once(ディスク アット ワンス)方式で書き込みを行うアプリケーションでは、CD-R、CD-RWへのデータ書き込み中に、他のアプリケーションを使用したり、自動的に省電力機能や一定時間が経過してスクリーンセーバーが働いたり、メールの自動受信プログラムなどが常駐していると、書き込みエラー(バッファアンダーラン)が発生する場合があります。書き込みエラーの発生を抑えるため、データ書き込みの際は、他の動作プログラムを閉じ、省電力機能や常駐するプログラムを無効(オフ)にすることをおすすめします。
- ・ バッテリーの残量がなくなると、書き込みエラーの原因になります。バッテリーのみでパソコンを使用している場合は、書き込みを行う前にACアダプタを接続して、ACコンセントから電源を供給してください。
- ・ パソコンに振動や衝撃をあたえないでください。書き込みエラーの原因となります。



メモ

- ・ ディスクにデータを書き込むために、パソコンはCD-R/RWドライブまたはCD-R/RW with DVD-ROMドライブにデータを転送しています。転送されてきたデータはバッファ(データの一時的な蓄積場所)に貯められてからディスクに書き込まれますが、途中で割り込んでくる操作(たとえばスクリーンセーバーの起動など)があると、バッファへのデータの転送に遅れが生じてバッファが空になってしまい、ディスクへの書き込みに失敗してしまうことがあります。このような現象を「バッファアンダーラン」と呼びます。
- ・ DirectCDなど、Packet Write(パケット ライト)方式で書き込みを行うアプリケーションでは、書き込みエラー(バッファアンダーラン)は起こりません。

- ・ 書き込みに失敗したCD-Rは再生できなくなります。書き込みの失敗によるCD-Rの補償はできませんので注意してください。
- ・ DirectCDを使って、データの書き込みや削除をくりかえすと、CD-Rの空き容量が減っていきます。

- ・フォーマット形式などによっては、他のCD-ROMドライブなどでは使用できない場合があります。
- ・市販されているCD-RおよびCD-RWの一部に規格外のものが 있습니다。規格外のCD-RおよびCD-RWでは正常に読み込めない場合があります。
- ・データを書き込んだCD-RWを他のパソコンで読む場合、マルチリード対応のCD-ROMドライブを使用してください。マルチリード対応CD-ROMドライブの確認は、各メーカーにお問い合わせください。



メモ

マルチリード対応のCD-ROMドライブとは、CD-RWを読み出せるようにしたCD-ROMドライブのことです。CD-RWはCD-ROMに比べて光の反射率が低いので、マルチリードに対応していないCD-ROMドライブでは読み出すことができません。

使用するときの注意

- ・CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- ・アクセスランプが点灯しているときは、ディスクを絶対に取り出さないでください。故障の原因となります。
- ・ディスクの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。故障の原因となることがあります。また、ラベルやテープが貼られているなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、操作中に手に振動を感じる場合があります。

ディスクのセットのしかたと取り出ししかた



メモ

ここではCD-R/RWドライブを例に説明しています。CD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-R/RWドライブ」をCD-R/RW with DVD-ROMドライブに読み替えてください。

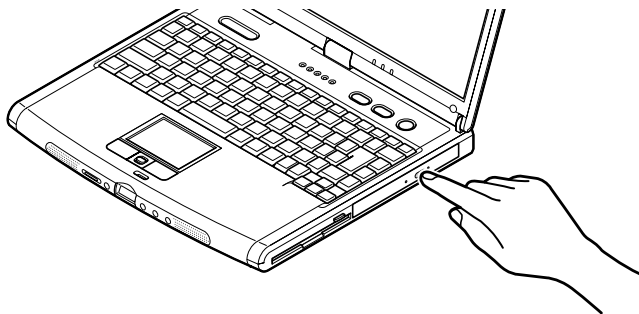
ディスクをセットする



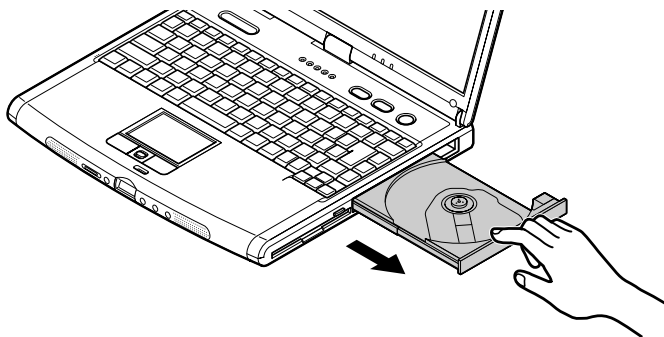
メモ

パソコンの電源が入っていない場合は、ディスクをセットすることはできません。パソコンの電源を入れるか、オーディオ電源スイッチを右側に一度スライドしてCDプレイモードにしてください(→p.122)。

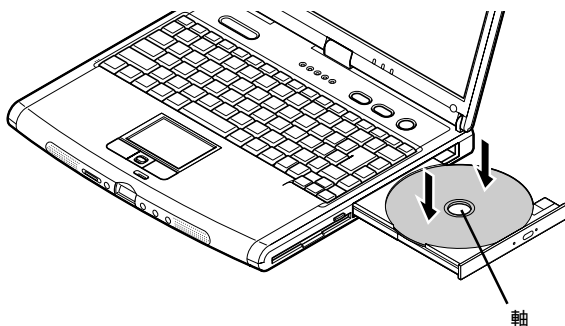
- 1 CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し飛び出します。



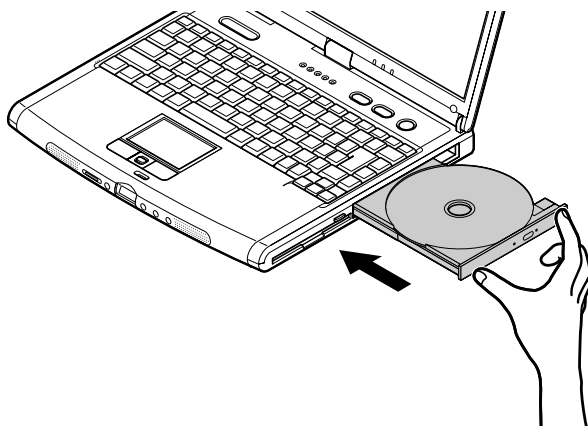
- 2 手でディスクトレイを静かに引き出す



- 3** ディスクのデータ面（文字などが印刷されていない面）を下にして、傷など付けないようディスクの中央に置き、ディスクを軸にしっかりとめ込む



- 4** CD-R/RWドライブのイジェクトボタンに触れないようにディスクトレイ前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す



ディスクを取り出す



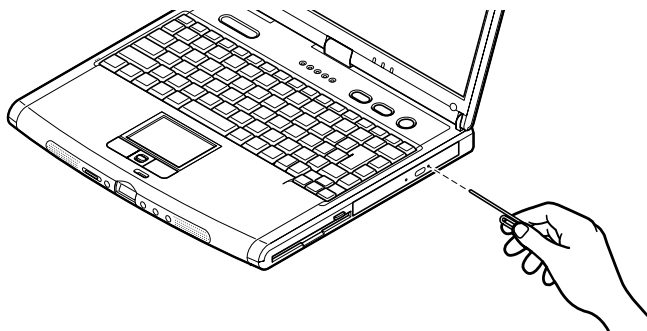
メモ

パソコンの電源が入っていない場合は、ディスクを取り出すことはできません。パソコンの電源を入れるか、オーディオ電源スイッチを右側に一度スライドしてCDプレイモードにしてください（→p.122）

- 1 CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押す
ディスクトレイが少し飛び出します。
- 2 手でディスクトレイを静かに引き出してから、ディスクを取り出す
- 3 CD-R/RWドライブのイジェクトボタンに触れないようにディスクトレイの前面を押して、ディスクトレイを元の位置に戻す

ディスクを取り出せなくなったときは

ソフトウェアの暴走など不慮の原因で、CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこなくなった場合は、非常時ディスク取り出し穴に太さ1.3 mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。



チェック

CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない、といった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使わないようにしてください。

音楽CDやDVD VIDEOディスクを再生する



チェック

- DVD VIDEOディスクの再生ができるのは、CD-R/RW with DVD-ROMモデルのみです。
- DVD VIDEOディスクは、リージョンコード(国別地域番号。日本は2です)によって管理されているため、リージョンコードが2もしくはフリーに設定されているディスクのみ再生することができます。海外で購入したDVD VIDEOディスクについては、特にこの点に注意してください。

Jet-Audio Playerを使う

このパソコンには、音楽CDを再生するためのアプリケーションとして、「Jet-Audio Player」がインストールされています。また、CD-R/RW with DVD-ROMモデルでは、Jet-Audio PlayerでDVD VIDEOディスクの再生を行うこともできます。Windows Meが起動しているときに音楽CDなどのディスクをセットすると、自動的にJet-Audio Playerが起動して再生がはじまります。

また、CD-R/RWモデルにはCDプレーヤボタンが内蔵されており、CD-R/RW with DVD-ROMモデルにはCD/DVDプレーヤボタンが内蔵されています。これらのボタンを使ってJet-Audio Playerを操作することもできます。



参照

- 「Jet-Audio Player」の使いかた → 「添付ソフトの使い方」-「Jet-Audio Player」または「スタート」ボタン-「プログラム」-「Jet-Audio Player」-「使い方マニュアル」
- CDプレーヤボタンまたはCD/DVDプレーヤボタンの使いかた → PART3の「音楽の再生 / 編集機能」の「音楽を再生するには」(p.120)

CDプレイモードで音楽CDを再生する

このパソコンの電源が切れているとき、またはスタンバイ状態や休止状態のときに、Windowsを起動することなく音楽CDを再生することができます。



参照

CDプレイモードを使う → PART3の「音楽の再生 / 編集機能」の「CDプレイモードで音楽CDを再生する」(p.122)

Easy CD Creatorを使う

Easy CD Creatorは、CD-RやCD-RWにデータを書き込むことができるアプリケーションです。データを書き込む以外にも、音楽CDを作成したり、CD全体のバックアップなどの機能があります。ここでは、基本的なデータを書き込む操作について説明します。そのほかの機能について詳しくは、ヘルプをご覧ください。



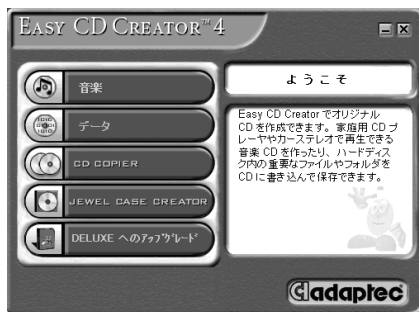
メモ

- Easy CD Creatorで書き込んだCD-RWは、マルチリード対応のCD-ROMドライブで読み出すことができます。
- ここではCD-R/RWドライブを例に説明しています。CD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-R/RWドライブ」を「CD-R/RW with DVD-ROMドライブ」に読み替えてください。

データを書き込む

ここでは、CD-Rを使ったデータの書き込みについて説明します。はじめに、CD-Rを用意しておいてください。なお、CD-RWの場合でも同様の手順で利用できます。その際はCD-RをCD-RWに読み替えてください。

- 1 CD-RをCD-R/RWドライブにセットする
次の画面が表示されます。



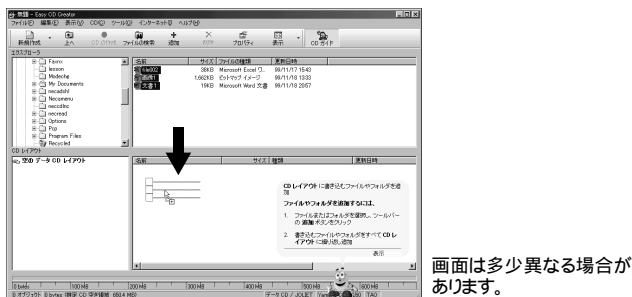
- 2 メニューから「データ」をクリックし、「データCD」をクリックする

3 画面の上段で、書き込みたいデータがあるフォルダを選び、データのファイル名を表示させる



Copyright © 1994 - 2001 Adaptec, Inc. All rights reserved.

4 書き込みたいデータのファイル名を選んで、画面の下段にドラッグ&ドロップする 書き込むデータが画面の下段に表示されます。このとき、まだ書き込みは開始していません。



メモ

- ・ ファイル名を選んだ後、 (追加) ボタンを押しても同様の操作ができます。
- ・ 書き込みたいデータがほかにもある場合は、手順 3 ~ 4 をくりかえしてください。
- ・ 下段に表示されたデータの中で書き込みを取りやめたいものがあれば、そのファイル名を選んで  (削除) ボタンをクリックしてください。

5 (CDの作成) ボタンをクリックする

- 6 「CD作成セットアップ」画面が表示されるので、「OK」ボタンをクリックする書き込みを開始します。
「コンパティビリティの警告」画面が表示された場合は、「OK」ボタンをクリックしてください。
- 7 書き込み終了後、「CD作成が成功しました。」と表示されたら「OK」ボタンをクリックする
「CDレイアウトの変更を無題に保存します。」というメッセージが表示されます。
書き込みが正常に終了した場合は保存の必要がないので、「いいえ」ボタンをクリックしてください。書き込みに失敗した場合や同じデータを別のCD-Rに書き込む場合は、「はい」ボタンをクリックして保存してください。
- 8 画面右上の  ボタンをクリックし、Easy CD Creatorを終了する

DirectCDを使う

DirectCDを使うと、フロッピーディスクやハードディスクと同じような感覚で、CD-RやCD-RWにデータを保存したり移動したりすることができます。簡単にデータを保存することができますので、データのバックアップなどに適しています。ここでは、DirectCDを使ってCD-RまたはCD-RWにデータを書き込むときの基本的な操作を説明しています。そのほかの機能や使いかたについて詳しくは、ヘルプをご覧ください。



メモ

ここではCD-R/RWドライブを例に説明しています。CD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-R/RWドライブ」を「CD-R/RW with DVD-ROMドライブ」に読み替えてください。

準備をする

DirectCDで使用するCD-RまたはCD-RWは、フォーマットされている必要があります。データを書き込む前に、次の手順でフォーマットしてください。すでにフォーマットされたCD-RWまたはCD-Rを使用する場合は、この手順は必要ありません。次の「DirectCDで書き込む」(→ p.53)の手順でデータの書き込みを行ってください。

- 1** CD-RまたはCD-RWをCD-R/RWドライブにセットする
次の画面が表示されます。



フォーマット済みのCD-RまたはCD-RWをセットした場合、「CDの準備ができました」と表示されます。次の「DirectCDで書き込む」(→p.53)の手順2に進んで、データの書き込みを行ってください。

- 2** メニューから「データ」をクリックし、「DIRECTCD」をクリックする
Adaptec DirectCD ウィザードの画面が表示されます。
- 3** 「次へ」ボタンをクリックする
レコーダ情報の画面が表示されます。
- 4** 「次へ」ボタンをクリックする
CDのフォーマットの画面が表示されます。
- 5** 「次へ」ボタンをクリックする
CD名を付ける画面が表示されます。
- 6** 「CD名」欄にCD名を入力して、「完了」ボタンをクリックする
CD名を付けておくと、あとから何のデータが入っているCDかを検索したいときに便利です。特に付ける必要がない場合は、何も入力しないで「完了」ボタンをクリックしてください。
- 7** 処理時間を確認する画面が表示された場合は、処理時間を確認して「OK」ボタンをクリックする
フォーマットがはじまりますので、そのまましばらくお待ちください。
フォーマットが終了すると「CDの準備ができました」と表示されます。
- 8** 「OK」ボタンをクリックする
CD-R/RWドライブのウィンドウが自動的に開いた場合は、 ボタンをクリックしてウィンドウを閉じてください。

これで、CD-RまたはCD-RWをDirectCDで使用するための準備ができました。このまま続けてデータの書き込みを行う場合は、次の「DirectCDで書き込む」の手順3に進んでください。

DirectCDで書き込む

- 1 DirectCDでフォーマットしたCD-RまたはCD-RWをCD-R/RWドライブにセットしていない場合はセットする
「CDの準備ができました」と表示されます。
- 2 「OK」ボタンをクリックする
- 3 CD-RまたはCD-RWにデータを書き込む
フロッピーディスクやハードディスクと同じように、「マイコンピュータ」や「エクスプローラ」を使ってデータを書き込むことができます。

CD-RまたはCD-RWを取り出す

DirectCDを使用しているときは、ディスクによって取り出し方が異なります。

■ CD-Rを取り出す

CD-Rを取り出すときは、DirectCDで書き込んだCD-RをほかのパソコンのCD-ROMドライブで読み出すことができるようにするかどうかを選ぶ必要があります。

- 1 CD-R/RWドライブのイジェクトボタンを押す
「CDの取り出し」の画面が表示されます。



メモ

インジケータ領域(タスクトレイ)に表示されているを右クリックし、表示されたメニューから「取り出し」をクリックしても同様の操作ができます。

- 2 CD-Rに、ほかのパソコンのCD-ROMドライブでも読み出せるように処理を行うかどうかを選ぶ
次もDirectCDで使用する場合は、「次回、このCDへはDirectCDで読み書きを行います。」がになっていることを確認してください。
ほかのパソコンのCD-ROMドライブで読み出したい場合は、「Windows 95/98、Windows NT 4.0 (SP3以上)およびWindows 2000のCD-ROMドライブで読み込めるようにCDを構成します。」のをにします。また、必要であれば「再び書き込みができないように、CDを書き込み禁止にする」をにしてください。



メモ

「Windows 95/98、Windows NT 4.0 (SP3以上) および Windows 2000 の CD-ROM ドライブで読み込めるように CD を構成します。」を選んで取り出した後、再度 DirectCD で書き込みを行いたい場合は、 を右クリックして「書き込み可能にする」を選び、設定を行ってください。

3 「完了」ボタンをクリックする

「CD は取り出されました。」と表示されるまで、そのまましばらくお待ちください。自動的にディスクトレイが少し飛び出します。

4 表示されているメッセージを確認して、「OK」ボタンをクリックする



チェック

書き込んだ CD-R を読み出すことができる環境についてのメッセージが表示されています。表示されたメッセージ以外の環境では、この CD-R を読み出すことはできません。

5 CD-R/RW ドライブから CD-R を取り出し、ディスクトレイを元の位置に戻す

■ CD-RW を取り出す

1 CD-R/RW ドライブのイジェクトボタンを押す

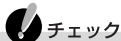
しばらくすると、「CD は取り出されました。」と表示され、ディスクトレイが少し飛び出します。



メモ

インジケータ領域(タスクトレイ)に表示されている  を右クリックし、表示されたメニューから「取り出し」をクリックしても同様の操作ができます。

2 表示されているメッセージを確認して「OK」ボタンをクリックする



チェック

書き込んだ CD-RW を読み出すことができる環境についてのメッセージが表示されています。表示されたメッセージ以外の環境では、この CD-RW を読み出すことはできませんので注意してください。

3 CD-R/RW ドライブから CD-RW を取り出し、ディスクトレイを元の位置に戻す

液晶ディスプレイ

画面表示を調整する

キーボードの【Fn】を使って画面表示の調整ができます。

表示を調整する

このパソコンでは、キーボードを使って輝度や画面の伸縮の調整を行います。

機能	キー操作	説明
画面の伸縮	【Fn】+【F5】	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する/しないを切り替えます。
輝度を上げる(▲☀)	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
輝度を下げる(▼☀)	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。

表示するディスプレイを切り替える

このパソコンは、液晶ディスプレイだけでなく、別売のCRTディスプレイやプロジェクタ、テレビなどに画面を表示することもできます。



参照

別売のディスプレイやプロジェクタ、テレビの接続 → PART4の「外部ディスプレイを使う」(p.193)

機能	キー操作	説明
ディスプレイ切り替え ()	【Fn】+【F3】	別売のCRTディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」→「テレビ」→「液晶ディスプレイ」→「CRT」の順に切り替わります(→ p.195)。

:テレビが接続されているときのみ切り替わります。



チェック

複数のディスプレイで同時表示を行っていると、一方のディスプレイにおいて、メディアプレーヤーなどでビデオCDが正しく表示されない場合があります。このディスプレイでビデオCDを表示させるには、次の手順で設定を変更してください。

「コントロールパネル」で「画面」アイコンをダブルクリックする

「画面のプロパティ」画面で「設定」タブをクリックして「詳細」ボタンをクリックする
表示された画面で「ATI画面」タブをクリックする

表示された画面で、「パネル」の下にある水色の丸いボタンをクリックして、「プライマリ」に設定する（液晶ディスプレイとTVを同時にプライマリに設定することはできません）

表示できる解像度と表示色



メモ

解像度とは、ディスプレイの画面上に表示できる文字や図面などの情報量を表すものです。この数字が大きくなるほど、画面上に一度に多くの情報を表示することができ、より細かな表現ができます。

このパソコンでは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

解像度 (ドット)	表示色	液晶 ディスプレイ のみに表示	別売のCRT ディスプレイ のみに表示	液晶 ディスプレイ と別売のCRT ディスプレイ の同時表示 ¹	TVのみ
640 × 480	26万色中256色	○		○	
	65,536色	○		○	
	1,677万色 ²	○		○	
800 × 600	26万色中256色	○		○	
	65,536色	○		○	
	1,677万色 ²	○		○	
1,024 × 768	26万色中256色				
	65,536色 ³				
	1,677万色				
1,280 × 1,024	26万色中256色				
	65,536色				
	1,677万色				
1,600 × 1,200	26万色中256色				
	65,536色				
	1,677万色				

○：画面のまわりが黒く表示される【Fn】を押しながら【F5】を押して拡大表示可能）

：フルスクリーン表示可能

：バーチャルスクリーン（→ p.59）でのみ表示可能

1：別売のCRTディスプレイ未接続時は、このパソコンの液晶ディスプレイのみに表示される

2：このパソコンの液晶ディスプレイでは、ウィンドウアクセラレータのデザイン機能により実現

3：購入時の設定



メモ

320 × 200ドット、320 × 240ドット解像度対応のアプリケーションなどは、このパソコンでは画面のまわりが黒く表示されます。

解像度と表示色の設定

ディスプレイの解像度と表示色はコントロールパネルで設定します。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。



- 2 「設定」タブをクリックする

- 3 「画面の領域」または「色」を変更する

・画面の領域の変更をする場合

「画面の領域」でつまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向へドラッグすると低解像度になります。



チェック

設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

・色の変更をする場合

「色」で  をクリックし、選択一覧から変更します。この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。



メモ

High Colorとは65,536色のことで、True Colorは1,677万色のことです。

- 4 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする
このあとは、画面の指示にしたがって操作してください。

バーチャルスクリーン

バーチャルスクリーンとは、実際に表示可能な解像度よりも大きい解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。バーチャルスクリーンでは、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面より大きくなるので、ディスプレイには常に仮想画面の一部が表示されている状態となります。画面をスクロールすると、ディスプレイの画面上で見えていない部分を表示することができます。



メモ

バーチャルスクリーンでは、「スタート」ボタンがディスプレイの画面上から外れ、表示されないことがあります。ディスプレイの画面上の見えていない部分を見るには、ポインタをディスプレイの画面の端に移動させます。ポインタの移動した方向に画面がスクロールし、見えなかった部分が表示されます。

バーチャルスクリーンモードの設定方法

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。
- 4 「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選び、「次へ」ボタンをクリックする
- 5 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」を選び、「次へ」ボタンをクリックする
- 6 「すべてのハードウェアを表示」を選ぶ
- 7 「製造元」欄で「(標準モニタの種類)」を選び、「モデル」欄の「Super VGA 1600 × 1200」をクリックする
- 8 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする
- 10 「OK」ボタンをクリックする
これで設定が完了しました。

このあとは、画面の指示にしたがって操作してください。上記の設定をしたあとは、「設定」タブで、次の解像度を設定できるようになります。

640 × 480ドット / 800 × 600ドット / 1,024 × 768ドット / 1,280 × 1,024ドット / 1,600 × 1,200ドット

デュアルディスプレイ機能

デュアルディスプレイ(Dual Display)とは、CRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続したときに、本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使ってひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるので、表示できる範囲が広がります。



メモ

デュアルディスプレイ機能は、同じ画面を2つのディスプレイに表示するのは別の機能です。



チェック

画面の解像度によっては、デュアルディスプレイ表示にならない場合があります。



参照

別売のCRTディスプレイなどを接続するには→PART4の「外部ディスプレイを使う」(p.193)

デュアルディスプレイ機能を使う準備をする

画面を表示するディスプレイのオン/オフ、プライマリ/セカンダリを次の手順にしたがって設定します。

- 1 別売のディスプレイを接続し、電源を入れる(→p.194)
- 2 パソコンの電源を入れる
- 3 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 4 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 5 「ATI画面」タブをクリックする
「モニタ」パネル「テレビ」の接続状態が表示されます。
- 6 「モニタ」の左上のボタンをクリックする
接続したモニタへの表示がオンになります。



チェック

表示をすべてオフにすることはできません。どれかひとつはオンの状態になっています。

- 7 「モニター」パネル」の下ボタンをクリックする
「プライマリ」ディスプレイ、「セカンダリ」ディスプレイが指定されます。



チェック

すべてをセカンダリに設定することはできません。

接続が認識され、ディスプレイの表示がオンに設定されると、解像度とリフレッシュレート(水平同期周波数)が表示されます。

- 8 「OK」ボタンをクリックする
- 9 「OK」ボタンをクリックする

デュアルディスプレイ機能を使う

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックする
- 3 「2」と表示されたディスプレイのイラストをクリックする
モニタの使用を確認するメッセージが表示されます。
- 4 「はい」ボタンをクリックする
- 5 「適用」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能を使うことができます。

デュアルディスプレイ機能を解除する

- 1 「デュアルディスプレイ機能を使う」の手順1～2を行う
- 2 「2」と表示されたディスプレイのイラストを右クリックする
- 3 表示されたメニューから「使用可能」をクリックする
- 4 「適用」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能は解除されました。

バッテリー

バッテリーのみで使う

このパソコンは、ACアダプタを使用せずにバッテリーだけで駆動することができます。バッテリーだけでの駆動時間は限られていますので、長時間使用する場合は、省電力機能を使用することをおすすめします。



参照

省電力機能について→このPARTの「省電力機能」(p.71)

さらに次のような点に気をつけると、バッテリーパックを長持ちさせることができます。

- ・バッテリーの残量をできるだけなくしてから充電する
- ・充電はフル充電(バッテリー充電ランプが消灯)になるまで中断しない
- ・定期的にバッテリーリフレッシュを実行する(→p.66)
- ・このパソコンを1カ月以上使わないときは、バッテリーパックを取り外して、涼しいところに保管する



メモ

バッテリーは自然放電していますので、使用していない場合でも2～3カ月に一度は充電することをおすすめします。

バッテリーを充電する



チェック

- ・バッテリーの充電中は、バッテリーパックをパソコンから取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- ・購入直後や長時間放置したバッテリーでは、バッテリー駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリー残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。
- ・充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない場合などに少量の充放電を何度もくりかえして使用すると、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。

バッテリーの充電のしかた

バッテリーパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリーの充電がはじまります。

パソコンの電源を入れて使用しているときでもバッテリーは充電されます。



メモ

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。



参照

バッテリーの充電時間について→PART6の「機能一覧」(p.235)

充電状態を表示ランプで確認する

バッテリーの充電状態を、バッテリー充電ランプ()で確認することができます(→p.5)

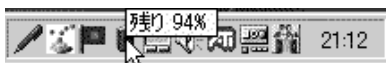
ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリー充電中
	点滅	バッテリーのエラー
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

：バッテリーを取り付けなおしてもエラーが出るときは、バッテリーリフレッシュを行ってください(→p.66)

バッテリーの残量を確認する

バッテリー残量は、次の3つの方法で確認することができます。

- インジケータ領域(タスクトレイ)にある  の上にポインタを合わせる



アイコンはバッテリーの残量により異なります。

- インジケータ領域(タスクトレイ)の  をダブルクリックして、表示された「電源メーター」ウィンドウを見る



- 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックして、表示された「電源の管理のプロパティ」ウィンドウの「電源メーター」タブを見る



メモ

ACコンセントから電源を供給しているときは、 は  に変わります。

バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなったときは

バッテリーの残量が少なくなると、電源ランプ(④)が黄色に点灯します。この場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

- ACコンセントから電源を供給できる場合
ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。ACコンセントから電源を供給すると、バッテリー充電ランプ(⑤)が点灯し、バッテリーの充電がはじまります。また、バッテリーを充電しながらパソコンを使用することもできます。
- ACコンセントが使えない場合
使用中のアプリケーションを終了して、パソコンの電源を切ってください。

上記の操作をしないでそのままにしておくと、再度バッテリー残量が少ないというメッセージが表示され、しばらくすると自動的に休止状態(→p.76)になります。また、パソコンをバッテリーのみで使用している場合は、バッテリー残量が少なくなったときにパソコンをどのような状態にするかを設定しておくこともできます。設定のしかたは、次の「バッテリー残量が少なくなったときの動作の設定」をご覧ください。



チェック

フロッピーディスクやハードディスクの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、フロッピーディスクやハードディスクのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。

バッテリー残量が少なくなったときの動作の設定

バッテリーのみで使用している場合、バッテリー残量が少なくなったとき、どのような動作をさせるかを設定します。設定の手順は次のとおりです。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
- 2 「アラーム」タブをクリックする
- 3 バッテリー残量が少ないとき(バッテリー低下の警告)と、バッテリー残量がわずかなとき(バッテリー消耗の警告)に、それぞれどのような動作をするようにしたいかを設定する
「警告の動作」ボタンをクリックすると、動作を選ぶことができます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする

バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュは、一時的に低下したバッテリーの性能を回復させるときに行います。次のようなときには、バッテリーリフレッシュを実行してください。

- バッテリーでの駆動時間が短くなった
バッテリーを完全に使い切らない状態で充電をくりかえしていると、バッテリーの充電可能容量が目減りして、駆動時間が短くなる場合があります。これをバッテリーの「メモリ効果」と呼びます。
- 購入直後や、長期間の放置で、バッテリーの性能が一時的に低下した
- バッテリーの残量表示に誤差が生じている

バッテリーリフレッシュの実行

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で  をクリックして「終了」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 バッテリーパックを取り付けていない場合は、バッテリーパックを本体に取り付ける(→p.70)
- 3 パソコンにACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに接続する
- 4 バッテリー充電ランプが点滅している場合は、一度バッテリーパックを本体から外して、再度取り付ける
- 5 バッテリーをフル充電(バッテリー充電ランプが消灯した状態)まで充電する
- 6 BIOSセットアップメニューを起動する(p.222)
- 7 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 8 【→】を使って「終了」メニューを選び、【↓】を使って「バッテリーリフレッシュ」を選んでから【Enter】を押す
- 9 「実行しますか?」と表示されたら、「はい」を選んで【Enter】を押す
次のような画面が表示されます。

```
Refresh battery program
Press Y to start refresh, N to exit
<ESC> to shutdown system
```

10 【Y】を押す

次のような画面が表示され、バッテリーフレッシュが始まります。



チェック

- ・バッテリーフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。
- ・バッテリーフレッシュの所要時間の目安は、標準バッテリー使用時フル充電状態でニッケル水素バッテリーの場合は約90分、リチウムイオンバッテリーの場合は約160分です。

バッテリーフレッシュが完了し、バッテリー内の電力がなくなると自動的にパソコンの電源が切れます。

■ バッテリーフレッシュを中断する

バッテリーフレッシュを中断するときは、次の手順で行ってください。

1 【Ctrl】+【Alt】+【Del】を押す

パソコンが再起動します。



メモ

電源スイッチを4秒以上押し続けてもバッテリーフレッシュを中断することができます。この場合は、パソコンの電源が切れます。

バッテリーパックを交換する

交換の目安

フル充電(バッテリーを充電してバッテリー充電ランプ()が消灯した状態)にしても使用できる時間が短くなったら、バッテリーフレッシュ(→p.66)を行ってください。それでも使用できる時間が回復しないときは、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。

■ 交換用のバッテリーパック

このパソコンに取り付けられる交換用バッテリーパックは次の2種類です。

- ・ PC - VP - WP 21 バッテリーパック(ニッケル水素 ﻻ リアルシルバー)
- ・ PC - VP - WP 22 バッテリーパック(リチウムイオン ﻻ リアルシルバー)



メモ

- ・ リチウムイオンバッテリーパックを取り付けると、ニッケル水素バッテリーパックを取り付けた場合よりも、バッテリー駆動時間が70%程度長くなります。
- ・ 交換用のバッテリーパック(リチウムイオン)は、お使いのモデルによっては本体の色と異なる場合がありますが、取り付けは可能です。

バッテリーパックの交換のしかた

⚠ 警告



- ・ 雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。



- ・ 使用を終えたバッテリーパックを分解したり、火気に投じるとは危険です。絶対にしないでください。破裂したり、液漏れしたりすることがあります。

⚠ 注意



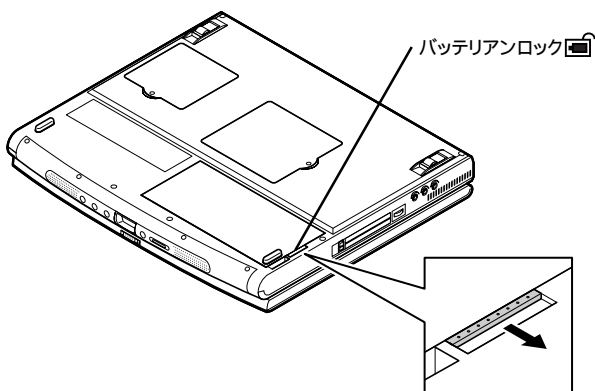
- ・ 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。



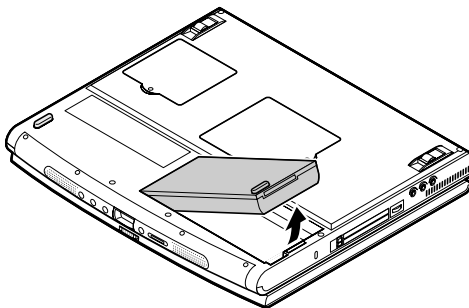
チェック

- ・ バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。
- ・ スタンバイ状態のときにバッテリーパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ(④)が点滅しているときには、一度スタンバイ状態から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了し、パソコンの電源を切ってください。
- ・ 特に必要でない限り、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。

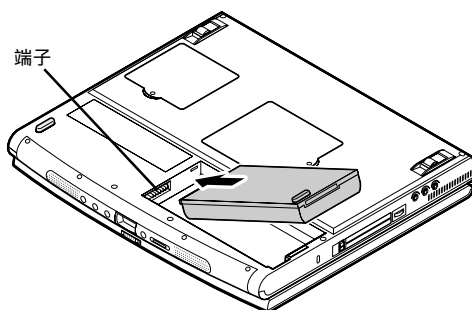
- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で、をクリックして「終了」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す
- 4 バッテリーパックの横にあるバッテリーアンロック()を矢印の方向にスライドさせる
スライドさせたままの状態、そのまま次の手順へ進んでください。



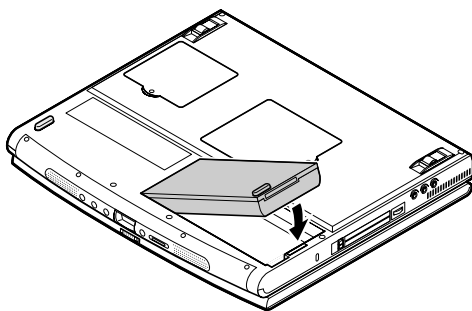
- 5 バッテリーパックを矢印の方向に取り外す



6 新しいバッテリーパックを端子の位置に注意してバッテリースロットにセットする



7 図の矢印の方向にバッテリーパックを押し込む



省電力機能

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したいときや、中断した作業をすぐに再開したいときにも便利な機能です。

このパソコンの省電力機能

このパソコンの省電力機能には「スタンバイ状態(サスペンド)」、「休止状態(ハイバネーション)」、「Intel® SpeedStep™テクノロジー」があります。「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。このパソコンでの省電力機能の設定は、「コントロールパネル」の「電源の管理」で行います。

- スタンバイ状態(サスペンド)

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。



参照

スタンバイ状態にする→「スタンバイ状態(サスペンド)」(p.73)

- 休止状態(ハイバネーション)

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのとは異なり、次に電源を入れるときに、Windowsを起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断するときなどに便利です。



参照

休止状態にする→「休止状態(ハイバネーション)」(p.76)

- Intel® SpeedStep™テクノロジー

電源の種類によって、動作性能を切り替えることができます。BIOSセットアップメニューで設定する方法と、Windows Meのコントロールパネルで設定する方法の2種類があります。



参照

Intel® SpeedStep™テクノロジーの設定をする→「Intel® SpeedStep™テクノロジー」
(p.78)

省電力機能を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のようなときには、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。パソコンが正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

- ・プリンタへ出力中
- ・通信用アプリケーションを実行中
- ・電話回線を使って通信中
- ・音声または動画を再生中
- ・ハードディスク、CD-ROMなどのディスク、フロッピーディスクなどにアクセス中
- ・「システムのプロパティ」ウィンドウを表示中
- ・Windowsの起動 / 終了処理中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないPCカード、USB対応機器、IEEE1394対応機器を使用中

スタンバイ状態または休止状態を使用するときの注意

スタンバイ状態または休止状態にするときは、次のことに注意してください。

- ・スタンバイ状態では、ネットワーク機能が一旦停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になった時にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態を使用してください。
- ・バッテリーのみで使用している場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいてください。また、バッテリー駆動時にバッテリー残量が少なくなってきたとき、パソコンをどのような動作にさせるかなどの設定もできます(→p.65)。
- ・スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- ・スタンバイ状態または休止状態のときに、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。
- ・「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」の「スクリーンセーバー」タブで設定できるディスプレイの省電力機能を利用する場合は、スクリーンセーバー機能もあわせて使用してください。スクリーンセーバー機能を使用しない場合、MS-DOSプロンプト使用時に省電力機能は利用できません。
- ・このパソコンにフォトCDを入れたままスタンバイ状態または休止状態にした場合、復帰に時間がかかることがあります。

- ・ SCSI PCカードを使用している場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによってはスタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。
- ・ フロッピーディスクやCD-ROMをセットしたまま休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにフロッピーディスクやCD-ROMから起動してしまうことがあります。休止状態にする場合は、フロッピーディスクやCD-ROMを取り出してから休止状態にしてください。また、フロッピーディスクを使用しているときは、必要なファイルを保存してからフロッピーディスクを取り出してください。

スタンバイ状態または休止状態から復帰するときの注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰させるときには、次のことに注意してください。

- ・ スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰させたいときは、パソコンに負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
- ・ スタンバイ状態または休止状態のときにPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け / 取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
- ・ スタンバイ状態または休止状態からの復帰時にパスワードを入力するように設定してある場合は、パスワード入力画面でパスワードを入力してください。
- ・ タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作、および液晶ディスプレイを開いてのスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本機はスタンバイ状態から復帰していますが、液晶ディスプレイに何も表示されない状態になります。この場合はNXパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによって液晶ディスプレイを表示することができます。

スタンバイ状態(サスペンド)

スタンバイ状態にする

購入時の状態では、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。スタンバイ状態になると、電源ランプ(④)が緑色に点滅します。

- 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」でをクリックして「スタンバイ」を選び、「OK」ボタンをクリックする

- バッテリー駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的にスタンバイ状態にする

ほかにも、設定を行うことにより次のような方法でスタンバイ状態にすることもできます。

- 電源スイッチを押す

電源スイッチを押してスタンバイ状態にするには、「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源の管理のプロパティ」の「詳細設定」タブで、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「スタンバイ」に設定します。

- 液晶ディスプレイを閉じる

液晶ディスプレイを閉じたときにスタンバイ状態にするには、「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源の管理のプロパティ」の「詳細設定」タブで「ポータブル コンピュータを閉じたとき」を「スタンバイ」に設定します。



メモ

- ・ ATAカードをセットした状態でスタンバイ状態にすると、スタンバイ状態になるまでに時間がかかる場合があります。
- ・ 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」の「Web」タブで、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」が☒になっていると、自動的にスタンバイ状態にできない場合があります。この場合は、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」の左の☒をクリックして☐にしてください。

スタンバイ状態から復帰する

スタンバイ状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。スタンバイ状態からの復帰は次の方法で行うことができます。

- 電源スイッチを押す

スタンバイ状態にする前の元の状態が表示されます。



メモ

液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合、液晶ディスプレイを開けることによって復帰することができます。また、タスクスケジューラを使って、時刻を指定してスタンバイ状態から復帰することもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

スタンバイ状態の設定をする

■ 「電源設定」で設定をする

「コントロールパネル」の「電源の管理」の「電源設定」では、スタンバイ状態にするまでの時間を変更したり、ACアダプタ駆動時にもスタンバイ状態になるように設定することができます。

また、あらかじめ設定されている電源設定モードを選んでスタンバイ状態にするまでの時間を設定することもできます。購入時には「LaVie/VersaPro」のモードに設定されています。モードは「常にオン」「ホーム/オフィス デスク」「ポータブル/ラップトップ」「LaVie/VersaPro」の4つのモードがあります。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「電源設定」タブをクリックする
- 3 「電源設定」欄でモードを選ぶか、または画面の下段でそれぞれの時間を設定する



項目	説明
モニタの電源を切る	入力は何も行われないまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。
ハードディスクの電源を切る	指定した時間ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクの電源を切ります。
システム スタンバイ	指定した時間何の入力もなく、またハードディスクへのアクセスがないと、パソコンがスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。
システム休止状態	指定した時間何の入力もなく、またハードディスクへのアクセスがないと、パソコンが休止状態になり、電源が切れます。



- 画面の下段の「××の電源の設定」の「××」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。
- 「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます。

4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

■ 新しいモードを作成する

パソコンの利用状態に合わせて、モードを新たに登録することができます。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「電源設定」タブをクリックする
- 3 「モニタの電源を切る」「ハードディスクの電源を切る」「システムスタンバイ」「システム休止状態」のそれぞれの時間を設定する
- 4 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする
- 5 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする
これで、新しいモードが登録されました。
- 6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

休止状態(ハイバネーション)

休止状態にする

次のいずれかの方法で休止状態にすることができます。
休止状態になると、電源ランプ(④)が消灯し、パソコンの電源が切れます。

- 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「休止状態」を選び、「OK」ボタンをクリックする
- バッテリー駆動時、キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的に休止状態にする

ほかにも、設定を行うことにより次のいずれかの方法で休止状態にすることができます。

- 電源スイッチを押す

電源スイッチを押して休止状態にするには、「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源の管理のプロパティ」の「詳細設定」タブで、「コンピュータの電源ボタンを押したとき」を「休止状態」に設定します。

- 液晶ディスプレイを閉じる

液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態にするには、「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックすると表示される「電源の管理のプロパティ」の「詳細設定」タブで、「ポータブル コンピュータを閉じたとき」を「休止状態」に設定します。

上記の方法で休止状態にするためには、次の「休止状態を利用するための準備」の手順を行ってください。

- 休止状態を利用するための準備

- 電源スイッチを押して休止状態にする

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

- 2 「休止状態」タブをクリックする

- 3 「休止状態をサポートする」が☒になっていることを確認する

- 4 「電源の管理のプロパティ」画面で「詳細設定」タブをクリックする

- 5 「電源ボタン」の欄の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「休止状態」を選ぶ

- 6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

- 液晶ディスプレイを閉じたときに休止状態にする

- 1 「電源スイッチを押して休止状態にする」の手順1～4を行う

- 2 「電源ボタン」の欄の「ポータブル コンピュータを閉じたとき」で「休止状態」を選ぶ

- 3 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする



メモ

- ・ ATAカードをセットした状態で休止状態にすると、時間がかかる場合があります。
- ・ 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックすると表示される「画面のプロパティ」の「Web」タブで、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」が☒になっていると、自動的に休止状態にできない場合があります。この場合は、「Active DesktopにWebコンテンツを表示」の左の☒をクリックして☐にしてください。

休止状態から復帰する

休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。休止状態からの復帰は次の方法で行います。

- 電源スイッチを押す

「Retuning to Windows ...」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示され、復帰が完了すると、元の状態(休止状態に入る前)の画面が表示されます。

Intel® SpeedStep™テクノロジー

Intel® SpeedStep™テクノロジーのセットアップ

Intel® SpeedStep™ テクノロジーを使用できるようにするには、次の手順でセットアップを行う必要があります。

- 1 デスクトップ上の (SpeedStep) をダブルクリックする
- 2 「ようこそ」画面で「次へ」ボタンをクリックする
- 3 「ライセンス契約」の内容を読み、内容に同意できる場合には「はい」ボタンをクリックする
- 4 「セットアップの完了」画面で、「はい、直ちにコンピュータを再起動します。」を選んで「完了」ボタンをクリックする

パソコンが自動的に再起動します。

Intel® SpeedStep™テクノロジーの設定をする



チェック

バッテリー駆動時はクロック周波数が下がります。バッテリー駆動時のクロック周波数は次のとおりです。

LG10J: 1.0GHz → 700MHz

LC800J: 800MHz → 700MHz

LC750J、LG75J: 750MHz → 600MHz

■ BIOSセットアップメニューで設定する

BIOSセットアップメニューの「詳細」メニューの「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジー」で設定できます。

モード	機能
自動	AC電源で駆動中にこのパソコンを使用する場合、最高性能で動作します。
バッテリー	常にバッテリー最適性能で動作します。
使用しない	本機能が、無効になります。

: 購入時の設定



参照

「詳細」メニューの設定 → PART5の「BIOSセットアップメニュー (→ p.222)」

■ コントロールパネルの「電源の管理」で設定する

- 1 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする
「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジー」タブをクリックする





インジケータ領域(タスクトレイ)のをダブルクリックしても起動することができます。

パソコンをバッテリーのみで使用するときに、AC電源で使用する時の設定を行います。

- バッテリーモードの場合

「バッテリーに合わせたパフォーマンス」に設定されています。この項目は変更できません。

- AC電源の場合

「バッテリーに合わせたパフォーマンス」または「最大パフォーマンス」のどちらかを選択できます。

をクリックして選んでください。



- ・「電源が変更されたときにパフォーマンスを自動的に変更」が☒になっていると、バッテリー駆動からAC駆動に変更した場合、自動的に「AC電源の場合」で設定した動作に変わります。
- ・「パフォーマンスを自動的に変更する前に確認」が☒になっていると、バッテリー駆動からAC駆動に変更した場合に、パフォーマンスを自動的に変更するかどうかの確認メッセージが表示されます。
- ・「Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジ」タブでの設定内容は、このパソコンの終了時にBIOSセットアップメニューに反映されます。

セキュリティ機能

このパソコンのセキュリティ機能

セキュリティ機能を利用すると、パソコンの不正使用やデータの盗難を防止するためのパスワードを設定したり、起動に必要なファイルを保護したりすることができます。



チェック

セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意してください。

パスワードを設定してパソコンの利用者を制限する

パスワードを設定することで、このパソコンの利用者を制限するとともに、不正使用を防止することができます。パスワードはBIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

- ・パソコンの起動
- ・BIOSセットアップメニューの起動と設定変更



チェック

- ・設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。
- ・ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などにこのパソコンの修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。



参照

パスワードを忘れてしまった → 『困ったときのQ&A』PART2の「パスワード」

パスワードの種類

設定可能なパスワードには、「スーパーバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

- スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードは、おもに管理者用のパスワードで、管理者以外の不正な使用や設定の変更を防止したり、このパソコンの使用者を制限するために設定します。また、使用者の使用できる機能を制限することもできます。

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力しないかぎりBIOSセットアップメニューを起動できなくなります。

- ユーザパスワード

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードが設定されていないと設定できないパスワードです。おもに使用者のためのパスワードで、パスワードを入力しないとパソコンを使用できなくなります。

パスワードを使った管理

たとえば、管理者がスーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定し、通常の利用者にはユーザパスワードのみを通知します。このように設定しておく、管理者以外はBIOSセットアップメニューの設定を変更できなくなります。また、どちらのパスワードも通知されていない人は、パソコンを起動することもできません。

パスワードを設定する

スーパーバイザパスワードとユーザパスワードは、BIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定後にBIOSセットアップメニューを起動するときは、設定したパスワードを入力しなければ、BIOSセットアップメニューを起動することができなくなります。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→p.222)

2 「セキュリティ」メニューを選ぶ

3 【↓】を使って「スーパーバイザパスワード設定」または「ユーザパスワード設定」を選ぶ



チェック

スーパーバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

4 【Enter】を押す

パスワード設定の画面が表示されます。

5 パスワードを入力する**チェック**

ニューメリックロックキーランプ () が消灯していることを確認し、パスワードの文字列を8文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z / 大文字 / 小文字の区別はありません と半角数字の0～9だけです。

6 【Enter】を押す**7** 手順5で入力したパスワードを、もう一度入力する**8** 【Enter】を押す**9** 「セットアップ通知」画面が表示されるので、いずれかのキーを押す**10** 設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する**チェック**

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

パスワードを入力するタイミング

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードを入力するように要求されます。BIOSセットアップメニュー起動時以外にも、次のようなタイミングに設定できます。

■ パソコンの起動時

パソコンの起動時に常にパスワードを入力するように設定するには、次の手順で行います。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(→ p.222)**2** 「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」を選ぶ**3** 「使用する」を選ぶ**4** BIOSセットアップメニューを終了する

パスワードを入力する

■ パスワードを設定しているときの電源の入れかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティ」メニューの「起動時のパスワード」が「使用する」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

1 パソコンの電源を入れる

次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

パスワードを入力してください。[_]

2 設定されているパスワードを入力する

3 【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。



チェック

- ・ 誤ったパスワードが入力されると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このときは、電源スイッチ(⏻)を押して電源を切ったあと、もう一度手順1からやり直してください。
- ・ スーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方が設定されている場合、どちらのパスワードでも復帰することができます。
- ・ 誤ったパスワードが入力されると復帰できません。

その他のセキュリティ機能を使う

ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止

ハードディスクの起動セクタを書き込み禁止に設定できます。起動セクタ部分が削除されたり、書き換えられたりすると、パソコンを正常に起動することができなくなります。書き込み禁止に設定すると、起動セクタをコンピュータウイルスなどから保護できます。

起動セクタへのウイルス感染防止の設定は、BIOSセットアップメニューで行います。



参照

ハードディスク起動セクタを保護する → PART 5 の「セキュリティ」メニューの設定 (p.228)

盗難防止用ロック

本体の盗難防止用ロックに市販の盗難防止用ケーブルを取り付けると、本体の盗難を防止できます。



参照

盗難防止用ロック→このPARTの「本体の各部の名称」の「本体背面」(p.3)



メモ

このパソコンの盗難防止用ロックは、キーケーブルロック等のセキュリティワイヤーに対応しています。製品についてのお問い合わせは、以下のとおりです(2001年4月現在)。

日本ポラデジタル株式会社 第3営業部

〒104-0032 東京都中央区八丁堀1丁目5番2号 はごろもビル5F

Tel:03-3537-1070 Fax:03-3537-1071

サウンド機能

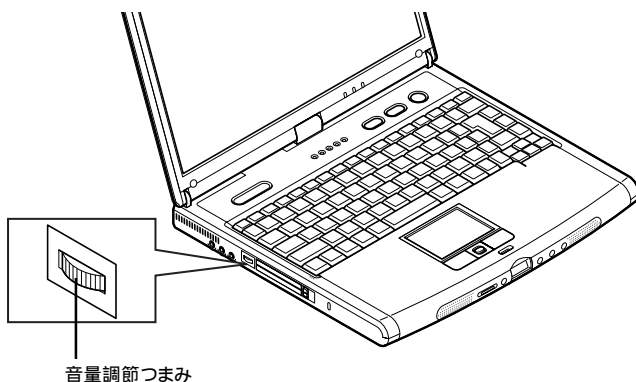
音量を調節するには

このパソコンにはスピーカが内蔵されています。スピーカからの再生音量は、本体の「音量調節つまみ」や、「ボリュームコントロール」を使って調節できます。「ボリュームコントロール」では再生音量だけでなく、録音時の入力レベルなども調節できます。

音量調節つまみを使う

1 音量調節つまみを回して調節する

音量を上げたいときはつまみを本体の背面側に回し、下げたいときは本体の前面側に回します。

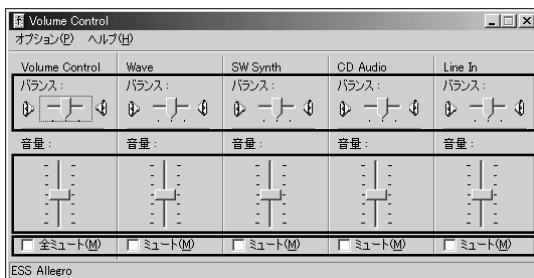


ボリュームコントロールを使う

ボリュームコントロールでは、内蔵音源の再生音量や録音するときの入力レベルを調節することができます。

ボリュームコントロールを起動する

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテイメント」→「ボリュームコントロール」をクリックする
「Volume Control」の画面が表示されます。



各音源で、左右のスピーカのバランスを調節できる

つまみを上下すると、音量調節ができる

☐ をチェックすると消音状態になる

2 や をドラッグして調節する



チェック

ディスプレイの解像度を低解像度に設定しているときにボリュームコントロールを表示させると、ボリュームコントロールのすべての音源コントロールが表示されない場合や右端の音源コントロールの表示が一部欠ける場合があります。このようなときには、ディスプレイの解像度を変更する(→p.58)か、または「プロパティ」ウィンドウの「表示するコントロール」欄で、使用しない音源の選択を解除し、必要な音源コントロールが表示されるように変更してください。なお、ディスプレイの解像度を変更する場合は、ボリュームコントロールを一旦終了し、解像度を変更後に再度ボリュームコントロールを起動してください。

表示項目を切り替える

ボリュームコントロールに表示させる項目を切り替えることができます。

1 メニューバーの「オプション」→「プロパティ」をクリックする 「プロパティ」が表示されます。



2 「再生」「録音」のどちらかを にする 表示項目が切り替わります。

■ 設定項目一覧

表示できる項目と各項目の説明は、次のようになります。

項目	音量調整の種類		説明
	再生	録音	
Volume Control	○		再生するすべての音量を調整します。
Wave	○		WAVEなどのPCM音源の音量を調整します。
SW Synth	○		MIDIの音量を調整します。
CD Audio	○	○	CDオーディオを再生、または録音するときの音量を調整します。
Line In	○	○	Line Inに接続している機器から入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
Microphone	○	○	マイクロホン端子から入力される音声をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
IIS	○		本機では使用できません。
Phone Line	○	○	本機では使用できません。
Mixer		○	録音するすべての音量を調整します。



チェック

そのほかに表示される項目については、このパソコンでは使用できません。

マイクの感度を調整する

- 1 「Volume Control」画面に「Microphone」が表示されていることを確認し、メニューバーの「オプション」→「トーン調整」をクリックする
「Volume Control」画面の「Microphone」の項目に「トーン」ボタンが追加表示されます。
- 2 「トーン」ボタンをクリックする
Microphoneの詳細設定画面が表示されます。
- 3 「+20dB Gain(1)」を☒にする
マイクの感度が上がります。



チェック

このパソコンでは「そのほかの調整」のみ調整可能です。

ビープ音を設定する

キーボードを使ってビープ音のオン / オフの設定ができます。

1 【Fn】+【F6】を押す

キーを押すごとに、ビープ音のオン / オフを切り替えることができます。

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について

このパソコンには、光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子が用意されており、光デジタル入力を持ったオーディオ機器に接続して音を聞いたり、オーディオ機器にデジタル録音できます。



メモ

光デジタル入力端子を持つオーディオ機器として、MDデッキやAVアンプなどがあります。

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子からは、スピーカから出力されるすべての音声を出力できます(WAVE出力、MIDI出力、音楽CDなど)。

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力するための設定

このパソコンで光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子から光デジタルで出力するためには、以下の設定が必要です。

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテインメント」→「ボリュームコントロール」をクリックする
- 2 「オプション」→「トーン調整」をクリックする
- 3 「Volume Control」項目の「トーン」ボタンをクリックする
「Volume Controlの詳細設定」画面が表示されます。
- 4 「その他の調整」の「Enable S/PDIF(1)」と「Enable MD S/PDIF(2)」の左の□を☑にする
- 5 「閉じる」ボタンをクリックする



参照

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子→PART4の「その他の機器を使う」の「ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子」(p.217)

音楽CDのデジタル出力設定

音楽CDからのデジタル出力を、光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子から光デジタルで出力する場合は、次の手順で設定を変更してください。

- 1 コントロールパネルを開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
- 3 「CD-ROM」の左の $\oplus$ をクリックして、その下に表示されるCD-ROMデバイスをダブルクリックする
- 4 「プロパティ」タブの「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を $\checkmark$ にする
- 5 「OK」ボタンをクリックする
- 6 「OK」ボタンをクリックする

P A R T

2

通信機能

このパソコンを、一般の電話回線、携帯電話、PHS
などに接続して使う方法を説明します。

モデム

内蔵のモデムを利用する

内蔵モデムと電話回線を接続すると、「インターネットに接続する」「メールの送受信をする」「FAXの送受信をする」などができるようになります。

電話回線に接続するときは

使用する電話回線の種類によってはすぐに接続できない場合があります。

電話回線の種類	対処方法
モジュラージャック方式	このパソコンに付属しているモジュラーケーブルを使って接続してください。
3ピンプラグ式コンセント	そのままでは接続できません。市販の3ピンプラグ変換アダプタを使用するか、NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。
直結配線方式	そのままでは接続できません。モジュラージャックに変更する必要があります。NTTにモジュラージャックの取り付けをご相談ください。

■ 電話回線に接続する

このパソコンと電話回線とを接続するときは、添付のモジュラーケーブルを使用して、本体の電話回線用モジュラーコネクタと電話回線を接続してください。接続について詳しくは、『はじめにお読みください』をご覧ください。



参照

電話回線に接続する→『はじめにお読みください』の「インターネットに接続しよう」



メモ

このパソコンに付属のモジュラーケーブルの長さが足りないときには、十分な長さの市販のモジュラーケーブルを購入してください。



チェック

内蔵のFAXモデムは、加入電話回線に適合するように設計されています。加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。

1つの電話回線のモジュージャックをパソコン以外の機器(たとえば電話機など)と共用する場合は、機器を使用するごとにケーブルの接続や取り外しが必要になります。パソコンと電話機などを両方とも電話回線に接続したままにしたいときは、次の「1つの電話回線にパソコンと電話機の両方を接続する」をご覧ください。

■ 接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先をモデムを使用した接続設定にするときは、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成するときに、「モデムの選択」で次のものを選んでください。

- ・ モデム / LAN同時搭載のモデル
3Com Mini PCI 56K Modem
- ・ LaVie Gシリーズのモデムのみのモデル
LT Win Modem

1つの電話回線にパソコンと電話機の両方を接続する

電話回線のモジュージャックが1つの場合、パソコンで通信している間は、電話機のモジュラーケーブルの接続を取り外す必要があります。電話機のモジュラーケーブルを取り外したくない場合は、市販の分岐アダプタを利用することができます。

⚠ 警告



感電注意

- 雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

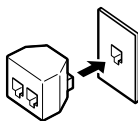
⚠ 注意



感電注意

- モジュージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。

1 分岐アダプタをモジュージャックに接続する



2 モジュラーケーブルを、分岐アダプタの一方と内蔵モデムのモジュラージャックに接続する

3 電話機と分岐アダプタのもう一方のモジュラージャックを接続する



チェック

- ・ 分岐アダプタを使用しても、パソコンと電話機が同時に電話回線を使用することはできません。
- ・ パソコンで通信中は、電話機の手話器を外さないでください。通信が妨害され、切断されることがあります。



メモ

分岐アダプタの2つのモジュラージャックは同じものです。電話機とパソコンのどちらにも接続可能です。

内蔵モデム使用上の注意

- ・ このパソコンでは、データ通信、ファクシミリ通信、インターネット通信の各機能が使えますが、これらの機能は添付のアプリケーション以外では動作しない場合があります。これらの機能の詳しい使用方法については「サポートセンタ」をご覧ください。
- ・ 内蔵FAXモデムは一般電話回線のみに対応しています。
- ・ 加入電話回線がトーン式かパルス式かわからないときは、NTTに確認してください。
- ・ 回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ることがあります。
- ・ キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ・ ダイヤルアップネットワーク接続の場合、Internet Explorerを終了しても回線が接続されたままになっている場合があります。回線を切断する必要がある場合は、インジケータ領域（タスクトレイ）の「ダイヤルアップネットワーク」アイコンを右クリックし、表示されたメニューから「切断」をクリックしてください。
- ・ コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線を使っている場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- ・ 回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- ・ 電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。
- ・ データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。
- ・ 通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要なことがあります。送信レベルの調整は、工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

- ・このパソコンに内蔵されているモデムは、海外では使用できません。
- ・回線を使って通信中は、スタンバイ状態や休止状態にしないでください。
- ・構内交換機(PBX)の種類によっては、内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。



参照

ATコマンドについて→「サポートセンタ」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」

インターネットへの通信環境を切り替える

このパソコンに添付されている「インターネット設定切替ツール」を使うと、複数のダイヤルアップ接続を使い分けたり、ダイヤルアップ接続からLAN接続へ切り替えたりと、利用シーンに応じて通信環境を切り替えることができます。パソコンを携帯して、外出先でインターネットを利用するときなどに便利な機能です。



参照

「インターネット設定切替ツール」の詳しい使いかた→「添付ソフトの使い方」-「インターネット設定切替ツール」

携帯電話 / PHS 接続機能

携帯電話またはPHSと接続する

このパソコンに携帯電話やPHSを接続して、屋外でもインターネットや電子メールを利用することができます。

このパソコンに携帯電話やPHSを接続する場合には、次のような別売の携帯電話接続ケーブルやPHS接続ケーブルが必要です(LaVie Gシリーズで、それぞれのケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。

- ・ 携帯電話(DoPa / PDC) 接続ケーブル(PC-VP-WK05)
- ・ cdmaOne 接続ケーブル(PC-VP-WK06)
- ・ PHS(NTTドコモ / アステル) 接続ケーブル(PC-VP-WK07)
- ・ PHS(DDI ポケット) 接続ケーブル(PC-VP-WK08)



メモ

接続できる携帯電話またはPHSについては、NECのホームページ「121ware.com(ワントゥワンウェア ドット コム)」をご覧ください。

<http://121ware.com/>

接続の方法

このパソコンに携帯電話またはPHSを接続する方法は、次のとおりです。

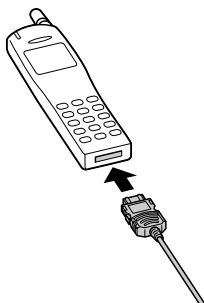
⚠ 警告



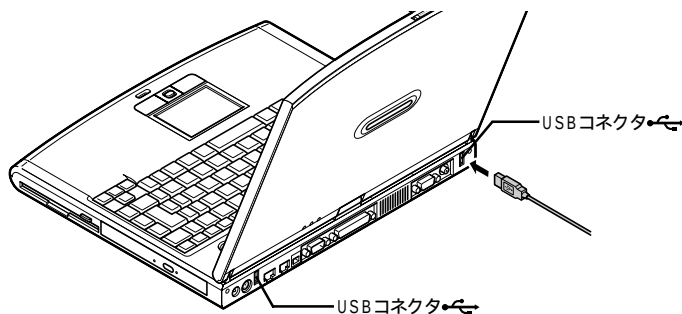
感電注意

- 雷が鳴り出したら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

- 1 携帯電話接続ケーブルまたはPHS接続ケーブルのプラグを、携帯電話またはPHS本体に接続する
プラグの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。



- 2 パソコンのUSBコネクタ()に、接続ケーブルのプラグを接続する
プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。



メモ

このパソコンにはUSBコネクタが2つ用意されています。接続ケーブルのプラグは、どちらのUSBコネクタに接続してもかまいません。USBコネクタへの接続について詳しくは、PART4の「USB対応機器」(→p.213)をご覧ください。

携帯電話 / PHS接続機能を使用するときの注意

- ・ このパソコンの携帯電話 / PHS接続機能で使えるアプリケーションは、購入時にインストールまたは添付されているもののみです。携帯電話またはPHS用に市販されているアプリケーションを使用することはできません。
- ・ ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。



参照

ATコマンドについて→「サポートセンタ」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、携帯電話またはPHSを使用した接続設定にするときは、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成するときに、「モデムの選択」で「SunComm MultiMobile3 USB」を選んでください。



チェック

お使いの携帯電話またはPHSによっては、電話機側に設定が必要な場合や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは、携帯電話またはPHSのマニュアルをご覧ください。また専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。

ダイヤル設定のしかた

携帯電話またはPHSを接続して、屋外などでインターネットや電子メールをご利用になる場合、近くのアクセスポイントを使えば電話料金を節約することができます。



メモ

ここでの説明は、すでにプロバイダとの契約が終わっていることが前提となっています。

このパソコンには、「インターネット設定切替ツール」が添付されていますので、モバイルする場所にあわせて最適な設定へ簡単に切り替えることができます。購入時の状態では、「インターネット設定切替ツール」はインストールされていません。「インターネット設定切替ツール」を使う場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM」を使ってインストールしてください。

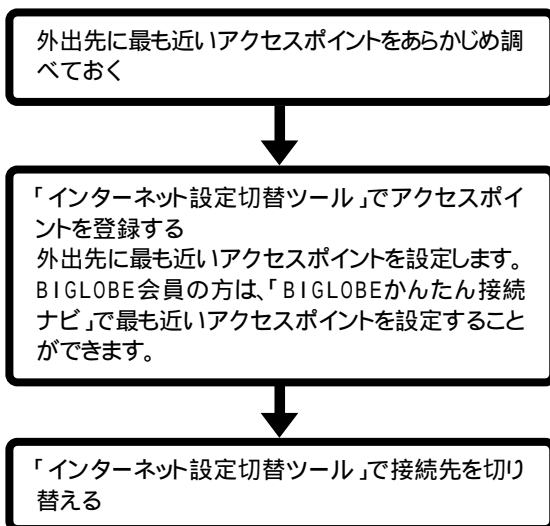


参照

「インターネット設定切替ツール」のインストール方法→「サポートセンタ」→「アプリケーションの追加と削除」

「インターネット設定切替ツール」でアクセスポイントなどの設定を切り替えるには、まず自分が使用する予定の場所の市外局番やダイヤル方法、アクセスポイントを設定しておく必要があります。

一度設定すると、接続先を選ぶだけでインターネットエクスプローラやメールソフトの設定など、インターネットへの接続環境をすべて同時に変更することができます。外出先でも快適に利用するために、以降の説明を読んで必要な設定を行ってください。



これで外出先でインターネットやメールを楽しむことができます。



メモ

- ・ アクセスポイントを変更しなくてもインターネットやメールを楽しむことはできますが、アクセスポイントまでの電話料金がたくさんかかることになります。最も近いアクセスポイントに変更することによって電話料金をおさえることができます。
- ・ 「BIGLOBEかんたん接続ナビ」でアクセスポイントを変更する→「添付ソフトの使い方」-「インターネットするならBIGLOBE」



参照

「インターネット設定切替ツール」の詳しい使いかた→「添付ソフトの使い方」-「インターネット設定切替ツール」をご覧ください。

設定を元に戻す

外出先でインターネットやメールを楽しんだあとは、変更した設定を元に戻す必要があります。

外出時にインターネット接続に関する設定を変更しなかった場合は、そのままインターネットやメールを楽しめます。

インターネット接続の設定を元に戻す
「インターネット設定切替ツール」でインターネット
接続の設定を自宅の設定に戻します。

自宅のインターネット接続の設定を「インターネット設定切替ツール」に登録していない場合は、p. 99のフローチャートを参考にして、「インターネット設定切替ツール」に自宅でのインターネット接続の設定を登録してください。



参照

「インターネット設定切替ツール」の詳しい使いかた→「添付ソフトの使い方」・「インターネット設定切替ツール」

いろいろなデータ通信を行う

このパソコンの携帯電話 / PHS接続機能では、通常のデータ通信のほかに、次のようなデータ通信を行うことができます。

cdmaOneでデータ通信を行う

cdmaOne電話機のデータ通信モードを「Async」に設定して、接続するとcdmaOneでデータ通信が利用できます。

cdmaOne電話機のデータ通信モードを「Packet」に設定してUSBコネクタに接続すると、cdmaOneでPacket通信が利用できます。「Async」モードおよび「Packet」モードの切り替えは、cdmaOneの取扱説明書をご覧ください。



チェック

cdmaOneを使用するには、別売のcdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK06)が必要です(LaVie GシリーズのcdmaOne接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。

NTTドコモのDoPaサービスでデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのDoPaサービス(パケット通信サービス)を利用できます。



チェック

NTTドコモのDoPaサービスを使用するには、別売の携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)が必要です(LaVie Gシリーズの携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。

- 1 NTTドコモのDoPaサービスが利用可能な携帯電話を、携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブルを使ってパソコンのUSBコネクタに接続する
- 2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##02」を追加する



チェック

- ・DoPaによる通信をする場合には、DoPa対応のアクセスポイントに接続する必要があります。
- ・DoPaサービスを利用せずに9600bpsデータ通信を行う場合、「##02」を追加する必要はありません。

NTTドコモのドッチーモでPIAFS32Kのデータ通信を行う

次の手順を行うとNTTドコモのドッチーモでPIAFS32Kの通信が利用できます。



チェック

NTTドコモのドッチーモでPIAFS32Kのデータ通信を使用するには、別売の携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)が必要です(LaVie Gシリーズの携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)。

- 1 ドッチーモを、携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブルを使ってパソコンのUSBコネクタに接続する
- 2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##3」を追加する



チェック

- ・ドッチーモでPIAFS32K通信を行う場合には、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切り替える必要があります。
- ・NTTドコモ、アステル、DDIポケットのPHSをお使いの場合、「##3」を追加する必要はありません。

NTTドコモのPHS(64K対応)またはドッチーモでPIAFS64Kのデータ通信を行う次の手順を行うとNTTドコモのPHS(64K対応)またはドッチーモでPIAFS64Kの通信が利用できます。



チェック

- ・ NTTドコモのPHSを使用するには、別売のPHS(NTTドコモ / アステル)接続ケーブル(PC-VP-WK07)が必要です(LaVie GシリーズのPHS(NTTドコモ / アステル)接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)
- ・ NTTドコモのドッチーモでPIAFS64Kのデータ通信を使用するには、別売の携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)が必要です(LaVie Gシリーズの携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)

- 1 NTTドコモのPHS(64K対応)またはドッチーモを、接続ケーブルを使ってパソコンのUSBコネクタに接続する
- 2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する



チェック

- ・ ドッチーモでPIAFS64K通信を行う場合には、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切り替える必要があります。
- ・ PIAFS64K通信モードで、PIAFS32K専用のアクセスポイントへあやまって接続した場合、いったん接続した後で切断されることがあります。PIAFS64Kで通信を行う場合は、必ずPIAFS64K対応のアクセスポイントに接続してください。

DDIポケットの電話機(32K対応)でPIAFS32Kのデータ通信を行う



チェック

DDIポケットの電話機を使用するには、PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)が必要です(LaVie GシリーズのPHS(DDIポケット)接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)

- 1 DDIポケットの電話機(32K対応)を接続ケーブルを使ってパソコンのUSBコネクタに接続する
- 2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##3」を追加する



チェック

DDIポケットの電話機を使ってPIAFS32Kデータ通信を行う場合には、PIAFSに対応したアクセスポイントに接続する必要があります。

DDIポケットのH"(エッジ)でPIAFS64Kのデータ通信を行う



チェック

DDIポケットのH"を使用するには、PHS(DDIポケット)接続ケーブル(PC-VP-WK08)が必要です(LaVie GシリーズのPHS(DDIポケット)接続ケーブル添付のモデルを購入された場合を除く)

1 H"(電話機)を接続ケーブルを使ってパソコンのUSBコネクタに接続する

2 「ダイヤルアップの接続」画面で、電話番号の最後に「##4」を追加する



チェック

- ・ 電話番号の最後に「##4」を追加せずに発信すると32Kbpsでの接続になります。
- ・ 一部の地域では64Kbpsでのデータ通信ができない場合がありますが、32Kbpsでのデータ通信は可能です。
- ・ 回線の混雑具合により、32Kbpsで接続される場合があります。

携帯電話連携機能

携帯電話連携機能とは

このパソコンには、携帯電話をより便利に使うためのアプリケーションがインストールされています。携帯電話に登録してある情報を編集したり、パソコンで入力した予定表や連絡先、パソコンで作成した画像などのデータを、iモード機能を備えている携帯電話で閲覧することができます。

携帯電話に登録してある情報を編集する

このパソコンと携帯電話を接続して、携帯電話に登録してある電話番号や連絡先などの情報をパソコン上で編集することができます。編集作業には「携快電話4N」を使います。また、携快電話4Nでは、着信メロディやメールの編集に利用することもできます。

携快電話4Nを使う

携快電話4Nを使うためには、次の装置が必要です。

- 市販の携帯電話
- 携帯電話接続ケーブル

このパソコンと携帯電話を接続するためのケーブルです。

LaVie Gシリーズの携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル添付のモデル、LaVie GシリーズのcdmaOne接続ケーブル添付のモデルには携帯電話接続ケーブルが添付されています。

上記以外のモデルをお使いの場合は、別売の携帯電話(DoPa/PDC)接続ケーブル(PC-VP-WK05)またはcdmaOne接続ケーブル(PC-VP-WK06)が必要です。携帯電話の機種によって接続できるケーブルが異なりますので、購入の際に確認してください。



メモ

携快電話4Nが使える携帯電話の機種、注意事項などの情報は、NECのホームページ「121ware.com(ワントゥワンウェア ドット コム)」やReadmeファイルをご覧ください。

- ・ ホームページのアドレス

<http://121ware.com/>

- ・ 「スタート」ボタン→「プログラム」→「携快電話4N」→「お読みください」をクリックすると表示される携快電話4NのReadmeファイル



参照

携快電話4Nの詳しい使いかた→携快電話4Nのヘルプまたは「添付ソフトの使い方」-「携快電話4N」

2

通信機能

iモード機能を備えている携帯電話と連携して使う

予定表や連絡先をホームページ上で入力したり、作成した画像データなどをあらかじめホームページに登録しておき、そのデータをiモード機能を備えている携帯電話を使って閲覧することができます。

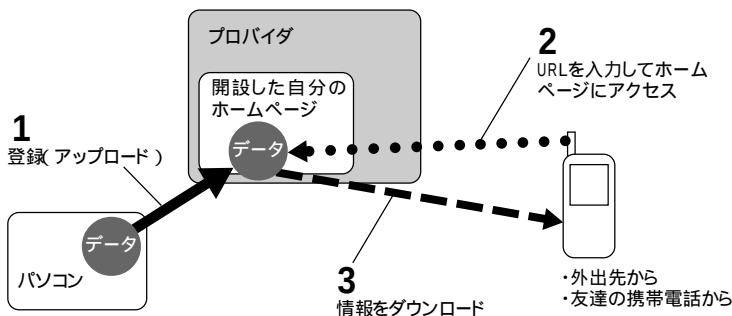
携帯電話でデータを閲覧できるようにするためには、次の装置が必要です。

- iモード機能を備えた市販の携帯電話

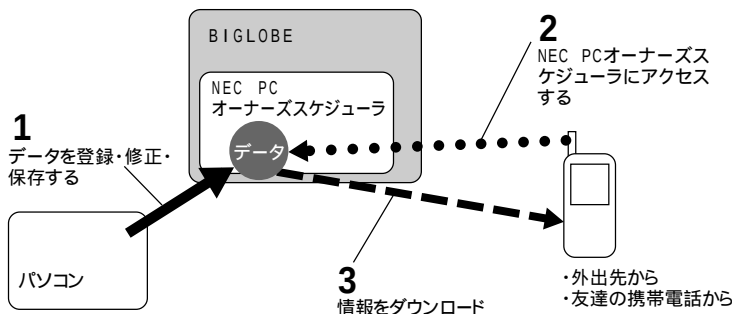
携帯電話でデータを閲覧するには

次の図のような流れでデータを登録し、携帯電話で閲覧します。

- 自分のホームページを使用する場合



- NEC PCオーナーズスケジューラを使用する場合



携帯電話でデータを閲覧するための準備

- インターネットに接続できる環境にする
プロバイダに入会してインターネットに接続できるように設定しておきます。



参照

インターネットに接続する→『はじめにお読みください』の「インターネットに接続しよう」または『使っておぼえるパソコンの基本』または『添付ソフトの使い方』-「インターネットをはじめたい」

- 閲覧したいデータを置いておく場所を確保する
携帯電話から閲覧したいデータを置いておく場所を確保するには、自分のホームページスペースを確保しておく方法と、NEC PCオーナーズスケジューラを利用する方法があります。

- 自分のホームページスペースを開設する

FTPプロトコル(インターネット上でファイル転送するための規格)に対応した、インターネットに公開可能なホームページスペースを開設しておきます。
ホームページの開設方法は、各プロバイダに確認してください。



メモ

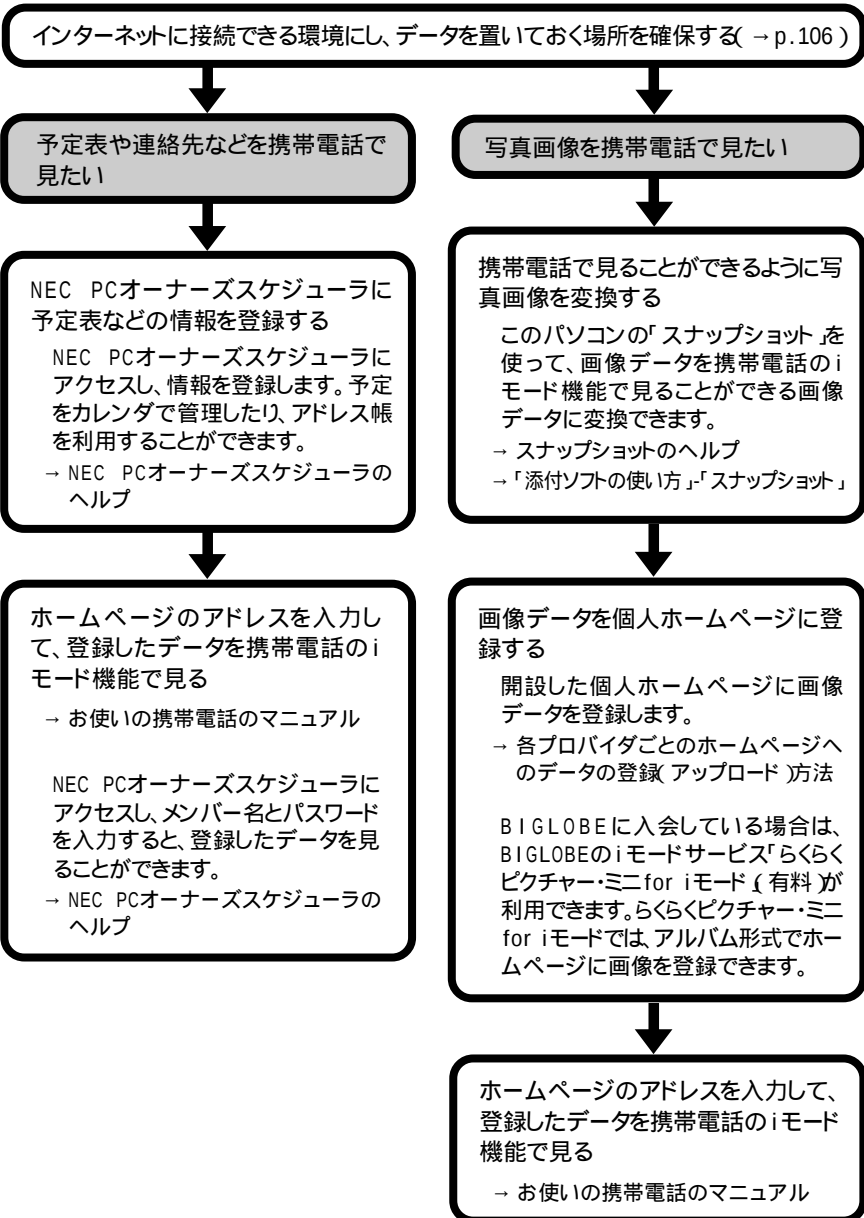
ここでいうホームページスペースとは、プロバイダに入会して開設した個人ホームページのことです。開設した個人ホームページに自分の予定表や好きな画像などのデータを登録し、携帯電話からその場所を閲覧します。

- NEC PCオーナーズスケジューラに登録する
NEC PCオーナーズスケジューラは、予定表、アドレス帳などの情報をインターネット上でまとめて管理するためのホームページです。
NEC PCオーナーズスケジューラの基本サービスへの登録は無料です。

NEC PCオーナーズスケジューラのURL

http://www.biglobe.ne.jp/nec_pc/imodel/schedule/

携帯電話で登録したデータを見る



LAN(ローカルエリアネットワーク)

ここでは、LAN内蔵モデルについてのみの説明をしています。

LANへの接続

このパソコンの内蔵LANボードは、100BASE-TXまたは10BASE-Tネットワークシステムに接続することができます。



メモ

100BASE-TXは、従来のEthernet(10BASE-T)の環境で転送速度100Mbpsを実現したネットワークです。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のハブやリンクケーブルを変更するだけで、高速化がはかれます。このパソコンは、どちらの環境にも接続することができます。

LANの設置

はじめて100BASE-TXネットワークを設置するためには、配線工事などの技術が必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、このパソコンに接続するケーブル類やハブなどは、弊社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

接続方法

既存のネットワークに、端末としてこのパソコンを接続する場合について説明します。

ネットワークへの接続には、リンクケーブルが必要です。

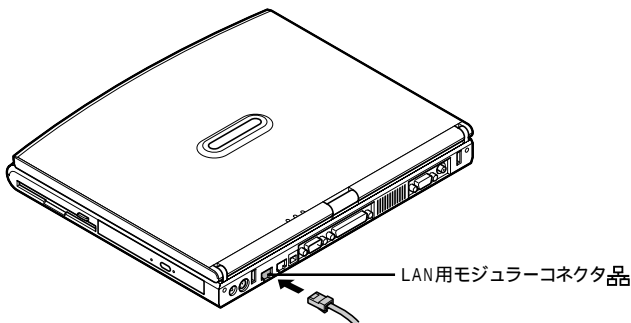
このパソコンに内蔵されているLANインターフェイスは、100Mbpsで動作する100BASE-TX基準を満たしています。100BASE-TX(100Mbps)で使用する際には、必ずカテゴリ5のリンクケーブルを使用してください。10BASE-T(10Mbps)で使用する際には、カテゴリ3または5のリンクケーブルを使用してください。



チェック

このパソコンを稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示にしたがって、ネットワークの設定やリンクケーブルの接続を行ってください。

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「終了」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り出す
- 3 リンクケーブルの一端を、このパソコンのLAN用モジュラーコネクタに、奥までしっかり差し込む



- 4 リンクケーブルのもう一方を、ネットワーク(100BASE-TXハブなど)に接続する
ネットワーク側の接続や設定については、接続した機器のマニュアルをご覧ください。

運用上の注意

- LANに接続してこのパソコンを使用するときは、次の点に注意してください。
- ・システム運用中は、ハブからリンクケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にリンクケーブルが外れたときは、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、このパソコンを再起動してください。
 - ・LAN回線を接続してネットワーク通信をするときには、このパソコンにACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリーパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。
 - ・ネットワーク(LAN)に接続して通信状態のときは、スタンバイ状態や休止状態にしないでください。このパソコンが正常に動かなくなることがあります。
 - ・100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

電源回復(スタンバイ状態からの復帰)の設定

次の設定を行うと、このパソコンをネットワークに接続して使用している場合、電源回復イベントが発生したときに、パソコンをスタンバイ状態から自動的に復帰させることができます。



メモ

電源回復イベントには、従来からサポートされているMagicPacket検出に加えて、電源回復フレーム検出(例えば、ARPリクエスト、NETBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどの検出)が追加されています。

ARPリクエスト、NETBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどは、コンピュータをネットワークに接続して使用していると、他のコンピュータから不定期に送られてくるため、パソコンをスタンバイ状態にしておく、これらが検出されたときに、不定期にスタンバイから復帰することがあります。



チェック

電源回復イベントの設定を行った場合は、購入時の設定で使う場合に比べて、パソコンのバッテリーの消費量が大きくなります。バッテリー駆動時間を優先してパソコンを使いたい場合は、電源設定は行わずに出荷時の設定で使用してください。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
- 3 「ネットワークアダプタ」の左の $\oplus$ をクリックして、表示されたLANアダプタをダブルクリックする
- 4 「電源の管理」タブをクリックする
- 5 以下の設定を行う
 - ・「節電のためにコンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」を「オン」にする
 - ・「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」を「オン」にする

Wake on LAN機能を使用するときの注意

ここでは、モデム / LAN同時搭載のモデルのみの説明をしています。

Wake on LAN機能を使用するときは、次の設定が必要です。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
- 3 「ネットワークアダプタ」の下で「3Com 10/100 Mini PCI Ethernet Adapter」をクリックして、「プロパティ」ボタンをクリックする
- 4 「電源の管理」タブをクリックして、「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」を☒にし、「OK」ボタンをクリックする
- 5 「OK」ボタンをクリックする
「システムのプロパティ」画面が閉じます。
- 6 「コントロールパネル」を開き、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックする
- 7 「3Com 10/100 Mini PCI Ethernet Adapter」を選んで、「プロパティ」ボタンをクリックする
- 8 「詳細設定」タブを選んで、「Wake On Link」「Wake On Magic」「Wake On Pattern」の設定を「On」または「Off」に設定する

ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス)

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE(米国電気電子技術者協会)で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。ユニバーサル管理アドレスは、次の方法で確認することができます。

MS-DOSプロンプトで、次のコマンドを入力してください(ただし、TCP/IPプロトコルが必要です)。

Winipcfg.exe【Enter】

CATVでインターネットを利用する

このパソコンに内蔵されているLANインターフェイスから、CATVインターネットを利用することができます。

CATVインターネットとは

CATVインターネットは、CATVのケーブルを利用したインターネット接続サービスです。

約500Kbps～約10Mbps(モデムの約10～100倍)の高速な接続が可能です。また、電話回線を利用しないため、電話料金がかりません(ただしCATVインターネットのサービス会社への接続料金はかかります)。



メモ

データの転送速度は、CATVインターネットのサービス会社によって異なります。また、データの転送速度は、回線の混雑の状況、データを転送する状況(アップロード時か、ダウンロード時か)によって変化することがあります。

CATVインターネットを利用するには

CATVインターネットを利用するには、CATVインターネットのサービス会社(最寄りのCATV局)と契約が必要です。最寄りのCATV局に、インターネットの接続サービスを行っているか、確認してください。

CATVインターネットへの接続方法や設定方法については、CATVインターネットのサービス会社に確認してください。

CATVインターネットのサービス会社によっては、ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス)が必要になります。ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス)については、「ユニバーサル管理アドレス(MACアドレス)」(→ p. 111)をご覧ください。

ホームネットワーク

パソコン間でホームネットワークを構築する

ホームネットワークを構築するには

ネットワークで接続するパソコン間をリンクケーブルで接続して、このパソコンに添付の「親子でね!っとりんく」をインストールすると、ホームネットワークを構築することができます。

親子でね!っとりんくは、ホームネットワーク構築に必要なプロトコルやサービスを自動的にインストールし、パソコンのTCP/IP(IPアドレスなど)の設定を自動的に行います。



参照

- ・リンクケーブルの接続 → PART2の「LAN(ローカルエリアネットワーク)」(p.108)
- ・親子でね!っとりんくのインストール → 「親子でね!っとりんくを追加する」(p.114)

親子でね!っとりんくの機能

■ インターネット接続を共有する

1つのインターネット接続用回線(アナログ電話、ISDN、ADSLなど)を、ホームネットワーク内の複数台のパソコンから同時に利用することができます。

この場合、ホームネットワーク内のパソコンは、インターネット接続用回線に直接つながっているパソコンを経由してインターネットに接続します。

たとえば、インターネット接続用回線を1つだけ持っている家庭で、家族みんながそれぞれのパソコンから同時にインターネットに接続したいときなどに利用できます。



チェック

- ・親子でね!っとりんくは、このパソコンおよび、このパソコンと同一ネットワークで接続されている特定の5台以内のパソコンにのみインストールして使用できます。
- ・複数台のパソコンでインターネット接続を共有する場合は、ご利用のプロバイダに契約内容などについて確認してください。

■ ファイルやプリンタを共有する

ホームネットワーク内のパソコン間でファイルやプリンタを共有することができます。設定を行うことにより、自分のパソコン内のファイルをほかのパソコンで開いたり、ほかのパソコンに接続されているプリンタを自分のパソコンから利用できるようになります。

ファイルやプリンタを共有しておくことで、みんなが利用したいファイルは1台のパソコンに置いておくだけでよくなったり、プリンタを使いたいときに、別のパソコンに接続されているプリンタを自分のパソコンに接続しなおす必要がなくなります。



チェック

親子でね!っとりんくは購入時にはインストールされていません。次の「親子でね!っとりんくを追加する」の手順で追加してください。

親子でね!っとりんくを追加する



メモ

ここではCD-R/RWドライブを例に説明しています。CD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-R/RWドライブ」を「CD-R/RW with DVD-ROMドライブ」に読み替えてください。



チェック

親子でね!っとりんくをインストールする前にネットワークに必要なリンクケーブルを接続してください。お使いのパソコンにLAN機能がない場合は、別売のネットワークカードの接続とネットワークアダプタのセットアップを行ってから、ネットワークに必要なリンクケーブルを接続してください。

- 1 起動しているアプリケーションがある場合は、すべて終了する
- 2 CD-R/RWドライブに、添付の「アプリケーションCD-ROM Vol.1」をセットする
- 3 「コントロールパネル」を開き、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックする
- 4 「インストールと削除」タブの「インストール」ボタンをクリックする
- 5 「次へ」ボタンをクリックする

6 「インストール プログラムのコマンド ライン」に次のように入力する

<CD-R/RWドライブ名> : ¥OyakoInk¥setup.exe

<CD-R/RWドライブ名>には、お使いのCD-R/RWドライブのドライブ番号を入力します。

7 「完了」ボタンをクリックする

「親子でね!っとりんく セットアッププログラムへようこそ」画面が表示されます。

8 「次へ」ボタンをクリックする

「親子でね!っとりんく インストール先フォルダを選択」画面が表示されます。
インストール先を変更する場合は、「参照」ボタンをクリックし、インストール先を入力して、「OK」ボタンをクリックしてください。

9 「次へ」ボタンをクリックする

「親子でね!っとりんく セットアップ開始」画面が表示されます。

10 「次へ」ボタンをクリックする

インストールがはじまります。



チェック

- ・「親子でね!っとりんく の設定」画面が表示された場合は、使用するネットワークアダプタを選んで、「OK」ボタンをクリックしてください。
- ・「親子でね!っとりんく プロトコル・サービスインストール」画面が表示された場合は、「インストール」ボタンをクリックしてください。
- ・「親子でね!っとりんくに必要なネットワークプロトコルが正しくインストールされていませんでした。」などのメッセージが表示された場合は、「完了」ボタンをクリックしてください。必要なプロトコルは後でインストールできます。

インストールが終了すると、「セットアップ完了」画面が表示されます。

11 「完了」ボタンをクリックする

12 再起動を促すメッセージが表示された場合は、「OK」ボタンをクリックする Windowsが再起動します。

再起動後、「親子でね!っとりんく インターネット接続ウィザード」が表示された場合は、次の「親子でね!っとりんくインターネット接続ウィザード」の手順を行ってください。

親子でね!っとりんくインターネット接続ウィザード

使用するパソコンにモデムが搭載されている場合は、親子でね!っとりんくをインストールして再起動したときに「親子でね!っとりんくインターネット接続ウィザード」が表示されます。ここでは、インターネット接続についての設定を行います。



メモ

- ・ADSLやCATV接続などのブロードバンドでインターネットに接続している場合、親子でね!っとりんくは自動的に、ブロードバンドでの接続をインターネット接続の初期設定として使用します。
- ・ダイヤルアップ接続を行わない場合は、ダイヤルアップアカウントを新たに設定する必要はありません。「親子でね!っとりんくインターネット接続ウィザード」で「キャンセル」ボタンをクリックしてください。

■ 設定済みの既存のインターネット接続を使用する場合

- 1 「モデムと電話回線を使用して親子でね!っとりんくをインターネットに接続する。」が☒になっていることを確認して、「次へ」ボタンをクリックする
「ダイヤルアップ用のインターネットサービスプロバイダの一覧を指定します(ダイヤルアッププライオリティ順)」と表示されます。
- 2 「追加」ボタンをクリックする
「新しいプロバイダ」画面が表示されます。
- 3 「ウィンドウズのダイヤルアップネットワークからインポートする」が選択されていることを確認し、使用する接続設定(プロバイダ)を選択する
- 4 「次へ」ボタンをクリックする
「プロバイダの名前を入力してください。」と表示されます。
- 5 プロバイダの名前に、選択したプロバイダ名が表示されていることを確認し、「次へ」ボタンをクリックする
「電話番号の追加」画面が表示されます。
- 6 プロバイダの名前に、手順3で選択したプロバイダのアクセスポイントの電話番号が表示されていることを確認し、「次へ」ボタンをクリックする
「アカウントの追加」画面が表示されます。
- 7 アカウント名(プロバイダと契約しているユーザ名)とパスワードを入力し、「完了」ボタンをクリックする
設定したプロバイダの一覧が表示されます。

- 8 「次へ」ボタンをクリックする
「インターネット接続セットアップを完了しました。」と表示されます。

- 9 「完了」ボタンをクリックする

■ 新しくインターネット接続を作成する場合

- 1 「設定済みの既存のインターネット接続を使用する場合 (p.116) の手順1 ~ 2を行う
- 2 「新規作成」を選択する
- 3 「次へ」ボタンをクリックする
「プロバイダの名前を入力してください。」と表示されます。
- 4 プロバイダの名前(例:BIGLOBEなど)を入力し、「次へ」ボタンをクリックする
「電話番号の追加」画面が表示されます。
- 5 アクセスポイントの電話番号を入力し、「次へ」ボタンをクリックする
「アカウントの追加」画面が表示されます。
- 6 アカウント名(プロバイダと契約しているユーザ名)とパスワードを入力し、「完了」ボタンをクリックする
設定したプロバイダの一覧が表示されます。
- 7 「次へ」ボタンをクリックする
「インターネット接続セットアップを完了しました。」と表示されます。
- 8 「完了」ボタンをクリックする

親子でね!っとりんくを使う



参照

親子でね!っとりんくの詳しい使いかた、設定のしかた→親子でね!っとりんくのヘルプ



メモ

親子でね!っとりんくのヘルプは、「スタート」ボタン→「プログラム」→「親子でね!っとりんく」→「親子でね!っとりんく ヘルプ」をクリックすると表示できます。

インターネットに接続する

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをクリックする
- 2 メニューから「インターネットに接続」をクリックする
ダイヤルアップ接続が始まります。ユーザ名やパスワードなどが確認された後、インターネットに接続します。

ほかのパソコンにあるファイルを利用する

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをクリックする
- 2 メニューから「ネットワークマッパー」をクリックする
ネットワーク内のパソコンのアイコンが表示されます。
- 3 ネットワーク内のパソコンのアイコンをクリックする
利用したいファイルがあるパソコンのアイコンをクリックします。

親子でね!っとりんくを削除する

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)にがある場合は、クリックして「終了」をクリックする
- 2 「コントロールパネル」を開き、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックする
- 3 「親子でね!っとりんく 1.00」をクリックする
- 4 「追加と削除」ボタンをクリックする
「親子でね!っとりんく アプリケーションとその全てのコンポーネントを削除しますか。」と表示されます。
- 5 「はい」ボタンをクリックする
アプリケーションの削除が終了すると、再起動を促すメッセージが表示されます。
- 6 「OK」ボタンをクリックする
Windowsが再起動します。

P A R T

3

マルチメディア機能

このパソコンで、音楽や映像の再生や編集を行う方法を説明します。

音楽の再生 / 編集機能

音楽を再生するには

このパソコンで音楽CDや音楽データを再生するには次のような方法があります。

- CDプレイモードで音楽CDを再生する(→ p. 122)



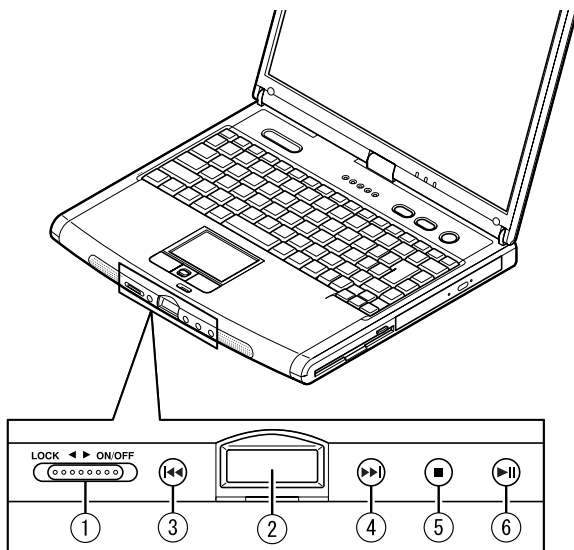
メモ

CDプレイモードとは、電源が切れている状態、またはスタンバイ状態や休止状態のときに、パソコンをオーディオ機器としてのみ使用するためのモードです。パソコンの電源が切れている、またはスタンバイ状態や休止状態のときに、オーディオ電源スイッチを操作することによりCDプレイモードになります。

- Windows Meを起動して音楽CDや音楽データを再生する(→ p. 123)
 - ・ Jet-Audio Playerを使う

音楽を再生するときに便利なボタン

音楽を再生するときに利用できるボタンやインジケータの役割は、次のとおりです。



オーディオ電源スイッチ

スイッチを右側にスライドするとCDプレイモードを起動します。CDプレイモードを終了するときは、スイッチをもう一度右側にスライドします。

スイッチをLOCK側にスライドしてロックしておく、スイッチやCDプレーヤボタンまたはCD/DVDプレーヤボタンを誤って操作してしまうのを防ぐことができます。ロックを解除するときは、スイッチを右側に少しスライドします。



メモ

パソコンの電源が入っているときはCDプレイモードにはなりません。

LCDインジケータ

LCDインジケータには次のような内容が表示されます。

状態	表示内容
再生中	現在のトラックナンバー(曲番)
一時停止中	現在のトラックナンバー(曲番)が点滅
停止時	1
ディスクが入っていない/ 音楽CD以外のディスクが セットされている	— —
スリープモード(節電モード)	S P



メモ

LCDインジケータは、トラックナンバー以外はCDプレイモードでのみ表示されます。

~ CDプレーヤボタンまたはCD/DVDプレーヤボタン

CDプレーヤボタンまたはCD/DVDプレーヤボタンには次の機能があります。

ボタン	機能
⏮	前のトラックへ戻る 押し続けると巻き戻し
⏭	次のトラックへ進む 押し続けると早送り
■	停止
⏮⏭	再生 / 一時停止



チェック

Windows Meが起動している場合、CDプレーヤボタンまたはCD/DVDプレーヤボタンは、このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」でのみ使うことができます。

音楽再生機能を使用しているときの注意

- ・CDプレイモードで音楽CDを再生中に電源スイッチを押すと、CDプレイモードは停止し、Windows Meが起動します。
- ・バッテリーのみで使用中に、CDプレイモードで音楽CDを再生していると、バッテリーがなくなった時点で電源が切れます。このとき、バッテリー容量が残り少なくなったことを知らせる警告音は鳴りません。
- ・CDプレイモードでの音楽CDの再生が終了すると、約2分後にCDプレイモードはスリープモードに変わります。このとき、LCDインジケータには「SP」と表示されます。CDプレイモードがスリープモードに入っているときは、CD再生ボタン(▶II)を押すとスリープモードから復帰します。再度音楽CDを再生するときは、もう一度CD再生ボタン(▶II)を押してください。

CDプレイモードで音楽CDを再生する



メモ

ここではCD-R/RWDドライブを例に説明しています。CD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-R/RWDドライブ」を「CD-R/RW with DVD-ROMドライブ」に読み替えてください。

- 1 パソコンの電源が切れている、またはスタンバイ状態や休止状態のときに、オーディオ電源スイッチを右側にスライドする
- 2 CD-R/RWDドライブに音楽CDをセットする(→p.45)
音楽CDをセットすると、LCDインジケータに「1」と表示されます。これで再生の準備ができました。



チェック

音楽CDをセットしてからLCDインジケータに「1」と表示されるまで数秒かかります。しばらくお待ちください。

- 3 CD再生ボタン(▶II)を押す
音楽CDの再生がはじまります。



メモ

- ・トラック(曲)を次や前に移動したいときや、再生を停止または一時停止したいときは、CDプレーヤボタンまたはCD/DVDプレーヤボタンを利用してください。トラックを移動すると、LCDインジケータに現在のトラックナンバーが表示されます。
- ・音量は、本体左側面にある音量調節つまみで調節します(→p.86)。

Windows Meを起動して音楽CDや音楽データを再生する

Jet-Audio Playerを使う

Jet-Audio Playerは、音楽CDの再生やMP3規格の音楽データを再生できるアプリケーションです。また、音楽データをWAVEファイルに変換したり、MP3、WAVE、MIDIなどの音楽データをMDに録音することもできます。



メモ

MP3とは、MPEG1 Audio Layer-3の略で、音楽データを高音質のまま高い圧縮率で保存できる規格のことです。MP3規格の音楽データは、インターネットなどからダウンロードすることができます。



参照

Jet-Audio Playerの使いかた→Jet-Audio Playerのオンラインマニュアル



メモ

Jet-Audio Playerのオンラインマニュアルは、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Jet-Audio Player」→「使い方マニュアル」をクリックすると表示できます。

CD-R/RW with DVD-ROMモデルの場合は、Jet-Audio Playerを使ってDVD VIDEOディスクを再生することもできます。DVD VIDEOディスクの再生については、「映像の再生 / 編集機能」(→p.126)をご覧ください。

編集してオリジナルMDを作る

このパソコンの光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子と、光デジタルオーディオ入力端子をもつ市販のMDデッキを接続すると、音楽CDやMP3データをパソコンで再生しながら、MDに録音することができます。



チェック

- ・パソコンとMDデッキを接続するには、市販の光デジタル接続ケーブルを購入してください。
- ・MDデッキの機能や録音のしかたなどについては、MDデッキのマニュアルをご覧ください。
- ・お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについて著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製などに関する注意事項にしたがってください。

Jet-Audio Playerで再生しながらMDに録音する

Jet-Audio Playerを使って、音楽CDやMP3などの音楽データをMDに録音するときは、次のような操作を行います。

■ 操作の流れ

市販のMDデッキと接続ケーブルを用意する

- ・ 光デジタルオーディオ入力端子をもつ市販の録音機能付きMDデッキ
- ・ 市販の光デジタル接続ケーブル

このパソコンのヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子の形状と、MDデッキの光デジタル入力端子の形状を確認してください。

光デジタル接続ケーブルを使って、このパソコンとMDデッキを接続する

このパソコンのヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子とMDデッキの光デジタル入力端子に市販の光デジタル接続ケーブルを接続します。

- PART4の「その他の機器を使う」の「ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子」(p.217)
- お使いのMDデッキのマニュアル

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子から、光デジタルで出力できる設定になっていることを確認する

光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子から音楽データを光デジタル出力する場合や、音楽CDからのデジタル出力を光デジタルで出力する場合は、出力できるようになっているかを確認しておいてください。

- 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能について (p.89)
- 音楽CDのデジタル出力設定(p.90)



Jet-Audio Playerを起動し、録音の準備をする

Jet-Audio Playerを起動したら、録音する音楽データを選びます。また、音楽データを録音する順番に並び替えて録音することもできます。

→ Jet-Audio Playerのオンラインマニュアル



録音する

Jet-Audio Playerで音楽データを再生し、MDデッキでの録音を開始します。

MDデッキによっては、Jet-Audio Playerを再生すると同時に自動的に録音を開始できるように設定できます。

→ Jet-Audio Playerのオンラインマニュアル

→ 録音のしかた → お使いのMDデッキのマニュアル

編集してオリジナル音楽CDを作る

このパソコンにインストールされているEasy CD Creatorを使うと、音楽CDなどから好きな曲を選んでCD-Rに書き込み、オリジナル音楽CDを作ることができます。Easy CD Creatorを使って作成したオリジナル音楽CDは、家庭用のCDプレーヤー、カーステレオ用のCDプレーヤー、パソコンについているCD-ROMドライブなどで再生することができます。Easy CD Creatorについて詳しくは、Easy CD Creatorのオンラインヘルプをご覧ください。



参照

Easy CD Creatorのオンラインヘルプを読むには → Easy CD Creatorを起動して、画面のメニューバーの「ヘルプ」をクリックする



チェック

お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCDなどの複製や改変を行う場合、オリジナルのCD-ROMなどについて著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製などに関する注意事項にしたがってください。

映像の再生 / 編集機能

映像を再生する

デジタルビデオ機器で撮った画像を再生する

このパソコンでは、外部のデジタルビデオ機器で撮影した映像を取り込んで編集することができます。また、ハードディスクに保存したり、外部のデジタルビデオ機器に出力することもできます。ハードディスクに保存した映像はJet-Audio Playerを使って再生することができます。



参照

- ・ Jet-Audio Playerの使いかた → 「添付ソフトの使い方」 「Jet-Audio Player」 または Jet-Audio Playerのオンラインマニュアル
- ・ 外部デジタルビデオ機器の接続と映像の編集 → 「映像を編集する」 (p.127)

DVD VIDEOディスクを再生する

CD-R/RW with DVD-ROMモデルでは、「Jet-Audio Player」を使って、DVD VIDEOディスクを再生することができます。Jet-Audio Playerを起動するには「スタート」ボタン → 「プログラム」 → 「Jet-Audio Player」 → 「Jet-Audio Player」をクリックします。また、再生しているDVD VIDEOディスクの映像をテレビに表示することもできます。



メモ

DVD VIDEOディスクは、映像と音声を高画質、高音質で記録してあるディスクです。美しい映像や音声を楽しむことができます。また、DVD VIDEOディスクの中には、利用者の好みに応じた使いかたができるディスクもあります。たとえば、映画の字幕や音声を数カ国語の中から選んで再生したり、スポーツやコンサートの映像をアングル(見る角度、視点)を切り替えて再生したりできます。



参照

- ・ Jet-Audio Playerの使いかた → 「添付ソフトの使い方」 「Jet-Audio Player」 または Jet-Audio Playerのオンラインマニュアル
- ・ パソコンにテレビを接続する、DVD VIDEOディスクの映像をテレビに表示する → PART4の「外部ディスプレイを使う」の「表示するディスプレイを切り替える」 (p.195)



メモ

Jet-Audio Playerのオンラインマニュアルは、「スタート」ボタン→「プログラム」→「Jet-Audio Player」→「使い方マニュアル」をクリックすると表示できます。

映像を編集する

このパソコンでは、「VideoStudio」を使って、外部のデジタルビデオ機器から映像を取り込んだり、編集することができます。

ここでは、VideoStudioのVideo Wizardを使って、外部のデジタルビデオ機器から映像を取り込み、編集してからハードディスクに保存するまでを説明します。

外部ビデオ機器を接続する

■ 外部ビデオ機器を接続する

このパソコンに映像を取り込むために、デジタルビデオデッキやデジタルビデオカメラといった外部ビデオ機器を接続します。接続は、このパソコンのIEEE1394コネクタを使って行います。外部ビデオ機器とIEEE1394ケーブルを用意しておいてください。



メモ

- ・ 接続できる外部ビデオ機器は、IEEE1394での入出力に対応している機器です。外部ビデオ機器にIEEE1394コネクタがついているかを確認してください。IEEE1394コネクタはDV端子などの別名で呼ばれていることもあります。詳しくは販売店などで確認してください。
- ・ このパソコンのIEEE1394コネクタは4ピンです。パソコン側に接続するケーブルのプラグは4ピンのものを選んでください。外部ビデオ機器側に接続するプラグは、外部ビデオ機器のIEEE1394コネクタの形状に合ったものを用意してください。

- 1 外部ビデオ機器のIEEE1394コネクタに、IEEE1394ケーブルのプラグを接続する
- 2 このパソコンのIEEE1394コネクタに、IEEE1394ケーブルの4ピンのプラグを接続する(→p.210)



チェック

接続するときには、プラグの向きに注意してください。プラグの向きを間違えるとIEEE1394コネクタやプラグを破損するおそれがあります。

Video Wizardを使って取り込む

ここでは、VideoStudioのVideo Wizardを使って映像を取り込む方法を説明します。



チェック

- VideoStudioのVideo Wizardを使うときは、Video Wizardを起動する前に外部ビデオ機器を接続して、外部ビデオ機器の電源を入れ、映像を再生できる状態にしておいてください。外部ビデオ機器を接続せずにVideo Wizardを起動するとVideo Wizardが外部ビデオ機器を認識できませんので、いったんVideo Wizardを終了してから、もう一度起動しなおしてください。
- VideoStudio使用中は、IEEE1394コネクタに接続できるデジタルビデオ機器は1台のみです。



メモ

映像を取り込むことを「キャプチャ」と呼ぶこともあります。

■ Video Wizardを起動する

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Ulead VideoStudio 4.0 SE Basic」→「Ulead Video Wizard」をクリックする
Video Wizardの画面が表示されます。



メモ

画面の右にある「情報」ボタンをクリックするとヘルプが表示されます。

■ 映像を取り込む

1 「プロジェクト名」欄にプロジェクト名を入力する



チェック

プロジェクト名を付けないと映像を取り込むことはできません。



メモ

- ・プロジェクト名は、これから取り込む映像のファイル名となります。取り込んだ後、編集できるようにファイルとして保存するためのものなので、ここでプロジェクト名を付けてください。
- ・Video Wizardの「ビデオ形式」ボタンおよび「ビデオソース」ボタンは、デジタルビデオカメラから映像を取り込むときは必要ないので、クリックできないようになっています。

2 をクリックする

3 外部ビデオ機器で映像の再生をはじめる

外部ビデオ機器で再生している映像が、Video Wizardの画面に表示されます。

4 取り込みを開始したい位置で「開始」ボタンをクリックする

取り込みがはじまり、「開始」ボタンが「中止」ボタンに変わります。
取り込み開始からの時間が映像の下に表示されます。

5 取り込みが終了したら「中止」ボタンをクリックする



メモ

- ・映像の取り込みは何度でもくりかえしできるので、必要な部分のみを取り込むことができます。
- ・取り込んだ映像は、後からトリミングする(必要な部分だけ取り出す)ことができるので、必要な映像の前後を少し長めに取り込むことをおすすめします。

6 外部ビデオ機器の再生を停止する

取り込んだ映像を編集する

ここでは、トリミングをしたり、効果やタイトルの入れかたを説明します。

■ トリミング

取り込んだビデオ映像の中で必要な部分を取り出す操作をトリミングといいます。

1 をクリックする

取り込んだ映像の最初の画面が表示されます。

2 取り込んだ映像がいくつかある場合は、トリミングしたい映像をクリックする



メモ

ここで、取り込んだ映像の中から不要なものを削除することができます。削除したい映像をクリックしてから「削除」ボタンをクリックしてください。

3 「トリム…」ボタンをクリックする

「ビデオをトリム」の画面が表示されます。



4 ビデオを開始したい位置に をドラッグする

5 「トリム開始」ボタンをクリックする

6 ビデオを終了したい位置に をドラッグする

7 「トリム終了」ボタンをクリックする

8 (選択範囲を再生) をクリックする

トリミングされたビデオが再生されます。内容を確認してください。

9 (ビデオウィザードに戻る) をクリックする

■ 効果やタイトルを入れる

効果をつけるとは、タイトルやエンディングロールを入れたり、場面転換などで特殊効果をつけたりすることです。ここでは「トランジション効果」とタイトルの入れかたを説明します。



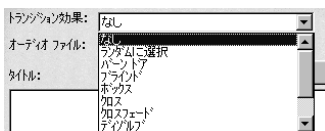
メモ

映像と映像の間の場面転換をどのように見せるかを設定する操作のことをトランジション効果といいます。代表的なものに「スライド(上下や左右にすべるように画面が移動する)」や「クロスフェード(映像が少しずつ薄れていくフェードアウトと、映像が少しずつ浮かび上がってくるフェードインを連続して行う)」などがあります。

- 1 **効果を追加** をクリックする
次のような画面が表示されます。



- 2 「トランジション効果」欄の右にある▼をクリックし、つけたい効果名をクリックする



- 3 タイトルを入力する

表示させたいタイトルを「タイトル」欄に入力します。
タイトルの文字サイズやフォントの種類、背景色などを変更することもできます。

編集した映像を再生する

- 1 「作成」をクリックする
次のような画面が表示されます。



- 2 「ビデオファイルの作成」ボタンをクリックする
ファイル作成の進行状況が表示されます。ファイル作成が終了すると、自動的に「再生」の画面が表示されます。



メモ

映像のサイズによっては、作成が完了するまでにしばらく時間がかかります。

- 3 「再生」ボタンをクリックする



メモ

再生の結果、修正したい場合は、「取り込んだ映像を編集する」(→ p.130)に戻って編集しなおすことができます。



チェック

Video WizardではAVI形式のファイルを自動生成します。保存形式を変更したり、さらに詳細な編集をしたい場合は、「作成」をクリックして「VideoStudioで開く」ボタンをクリックしてください。VideoStudioが起動して編集が行えるようになります。VideoStudioを起動すると、Video Wizardは自動的に終了し、Video Wizardの画面には戻れなくなりますので、以降の作業はVideoStudioで行ってください。

- 4 Video Wizardを終了する場合は、画面左下の「閉じる」の文字をクリックする
- 5 「Ulead Video Wizardを終了します。続行しますか?」と表示されるので、「はい」ボタンをクリックする



メモ

Video Wizardでビデオの作成を行うと、最後に黒い画面が追加されます。この画面は、映像が終わるところを知らせるためのものです。不要な場合は、VideoStudioなどで削除することができます。

VideoStudioでできるいろいろな編集

ここでは、VideoStudioの機能について説明します。VideoStudioでは、映像の取り込み、編集、外部ビデオ機器への出力を行うことができます。

■ VideoStudioを起動する

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Ulead VideoStudio 4.0 SE Basic」→「Ulead VideoStudio 4.0 SE Basic」をクリックする
VideoStudioの画面が表示されます。

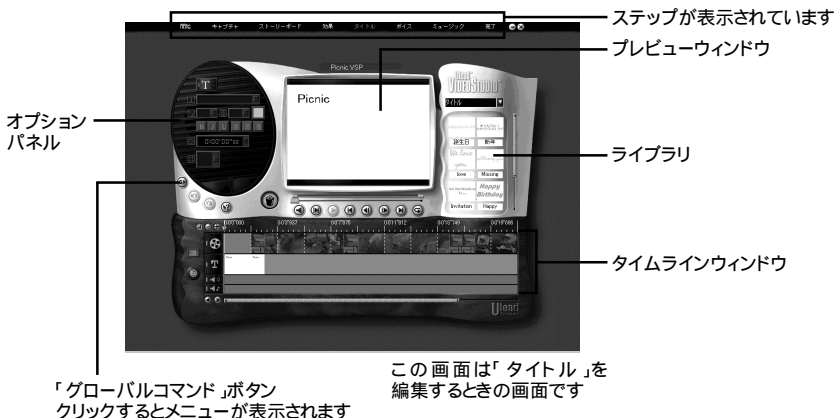


メモ

VideoStudioを終了するときは、画面右上にあるをクリックします。

■ VideoStudioでの編集

VideoStudioでは、画面上部に表示されているステップ(開始→キャプチャ→ストーリーボード→効果→タイトル→ボイス→ミュージック→完了)の順に作業を進めていきます。



メモ

VideoStudioでは、ステップごとにガイド(ヘルプ)が表示されます。作業内容を確認しながら作業を進めることができます。

● 効果

場面転換の効果を設定します。「ライブラリ」に表示される100種類以上の効果を確かめながら選ぶことができます。

● タイトル

画像に文字を入力します。タイトルだけでなく、画面にコメントを入れたりすることができます。「オプションパネル」で、タイトルに使用する文字のフォントやサイズ、位置や表示される時間などが設定できます。また、「ライブラリ」にはサンプルが表示されており、この中から選ぶこともできます。

● ボイス

市販のマイクロホンを使って音声を入力します。編集したビデオファイルを再生しながらリアルタイムに録音できます。また、音声ファイルを取り込むこともできます。

● ミュージック

BGMを録音します。CD-R/RWドライブまたはCD-R/RW with DVD-ROMドライブにセットされている音楽CDを自動的に認識して、「オプションパネル」に一覧が表示されます。表示された一覧の中から選んで録音することができます。

- 完了

すべての編集が完了したら、ひとつのビデオファイルとして生成します。「オプションパネル」で、全画面再生を行ったり、いろいろな形式のビデオファイルに保存することができます。また、外部ビデオ機器に出力を行ったり、ホームページで見ることができる形式に保存することもできます。

VideoStudioで保存できる形式には、AVI、ASF、FLC、FLI、FLX、MOV、QT、MPG、RM、UISがあります。



メモ

VideoStudioの機能や詳しい使いかたについては、VideoStudioのヘルプをご覧ください。VideoStudioのヘルプは、VideoStudioが起動しているときに【F1】を押すと表示されます。

VideoStudioを使用するときの注意

■ VideoStudioでグリーティングカードを作成するときは

VideoStudioでグリーティングカードの作成をする場合、作成前にファイルの圧縮形式を「DVビデオエンコーダ」以外に設定する必要があります。次の手順でファイルの圧縮形式を変更してください。

- 1 VideoStudioの「完了」ステップで「ムービーを作成」ボタンをクリックする
- 2 「名前を付けて保存」ウィンドウの「オプション」ボタンをクリックする
- 3 「ビデオ保存オプション」ウィンドウの「圧縮」タブの中の「圧縮」の設定を「DVビデオエンコーダ」以外の圧縮形式に変更する
- 4 「OK」ボタンをクリックする
- 5 「名前を付けて保存」ウィンドウでファイル名を指定して、「保存」ボタンをクリックする

■ VideoStudioでビデオ編集した映像をテープに録画するとき

- 先頭の数秒が録画されないときは

デジタルビデオカメラの種類によっては、VideoStudioでビデオ編集した映像をデジタルビデオカメラにテープ録画するときに、先頭の数秒が録画されない場合があります。その場合は、次の手順でMSデバイスコントロールオプションを調整するか、先頭フレームに4～5秒程のカラークリップを挿入してください。

- ・MSデバイスコントロールオプションを調整する

1 「グローバルコマンド」ボタンをクリックする

2 「デバイスコントロールの選択」をクリックする

「デバイスコントロールの選択」ウィンドウが表示されます。

3 「現在のデバイス」に「MS 1394デバイスコントロール」を選択し、「オプション」ボタンをクリックする

「MS デバイス コントロール オプション」ウィンドウが表示されます。

4 次の設定値を正常にテープ録画ができるように調整する

- ・プリロール時間
- ・一時停止時間を転送する
- ・一時停止時間を記録する
- ・記録時間を遅延する



メモ

設定値はデジタルビデオカメラの種類によって異なります。

- ・先頭フレームに4～5秒程のカラークリップを挿入する

1 録画する映像を選択した状態で、メニューバーの「ストーリーボード」をクリックする

「ストーリーボード」ステップに移動します。

2 画面右側にある▼をクリックして、「カラークリップ」を選択する

「カラーライブラリ」が表示されます。表示されている色を変更する場合は、手順3へ進んでください。そのままの色でよければ手順6へ進んでください。

3 「カラークリップを作成」ボタンをクリックする

4 「色」のカラーボックスをクリックして「Uleadカラーピッカー」から適当な色を選択し、「OK」ボタンをクリックする

5 「デュレーション」にカラークリップを入れる時間を入力し、「OK」ボタンをクリックする

ライブラリにクリップが挿入されます。必要な経過時間は、デジタルビデオカメラの種類によって異なります。

6 ライブラリ内のカラークリップをビデオトラックの始まり部分にドラッグ&ドロップする

ドロップしたカラークリップの右端黄色バーを左右に動かすと、カラークリップの経過時間を調整できます。

以上で先頭フレームにカラークリップが挿入できます。

- 「キャプチャセットプレビューウィンドウに失敗」と表示される場合は
デジタルビデオカメラの種類によっては、VideoStudioでデジタルビデオカメラへテープ録画するときに、「キャプチャセットプレビューウィンドウに失敗」と表示される場合があります。
その場合は「OK」ボタンをクリックし、デジタルビデオカメラの電源を入れなおしてください。

- 「録画に失敗しました。」または「出力デバイスへの送信エラー」と表示される場合は
デジタルビデオカメラの種類によっては、VideoStudioでデジタルビデオカメラへテープ録画するときに、「録画に失敗しました。」または「出力デバイスへの送信エラー」と表示される場合があります。
その場合は「OK」ボタンをクリックし、次のどちらかの操作を行ってください。

- ・ 「DV録画 - 録画ウィンドウ」ウィンドウを閉じて、操作しなおす。
- ・ デジタルビデオカメラのテープを入れなおす。

上記の操作をしても同じメッセージが表示される場合は、アプリケーションをいったん終了してください。次にデジタルビデオカメラにつながっているIEEE1394ケーブルを接続しなおすか、またはパソコンを再起動してください。

画像ファイルや映像ファイルを活用する

■ 画像ファイルや映像ファイルを管理する

「SmartGallery」を使うと、パソコンに取り込んだ画像ファイルや映像ファイルを整理しておくことができます。画像や映像のファイルはサムネイル(画像を縮小して一覧表示したもの)で見ることができるので、たくさんの画像ファイルの中から見たいファイルを探すときなどに便利です。



参照

SmartGalleryの使いかた→このPARTの「マルチメディアファイルの管理機能」
(p.157)

■ 携帯電話で閲覧できるアルバムを作成する

「スナップショット」を使うと、iモードなどに対応した画像を作成して、インターネットへ掲載することができます。作成した画像は携帯電話の待ち受け画面として利用することができます。



参照

スナップショットの使いかた→「添付ソフトの使い方」-「スナップショット」またはスナップショットのヘルプ

インターネットで映像を楽しむ

インターネットに映像を配信するには

このパソコンでは、USBカメラなどで撮影した画像やデジタルビデオカメラで撮影した映像などをインターネットに配信できます。インターネットに配信した画像や映像は、iモード機能のある携帯電話やほかのパソコンで閲覧することができます。

インターネットに画像や映像を配信するために、プロバイダに入会してインターネットに接続できるように設定しておいてください。



参照

インターネットに接続する→『はじめにお読みください』の「インターネットに接続しよう」または『使っておぼえるパソコンの基本』または「添付ソフトの使い方」-「インターネットをはじめたい」



メモ

ADSL 接続などのインターネットに高速に常時接続できるサービスを利用すると、インターネットに画像や映像を配信するときに、より大きく、なめらかな映像を快適に楽しむことができます。

：ADSLは、一般に「ブロードバンド」と呼ばれるインターネットへの高速接続を実現する回線の一つです。

ライブフォト/iを使って画像を配信する

このパソコンに添付されている「ライブフォト/i」を使うと、USBカメラなどからパソコンに取り込んだ画像を「ライブカメラ」(世界中のさまざまな場所から景色や室内の様子をリアルタイムに発信するインターネットのサービス)としてインターネットに配信できます。インターネットに配信した画像は、外出先からiモード機能のある携帯電話などで閲覧できます。



チェック

- ・ライブフォト/iは娯楽目的に開発されたソフトウェアであり、ホームセキュリティ、介護、医療、その他業務目的などの使用はしないでください。
- ・使用するときは、第三者の権利、肖像権、プライバシーの侵害とならないように充分注意してください。

■ ライブフォト/iを使った楽しみかた

ライブフォト/iは次のようなことに利用できます。

- ・留守中の家の様子を外出先からチェックする
- ・大好きなペットがいま何をしているかを見る
- ・パーティーの様子を実況中継する

携帯電話などで画像を閲覧できるようにするための準備

● 次のものを用意しておく

- ・iモード機能を備えた市販の携帯電話

パソコンを使って閲覧する場合は必要ありません。

- ・市販のUSBカメラや低画素数のデジタルカメラ

動作確認済の機種についてはホームページで確認できます。ホームページのアドレスはライブフォト/iを起動すると表示される電子マニュアル「はじめよう!ライブカメラ」で紹介しています。

● 画像を置くための自分のホームページを開設する

FTPプロトコル(インターネット上でファイル転送するための規格)に対応した、インターネットに公開可能なホームページを開設しておきます。ホームページの開設方法は、各プロバイダに確認してください。

● ライブフォト/iをインストールする

ライブフォト/iは、購入時にはこのパソコンにインストールされていません。次の「ライブフォト/iを追加する」の手順で追加してください。



メモ

ライブフォト/iの使いかたや必要な準備について詳しくは、ライブフォト/iを起動すると表示される電子マニュアル「はじめよう!ライブカメラ」をご覧ください。

ライブフォト/iを追加する

ライブフォト/iは、購入時にはインストールされていません。次の手順で添付の「アプリケーションCD-ROM」からインストールしてください。



メモ

ここではCD-R/RWドライブを例に説明しています。CD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-R/RWドライブ」を「CD-R/RW with DVD-ROMドライブ」に読み替えてください。

- 1 CD-R/RWドライブに、添付の「アプリケーションCD-ROM Vol.2」をセットする

2 「コントロールパネル」を開き、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックする

3 「インストールと削除」タブの「インストール」ボタンをクリックする

4 「次へ」ボタンをクリックする

5 「インストール プログラムのコマンド ライン」に次のように入力する

<CD-R/RWドライブ名> : ¥livephot¥setup.exe

<CD-R/RWドライブ名>には、お使いのCD-R/RWドライブのドライブ番号を入力します。

6 「完了」ボタンをクリックする
「ようこそ」の画面が表示されます。

7 「次へ」ボタンをクリックする
「インストール先の選択」画面が表示されます。

8 「次へ」ボタンをクリックする
「プログラム フォルダの選択」画面が表示されます。

9 「次へ」ボタンをクリックする
インストールがはじまります。
しばらくすると、インストール完了のメッセージが表示されます。

10 「完了」ボタンをクリックする

ライブフォト/iを起動する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「ライブフォト」→「ライブフォト」をクリックする

2 「ライブフォト/i - ようこそ!」画面で「開始」ボタンをクリックする
電子マニュアル「はじめよう!ライブカメラ」と「ライブフォト/i - 初期設定 - 基本設定」画面が起動します。電子マニュアル「はじめよう!ライブカメラ」をご覧になって、設定を行ってください。

ライブフォト/iを削除する

- 1 「コントロールパネル」を開き、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックする
- 2 「インストールと削除」タブで「ライブフォト/i」をクリックして、「追加と削除」ボタンをクリックする
「「ライブフォト/i」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。
- 3 「はい」ボタンをクリックする
削除が終了すると、「アンインストールが完了しました...」と表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする

ビデオ登録君を使って映像を配信する

このパソコンに添付されている「ビデオ登録君」と、BIGLOBEの映像配信サービス「My放送局」〔有料〕を使うと、デジタルビデオカメラで撮影した映像などをインターネットに配信できます。結婚式、運動会、自分の趣味や特技をアピールしたものなどさまざまな映像をインターネットに配信して、家族や親戚、仲間同士で楽しむことができます。



チェック

- ・ お客様がテレビ放送や録画物などから取り込んだ映像や音声は、個人として楽しむなどのほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。
- ・ 使用に際しては、第三者の権利、肖像権、プライバシーの侵害とならないよう充分ご注意ください。

■ ビデオ登録君を使った楽しみかた

ビデオ登録君は次のようなことに利用できます。

- ・ 年賀状の代わりに、ビデオメールでごあいさつ
- ・ 運動会での活躍の様子を、離れて住んでいる親戚に見てもらう
- ・ 旅先で撮った映像をその場で配信して、友達に見てもらう

映像を配信するための準備

- 次のものを用意しておく
 - ・ 市販のデジタルビデオカメラ
デジタルビデオカメラによっては、このパソコンに対応していないものがあります。動作確認済みの機種については、NECのホームページ「121ware.com(ワントゥワンウェア ドット コム)」をご覧ください。
<http://121ware.com/>
 - ・ デジタルビデオカメラで撮影した映像
 - ・ 市販のIEEE1394ケーブル



参照

デジタルビデオカメラを接続する→お使いのデジタルビデオカメラのマニュアル、またはPART4の「IEEE1394コネクタ」(p.210)

- ビデオ登録君をインストールする
ビデオ登録君は、購入時にはこのパソコンにインストールされていません。次の「ビデオ登録君を追加する」の手順で追加してください。



メモ

ビデオ登録君の使いかたや必要な準備について詳しくは、ビデオ登録君を起動すると表示される電子マニュアル「はじめよう!インターネットで映像配信」をご覧ください。

- BIGLOBEに申し込み、「My放送局」に登録する
ビデオ登録君を使って映像をインターネットに配信するには、BIGLOBEの映像配信サービス「My放送局」へ申し込み(有料)ビデオ登録君に映像を置くための設定などが必要です。詳しくは、ビデオ登録君をインストールして、起動すると表示される電子マニュアル「はじめよう!インターネットで映像配信」をご覧ください。

ビデオ登録君を追加する

ビデオ登録君は、購入時にはインストールされていません。次の手順で添付の「アプリケーションCD-ROM」からインストールしてください。



メモ

ここではCD-R/RWドライブを例に説明しています。CD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-R/RWドライブ」を「CD-R/RW with DVD-ROMドライブ」に読み替えてください。

- 1 CD-R/RWドライブに、添付の「アプリケーションCD-ROM Vol.2」をセットする

2 「コントロールパネル」を開き、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックする

3 「インストールと削除」タブの「インストール」ボタンをクリックする

4 「次へ」ボタンをクリックする

5 「インストール プログラムのコマンド ライン」に次のように入力する

< CD-R/RWドライブ名 > : ¥vdupld¥setup.exe

< CD-R/RWドライブ名 > には、お使いのCD-R/RWドライブのドライブ番号を入力します。

6 「完了」ボタンをクリックする
「ようこそ」の画面が表示されます。

7 「次へ」ボタンをクリックする
「インストール先の選択」画面が表示されます。

8 「次へ」ボタンをクリックする
「プログラム フォルダの選択」画面が表示されます。

9 「次へ」ボタンをクリックする
インストールがはじまります。
しばらくすると、インストール完了のメッセージが表示されます。

10 「完了」ボタンをクリックする

ビデオ登録君を起動する

1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「ビデオ登録君」→「ビデオ登録君」をクリックする

2 「ビデオ登録君 - ようこそ!」画面で「開始」ボタンをクリックする
電子マニュアル「はじめよう! インターネットで映像配信」と「ビデオ登録君設定」画面が起動します。電子マニュアル「はじめよう! インターネットで映像配信」をご覧ください。

ビデオ登録君を削除する

- 1 「コントロールパネル」を開き、「アプリケーションの追加と削除」アイコンをダブルクリックする
- 2 「インストールと削除」タブで「ビデオ登録君」をクリックして、「追加と削除」ボタンをクリックする
「ビデオ登録君」とそのすべてのコンポーネントを削除しますか?」と表示されます。
- 3 「はい」ボタンをクリックする
削除が終了すると、「アンインストールが完了しました...」と表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする



チェック

「ビデオ登録君」を削除しても、動画ファイルなどが残る場合があります。データを残しておく必要のない場合は、エクスプローラなどで「C:\Program Files¥VideoUploader」フォルダを削除してください。

DVD形式のビデオデータ作成機能

ここでは、CD-R/RW with DVD-ROMモデルについてのみの説明をしています。



チェック

お客様がテレビ放送や録画物などから取り込んだ映像や音声は、個人として楽しむなどのほかは、著作権上、権利者に無断で使用できません。

DVD形式のビデオデータの作成のしかた

このパソコンにインストールされている「VideoStudio」や「DVDit!」というアプリケーションを使うと、録画した映像を編集したり、編集した映像にタイトルやメニュー（目次）をつけてDVDビデオのような作品を作れます。

また、作成した映像はハードディスクやCD-Rに保存して、このパソコンにインストールされている「Jet-Audio Player」で再生できます。

お気に入りの映像を、DVD形式のビデオデータ（DVDタイトル）に仕上げてみましょう。

オリジナルのDVD形式のビデオデータを作成する

外部ビデオ機器から映像を取り込む

→ このPARTの「映像を編集する」(p.127) またはVideoStudioのオンラインヘルプ



VideoStudioで映像を編集する

→ このPARTの「映像を編集する」(p.127)



DVDit!で編集できるデータにする

「スタート」ボタン→「プログラム」→「Ulead VideoStudio 4.0 SE Basic」→「NEC MPEG2プラグイン for Ulead VideoStudio」で行います。

→ 「DVDit!で編集できるデータにする」(p.148)





DVDit!でタイトルやメニューをつけて仕上げる

- 「DVDit!で仕上げる」(p.149)
- 「スタート」ボタン→「プログラム」→「DVDit! LE」→「DVDit! 版 ユーザーガイド」



DVD形式のビデオデータを保存する

- 「DVD形式のビデオデータを保存する」(p.152)
- 「スタート」ボタン→「プログラム」→「DVDit! LE」→「DVDit! 版 ユーザーガイド」

DVD形式のビデオデータ作成時の注意

- ・MPEG2形式で保存するときに、ビットレートを大きくすると高画質になりますが、ファイルサイズが大きくなります。また、再生環境によっては、スムーズに再生できなくなることがあります。通常、ビットレートは4～6Mbpsで利用してください。
- ・MPEG2ファイルの保存には、再生時間の3倍～10倍程度の時間がかかることがあります。



メモ

MPEGは、動画データファイル形式のひとつです。データ圧縮できることが特徴で、再生品質やデータ量などによって、MPEG1、MPEG2などがあります。MPEG1はビデオCDで採用されている規格で、再生品質は家庭用ビデオ程度です。MPEG2はDVD VIDEOで採用されている規格で、MPEG1に比べるとデータ量は多くなりますが、より高画質になります。



チェック

- ・DVDit!で利用できる動画ファイルはVideoStudioでDVDit!用に保存したMPEG2形式のファイルだけです。
- ・CD-R(650Mバイト)に保存できる映像は20分程度までです。
- ・DVD形式のビデオデータをCD-Rに保存する場合は、プロジェクト名を半角英数字で入力してください。

DVDit!で編集できるデータにする

- 1 編集したい映像ファイルをVideoStudioで開く (→ p.133)



参照

VideoStudioの使いかた→VideoStudioのヘルプ

- 2 「完了」ステップをクリックする

- 3 「ムービーを作成」ボタンをクリックする

- 4 保存する場所を選び、「ファイル名」を指定して、「ファイルの種類」で「MPEGファイル」を選択する



メモ

映像を「デスクトップ」→「マイドキュメント」→「My Pictures」に保存すると、このパソコンに入っている「SmartGallery」というアプリケーションでデータの管理や活用ができます。特別な理由がない限り、映像を「My Pictures」フォルダに保存することをおすすめします。



参照

SmartGalleryについて→このPARTの「マルチメディアファイルの管理機能」(→ p.157)

- 5 「オプション」ボタンをクリックする
「ビデオ保存オプション」の画面が表示されます。

- 6 「カスタム設定」タブをクリックする

- 7 「DVDit!」の左のをクリックしてにする



- 8 「OK」ボタンをクリックする
「名前を付けて保存」の画面に戻ります。

- 9 「保存」ボタンをクリックする
MPEG2ファイルの保存がはじまります。保存が終わると、VideoStudioの画面に戻ります。

- 10 をクリックする

MPEG2ファイルの編集について詳しくは「スタート」ボタン→「プログラム」→「Ulead VideoStudio 4.0 SE Basic」→「NEC MPEG2プラグイン for Ulead VideoStudio」をご覧ください。



チェック

- ・MPEG2ファイルの保存には、再生時間の3倍～10倍程度の時間がかかる場合があります。
- ・他のパソコンで作成されたMPEG2ファイルは、正常に動作しない場合があります。

DVDit!で仕上げる

DVDit!を使って、VideoStudioで作成した映像に、タイトルメニュー画面をつけてみましょう。

ここでは簡単な使いかたのみを説明しています。詳しい使用方法是、「スタート」ボタン→「プログラム」→「DVDit! LE」→「DVDit! 版 ユーザーガイド」をご覧ください。

DVDit!を起動する

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「DVDit! LE」→「DVDit! LE」をクリックする
DVDit!が起動します。
- 2 「新しいプロジェクトを始める」ボタンをクリックする
- 3 「ビデオ様式」には「NTSC」、「ビデオフォーマット」には「MPEG2」が選択されていることを確認して、「設定終了」ボタンをクリックする
DVDit!のウィンドウが表示されます。



チェック

このパソコンのDVDit!では、PALビデオ様式およびMPEG1ビデオフォーマットはサポートしていません。

DVDit!のウィンドウについて

ビデオモニタ

背景やボタンを設置します。また、映像の再生をします。

パレットウィンドウ

背景やボタン、映像などの素材が表示されます。



背景

タイトル画面の背景に使う画面が表示されます。



ボタン

タイトル画面に設置するボタンが表示されます。



テキスト

タイトル画面で使える文字のフォント(書体)が表示されます。



メディア

映像や音楽のデータが表示されます。



再生

完成したプロジェクトを再生するための「Remote Control」ウィンドウが表示されます。

DVDit! でできるいろいろな編集

ここでは、「DVDit!」の機能について説明します。「パレットウィンドウ」の下にあるボタンをクリックして、各機能を切り替えます。

画面右下にあるボタン(背景→ボタン→テキスト→メディア→再生)の順に、作業を進めていきます。

● 背景

タイトルメニュー画面の背景になる画像を設定します。「パレットウィンドウ」から背景にしたい画像を選んで、「ファーストプレイ」の上にドラッグ&ドロップします。



チェック

背景は、SmartGalleryの「イメージ」カテゴリから好きな画像(BMP形式、JPG形式など)をパレットウィンドウにドラッグ&ドロップして登録することもできます。



参照

SmartGalleryについて→このPARTの「マルチメディアファイルの管理機能」(→p.157)

● ボタン

タイトルメニューに付けるボタンを設定します。「パレットウィンドウ」から貼り付けたいボタンを選んで、「ビデオモニタ」にドラッグ&ドロップします。

● テキスト

タイトルメニューに書き込む文字の書体を設定します。「パレットウィンドウ」から使いたい書体を選んで、「ビデオモニタ」にドラッグ&ドロップします。ドラッグ&ドロップした文字をダブルクリックして反転表示にして、キーボードから書き込みたい内容(ボタン名やタイトルなど)を入力します。

● メディア

DVD形式のビデオデータにする映像などを設定します。「パレットウィンドウ」内を右クリックして、「テーマにファイルを追加」をクリックし、画面の説明を見ながらVideoStudioで作成した映像を「パレットウィンドウ」に追加します。その後、映像を選択して、「パレットウィンドウ」から「ビデオモニタ」に作成したボタンにドラッグ&ドロップします。



チェック

- ・ DVDIt! で使用できる動画ファイルは、VideoStudio でDVDIt! 用に保存した MPEG2 形式のファイルだけです。
- ・ 1つのDVD形式のビデオデータに使用できるMPEG2ファイルのフレームサイズは、720×480または352×480ドットのどちらか一方です。1つのDVD形式のビデオデータ内で両方のフレームサイズを使うことはできません。
- ・ 静止画をメディアに設定することもできます。静止画のサイズは、720×480ドットです。



参照

DVDIt! 用のファイル→このPARTの「DVDIt! で編集できるデータにする」(p.148)

● 再生

作成した映像を再生できる「Remote Control」ウィンドウが表示されます。ビデオモニタに作成したボタンをクリックすると、再生がはじまります。作成した映像の確認ができたなら、をクリックして「Remote Control」を閉じてください。



参照

DVD形式のビデオデータの作成のしかたについて詳しくは→「スタート」ボタン→「プログラム」→「DVDIt!」→「DVDIt! 版 ユーザーガイド」

DVD形式のビデオデータを保存する

作成したDVD形式のビデオデータを保存しましょう。保存する方法には次の2つがあります。

- ・ ハードディスクに保存する
- ・ CD-Rに保存する(→ p.153)



チェック

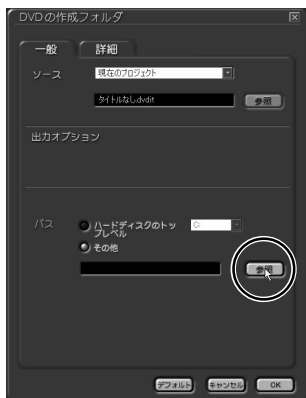
- ・ DVDIt! でプロジェクト保存する場合、必ず半角英数字でプロジェクトファイル名を入力して保存してください。
- ・ CD-Rに保存する場合、ディスク名を必ず半角英数字で入力してください。

ハードディスクに保存する

作成した映像をハードディスクにDVD形式のビデオデータとして保存します。

- 1 「ビルド」をクリックして表示されたメニューの「DVDフォルダの作成...」をクリックする

2 「パス」の「参照」ボタンをクリックする



3 「ファイルの場所」で▼をクリックし、「デスクトップ」→「マイドキュメント」→「My Pictures」を選択する

「保存する場所」に「C:¥My Documents¥My Pictures」が表示されます。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 「C:¥My Documents¥My Pictures」が選択されているのを確認して「OK」ボタンをクリックする

6 「DVDの作成に成功しました。」と表示されたら「OK」ボタンをクリックする

7 DVDit!を終了する

CD-Rに保存する

作成した映像は、CD-Rにも保存できます。

CD-RへのDVD形式のビデオデータの保存のしかたは、「スタート」ボタン→「プログラム」→「DVDit! LE」→「DVDit! Help」をご覧ください。



チェック

- ・ CD-R(650Mバイト)に保存できる映像は20分程度までです。
- ・ CD-Rへは、1度保存したら、たとえ空き容量があってもそのCD-Rへは保存できなくなります。
- ・ DVD形式のビデオデータをCD-Rに保存する場合は、ディスク名を必ず半角英数字で入力してください。プロジェクト名は「ファイル」→「プロジェクト設定」の「ディスク名」で設定します。
- ・ 「DVDit!」では、DVD-R、DVD-RAM、CD-RWは使用できません。
- ・ CD-Rに保存した場合、環境によってはスムーズに再生できない場合があります。

作成したDVD形式のビデオデータを再生する

「DVDit!」で作成したDVD形式のビデオデータを再生してみましょう。ハードディスクに保存した場合は「SmartGallery」から再生します。CD-Rに保存した場合は、市販のDVD VIDEOディスクのように、自動的に再生できます。

ハードディスクに保存したDVD形式のビデオデータを再生する

保存したDVD形式のビデオデータは、このパソコンのJet-Audio Playerで再生できます。

1 SmartGalleryを起動する



参照

SmartGalleryについて詳しくは→このPARTの「マルチメディアファイルの管理機能」(→p.157)

2 「NEW!」ボタンが点灯している場合は、ボタンをクリックする 更新されたファイルのみが表示されます。



3 カテゴリ をクリックして、ムービー をクリックする



チェック
ハードディスクにDVD形式のビデオデータなどの動画ファイルがひとつも保存されていないときは、ムービー は表示されません。

4 作成したDVD形式のビデオデータのサムネイルを右クリックして表示されたメニューから「開く」→「Jet-Audio Player」をクリックする



Jet-Audio Playerが起動して、タイトル画面が表示されます。



メモ
サムネイルをダブルクリックしても、Jet-Audio Playerを起動できます。



- Jet-Audio Playerが起動してもDVD形式のビデオデータが再生されない場合は、Jet-Audio Playerの起動後にもう一度手順4を行ってください。
- Windows Media PlayerやVideoStudioなど、Jet-Audio Player以外の映像を表示するアプリケーションが起動していると、Jet-Audio PlayerでDVD VIDEOディスクやビデオCD、DVD形式のビデオデータなどが再生できない場合があります。音楽CD、デジタルオーディオ、MIDIの再生はできます。
- DVDit!で作成したDVD形式のビデオデータの再生中は、Jet-Audio Playerのカウンタが動かないことがあります。
- DVDit!で作成したDVD形式のビデオデータは、Jet-Audio Player以外のアプリケーションでも再生することができます。再生できるアプリケーションについて詳しくは、「DVDit! 版 ユーザーガイド」をご覧ください。



参照

Jet-Audio Playerについて詳しくは→「添付ソフトの使い方」-「Jet-Audio Player」
またはJet-Audio Playerのオンラインマニュアル

CD-Rに保存したDVD形式のビデオデータを再生する

CD-Rに保存したDVD形式のビデオデータは、一般のDVD VIDEOディスクのように、CD-Rをセットすると自動的にJet-Audio Playerが起動して、DVD形式のビデオデータのタイトル画面を表示します。



参照

- Jet-Audio Playerについて詳しくは→「添付ソフトの使い方」-「Jet-Audio Player」またはJet-Audio Playerのオンラインマニュアル
- CD-Rのセットのしかた → PART1の「CD-R/RWDドライブ・CD-R/RWDドライブ with DVD-ROMドライブ」の「ディスクのセットのしかたと取り出ししかた」(p.45)

マルチメディアファイルの管理機能

SmartGalleryとは

このパソコンには、取り込んだ映像などを活用するためのいろいろなソフトが入っています。このパソコンに入っている「SmartGallery」を使えば、映像などのファイルをまとめて管理でき、再生や編集がスマートに始められます。

「SmartGallery」は、デジタルビデオカメラの映像といった動画や写真などの静止画、音楽データ、インターネットのホームページなど、マルチメディアファイルをまとめて管理できるアプリケーションです。ファイルをカテゴリ(分類)に分けて表示したり、「SmartGallery」のサムネイル画像を一覧表示したものから直接いろいろなアプリケーションを起動して、ファイルを開いたりできます。ファイルの数が多くなってもすぐに目的のファイルを使えます。



参照

SmartGalleryについて詳しくは→SmartGalleryのヘルプ

SmartGalleryを起動する

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「SmartGallery」→「SmartGallery 2.1」をクリックする
SmartGalleryが起動します。

3

マルチメディア機能

SmartGalleryについて

ここでは、SmartGalleryのウィンドウやボタンの機能について説明しています。

SmartGalleryのウィンドウ



このアイコンをクリックすると、以下のメニューが表示されます。

ファイル

メディアを登録したり、ファイルを開いたりできます。

カテゴリ

表示するカテゴリを変更できます。

編集

ファイルの検索や、コピーなどができます。

再生

選択しているファイルの再生などができます。

表示

ファイルやメディアの表示方法をかえたり、並べ方をかえたりできます。

設定



をクリックしたときと同じです。

ヘルプ

SmartGalleryのヘルプを表示します。バージョンも表示できます。

メディア

SmartGalleryに登録されているメディア(→p.163)がサムネイル表示されます。メディアによってはサムネイルができない場合があります。



このボタンで、表示するマルチメディアファイルのカテゴリの選択や表示形式の切替、マルチメディアファイルのデータベースへの登録、データベースに登録するフォルダの設定などを行うことができます。詳しくは「ボタンの機能」(→p.160)をご覧ください。

ファイル

「マイドキュメント」\「C:¥WINDOWS¥Favorites」\「C:¥WINDOWS¥Media」に保存されているマルチメディアファイルがサムネイル表示されます。ファイルによってはサムネイルができない場合があります。



参照

SmartGallery→SmartGalleryのヘルプ

サムネイル

SmartGalleryでは、ネットワークで接続された他のパソコンに保存してあるマルチメディアファイルもデータベースに登録して、サムネイルで一覧表示することができます。

マルチメディアファイルの再生、編集が可能かどうかは、サムネイルの左上のアイコンの色で確認することができます。

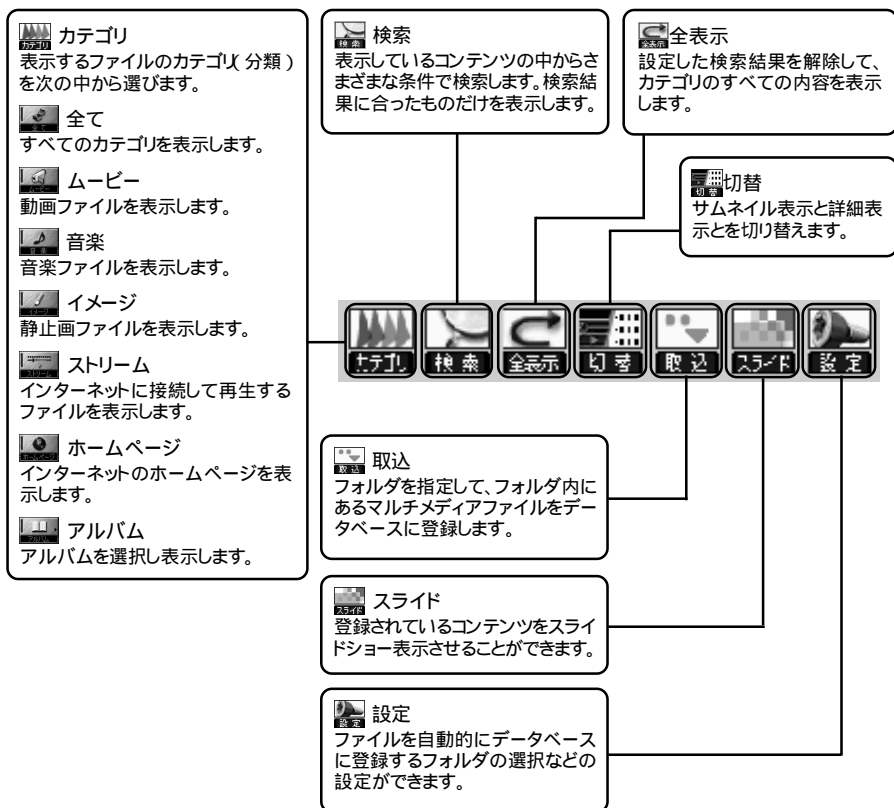
オレンジ：マルチメディアファイルを再生、編集することができます。(オンライン状態)
グレー：サムネイル表示のみで再生、編集はできません(オフライン状態)



チェック

ネットワークで接続されたパソコンに保存してあるマルチメディアファイルをデータベースに登録する手順については「フォルダ内のファイルを取り込む」(→ p.164)をご覧ください。

ボタンの機能



基本的な使いかた

最新のファイルのみを表示する

SmartGalleryでは、自動登録フォルダに設定されているフォルダ内のファイルが、データベースへ自動的に登録されます。



チェック

- ・購入時の設定では、「マイドキュメント」フォルダ、「C:\¥WINDOWS¥Favorites」
「C:\¥WINDOWS¥Media」内に保存したファイルがSmartGalleryで表示されます。
表示するフォルダを変更することもできます。詳しくはSmartGalleryのヘルプ
をご覧ください。
- ・データベースへの登録処理中は、SmartGalleryのウィンドウの右下に「データ
ベースの更新中、ESCキーで中止します。」というメッセージが表示されます。

動画や音楽などのファイルを自動登録フォルダに新たに保存すると、データベースは自動的に更新されます。更新されたファイルだけを表示するには、次の手順を行います。

1



(NEW!)ボタンをクリックする

更新されたファイルだけが表示されます。

表示を戻したいときは、 カテゴリ ボタンをクリックして表示するカテゴリを選ぶか、 全表示 ボタンをクリックしてください。



チェック

保存したマルチメディアファイルがSmartGalleryの一覧に見あたらない場合は、
「保存したマルチメディアファイルが見あたらないときは」(→p.174)をご覧ください。

動画ファイルを再生する

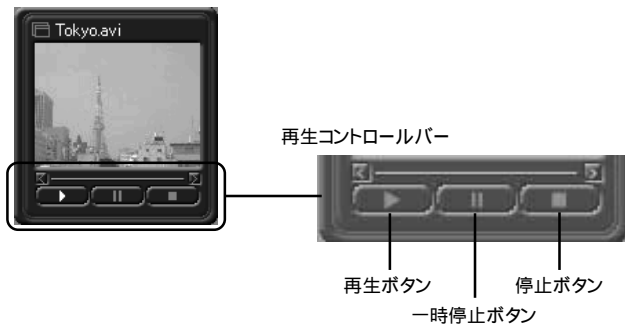
動画ファイルでサムネイル表示に再生コントロールバーがあるものは、SmartGalleryで簡易再生ができます。



チェック

「VideoStudio」「Jet-Audio Player」など、映像を表示するソフトが起動している場合、動画の簡易再生はできません。
起動しているソフトをいったん終了させたあと、簡易再生をしてください。

音楽ファイルもSmartGalleryで再生できます。



メディアを登録する

CD-R/RWに書き出した音楽や画像を、メディアとしてSmartGalleryに登録して管理できます。

■ 新規にメディアを登録する

- 1 をクリックする
- 2 表示されたメニューの「ファイル」→「メディアの新規登録」をクリックする
- 3 表示された画面で、登録したいメディアの種類を選んで、「OK」ボタンをクリックする
「メディア新規登録」画面が表示されます。
- 4 メディアの情報を入力し、「OK」ボタンをクリックする

■ ファイルからメディアを登録する

すでにファイルとして登録されているものを、さらにメディアに登録することもできます。

- 1 メディアに登録したいファイルを右クリックする
- 2 表示されたメニューから「メディアに登録」をクリックする
「メディア登録」画面が表示されます。
- 3 メディアの情報を入力し、「OK」ボタンをクリックする

ファイルを開く

SmartGalleryから動画や音声を再生したり、静止画を表示したりするアプリケーションを起動することができます。

- 1 開きたいファイルを右クリックする

- 2 表示されたメニューから「開く」をポイントして、ファイルを開くアプリケーションをクリックする



アプリケーションが起動し、ファイルが開きます。



メモ

ファイルのサムネイルをダブルクリックしても、ファイルを開けます。

フォルダ内のファイルを取り込む

フォルダ内のマルチメディアファイルを、まとめてSmartGalleryのデータベースに登録することができます。

- 1  「取込」ボタンをクリックする
- 2 「フォルダ」のリストから検索したいフォルダを選択する
- 3 「一覧に追加」ボタンをクリックする
「検索フォルダー一覧」に選択したフォルダが追加されます。

登録時に検索したいフォルダをすべて追加するまで、手順2～3をくりかえします。

- 4 「登録」ボタンをクリックする
SmartGalleryの画面の右下に「データベースの更新中、ESCキーで中止します。」と表示され、しばらくすると検索されたマルチメディアファイルがサムネイルで表示されます。
これで登録は完了です。



メモ

ネットワークに接続された別のパソコンのフォルダも登録することができます。登録するフォルダは、フォルダのプロパティで共有できるように設定してください。

スライドショーを使う

SmartGalleryに登録されているコンテンツをスライドショー表示させることができます。



チェック

音楽ファイルなど、一部のファイルはスライドショーで表示することはできません。

■ スライドショー表示する

SmartGalleryでは、カテゴリを選んでカテゴリ内のすべてのファイルをスライドショー表示したり、表示したいファイルのみを選んでスライドショー表示することができます。

- カテゴリを選択してスライドショー表示する



- 1 カテゴリ)ボタンをクリックし、スライドショー表示したいカテゴリをクリックする



- 2 スライド)ボタンをクリックする
スライドショー表示がはじまります。

- ファイルを選択してスライドショー表示する

- 1 スライドショー表示したいファイルをクリックする



メモ

【Ctrl】を押しながら表示したいファイルをクリックすると、複数のファイルを選択することができます。



- 2 スライド)ボタンをクリックする
スライドショー表示がはじまります。

■ スライドショーの設定をする

スライドショー表示に効果をつけたり、表示サイズや表示時間を設定することができます。



- 1 設定)ボタンをクリックする
「設定」ウィンドウが表示されます。

2 「スライドショーの設定」タブをクリックする

3 効果や表示の設定を行う

・効果の設定

スライドショーに効果をつけることができます。

「効果」の▼をクリックして、設定したい効果をクリックします。

・表示の設定

繰り返し表示させたり、表示時間や表示サイズを設定できます。

項目	設定内容
繰り返し表示する	スライドショーに設定したファイルを繰り返し表示します。
画面サイズにあわせて拡大 / 縮小する	スライドショー表示するファイルが画面より大きい場合は縮小し、画面より小さい場合は拡大して表示します。
表示時間を有効にする	この設定を有効にすると「表示時間」と「表示スピード」を設定できるようになります。
表示時間	スライドショー表示にしたファイルの表示時間の設定を変更することができます。
表示スピード	スライドショー表示にしたファイルの「効果」のスピードを変更することができます。



メモ

「プレビュー」ボタンをクリックすると、効果を設定したときの表示を確認することができます。

4 「OK」ボタンをクリックする

壁紙を設定する

SmartGalleryに登録されているファイルをデスクトップの壁紙に設定することができます。

- 1 壁紙に設定するファイルを右クリックして、表示されたメニューの「壁紙に設定」にポインタを合わせる
- 2 表示されたメニューから、壁紙を表示する位置を選ぶ
選択したファイルが壁紙として表示されます。



チェック

- ・メディア、およびオフライン状態のファイルは壁紙に設定できません。
- ・サムネイル画像を変更している場合は、壁紙に設定できません。



メモ

動画の好きなシーンをサムネイルに設定しておく、動画のサムネイルを壁紙に設定することもできます。



参照

動画のサムネイルの変更 → SmartGalleryのヘルプ

アルバムを使う

アルバム機能は、特定の事柄に関するマルチメディアコンテンツをまとめて管理するための機能です。例えば、スポーツに関するマルチメディアコンテンツをまとめて管理したい場合には、「スポーツ」という名前でアルバムを作成し、そのアルバムにスポーツに関する画像や動画、音楽、ホームページなどを登録しておく、といった使い方ができます。

■ アルバムを作成する

アルバムを新規に作成するときは、次の手順で行います。
新規にアルバムを作成する場合は、そのアルバムに登録するファイルをまず1つ決めてください。

- 1 アルバムに登録するファイルのサムネイルを右クリックする
- 2 「アルバムに登録」をクリックし、「新規作成」をクリックする
「アルバムの新規作成」画面が表示されます。
- 3 「アルバム名」欄にアルバムにつける名前を入力し「登録」ボタンをクリックする



ここにアルバムの名前を入力します。

アルバム名を入力したら、このボタンをクリックします。

これで入力した名前で新規にアルバムが作成されます。
アルバムには手順1で選択したファイルが登録されています。

■ アルバムにファイルを登録する

作成済みのアルバムにファイルを追加登録するときは、次の手順で行います。

- 1 アルバムに登録するファイルのサムネイルを右クリックする
- 2 「アルバムに登録」をクリックする
- 3 ファイルに登録したいアルバムの名前をクリックする
アルバムにファイルが追加登録されます。

■ アルバムを表示する

アルバムに登録されているファイルのサムネイルを表示するには、次の手順を行います。

- 1  カテゴリ)ボタンをクリックする
- 2  アルバム)ボタンをクリックする
- 3 表示したいアルバム名をクリックする
アルバムに登録されているファイルのサムネイルが表示されます。

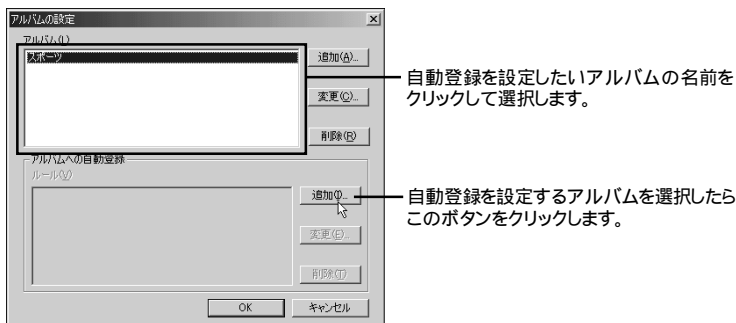
■ アルバムにファイルを自動登録する

アルバムへのファイルの登録を自動化することができます。

自分で登録のルールを決め、そのルールに沿ったファイルを自動的にアルバムに登録するように設定できます。

- 1  設定)ボタンをクリックする
- 2 「その他の設定」タブをクリックし、「アルバム」ボタンをクリックする
「アルバムの設定」画面が表示されます。
- 3 表示されたリストから自動登録の設定をしたいアルバムの名前をクリックする

4 「アルバムへの自動登録」の「追加」ボタンをクリックする



5 ルールの名前を入力し、ルールを設定する

ファイル名やコンテンツに含まれる文字列、拡張子の種類、フォルダの場所を自動登録のルールとして設定できます。



6 「OK」ボタンをクリックする

「アルバムへの自動登録」のリストに入力したルールが表示されます。



設定した自動登録のルールを一時的に無効にしたい時は、ルール名の左の ☒ をクリックして ☐ にしてください。無効にしたルールを有効に戻すときは、ルール名の左を ☒ にしてください。

7 「OK」ボタンをクリックする

8 「OK」ボタンをクリックする

これで、設定したルールに沿って自動登録されるようになります。

情報を入力する

SmartGalleryで管理するファイルやメディアに、コメントやジャンルを入力できます。入力した内容でキーワード検索ができます。



参照

キーワード検索 → SmartGalleryのヘルプ

1 情報を入力したいサムネイルを右クリックして「プロパティ」をクリックする
「プロパティ」の画面が表示されます。

2 「共通項目2」タブをクリックする

3 「コメント」の欄に情報を入力して、「OK」ボタンをクリックする



メモ

- ・「コメント」欄に入力する情報は、キーワード検索をするときにわかりやすいもの
がいいでしょう(日付、制作者名など)。
- ・「共通項目2」タブの右側にある、各カテゴリ名がついたタブ(上の画面では「画
像 [JPG]」タブ)をクリックすると、さらに細かい情報が入力できます。入力できる
情報は、カテゴリによって異なります。
- ・複数のファイルをまとめて選択すると、共通のコメントを一度に入力することが
できます。

表示する画像を変える

購入時の状態では、ホームページのサムネイルは地球のマークのイラストで表示されています。これを実際のホームページの画像に変えてみましょう。
また、動画のサムネイルを好きな場面の画像にすることもできます。



参照

動画のサムネイルの変更 → SmartGalleryのヘルプ

- 1 サムネイルを変えたいホームページをダブルクリックして、インターネットに接続する
インターネットエクスプローラが起動し、ホームページが表示されます。



参照

インターネット接続について → 『使っておぼえるパソコンの基本』

- 2 サムネイルを変えたいファイルを右クリックして、表示されたメニューから「プロパティ」をクリックする
「プロパティ」の画面が表示されます。
- 3 「スクリーンをキャプチャする」の左の  を  にし、「ボタンを押してキャプチャ」ボタンをクリックする



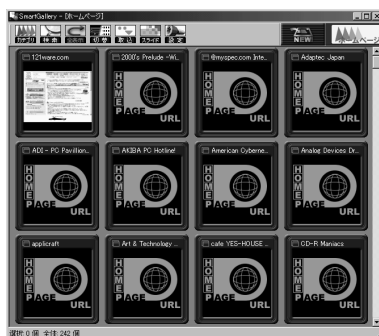
マウスカーソルの表示がカメラのアイコンに変わります。

- 4 手順1で表示しておいた、インターネットエクスプローラのウィンドウの中をクリックする

5 ホームページの画像が表示されていることを確認して、「OK」ボタンをクリックする



サムネイル表示の画像が変わります。



メモ

画像ファイルをサムネイルに指定することもできます。その場合は、手順3で「ファイル指定する」を $\odot$ にし、「参照」ボタンをクリックして表示されるウインドウで、サムネイルにしたいファイルを選択してください。

お気に入りの画像を電子メールに添付する

例えば、デジタルカメラで撮った旅行の写真を、一緒に旅行に行った人に電子メールで送りたい。そんなときは、SmartGalleryを使うと簡単に画像を電子メールに添付して送れます。



チェック

保存したマルチメディアファイルがSmartGalleryの一覧に見あたらない場合は、「保存したマルチメディアファイルが見あたらないときは」(→p.174)をご覧ください。操作を行ってください。



参照

最新の情報を表示する→このPARTの「基本的な使いかた」(p.161)

- 1 電子メールに添付したい画像を右クリックする
- 2 表示されたメニューから「メール送信」をクリックする



メールソフト(購入時の設定では「Outlook Express」)が起動し、メールに画像が添付されます。あとは送信先を入力し、メッセージを書いて送信しましょう。



チェック

メール送信時の添付ファイルの最大サイズを設定できます。画像以外にもムービーや音楽ファイルなども送信することができます。



参照

電子メールの使いかた→『使っておぼえるパソコンの基本』前編の「PART3 電子メールをはじめよう」

保存したマルチメディアファイルを探す

■ マルチメディアファイルを検索する

SmartGalleryでは、マルチメディアファイルの拡張子や、タイトル、コメント、ファイルの更新日などで検索を行うことができます。

1  カテゴリ ボタンをクリックして、検索したい項目をクリックする
保存してあるマルチメディアファイルがサムネイル表示されます。

2  検索 ボタンをクリックする
「検索」画面が表示されます。

3 検索したい項目を☒にする

4 「検索」ボタンをクリックする

選んだ条件のマルチメディアファイルだけが表示されます。

■ 保存したマルチメディアファイルが見あたらないときは

保存したマルチメディアファイルのデータがSmartGalleryの一覧に見あたらないときは、次の操作を試してください。

- ・一覧に表示させるカテゴリを、表示させたいデータのカテゴリ、または「全て」のカテゴリに変更する。
- ・検索がかかっている場合は、 (全表示) ボタンをクリックして検索を解除する。

上記の操作をしてもマルチメディアファイルが見あたらない場合は、一覧に登録されるフォルダにファイルが保存されているか確認してください。保存されていない場合はフォルダにファイルを保存してください。

一覧に登録されるフォルダは、 (設定) ボタン → 「自動登録フォルダ」タブをクリックして表示される画面で確認することができます。 (NEW!) ボタンが点灯している場合、 (NEW!) ボタンをクリックすると、新規に作成されたファイルのみが表示されます。

P A R T

4

周辺機器を使う

別売の周辺機器の接続方法や注意事項などを説明しています。

このパソコンに接続できる周辺機器

本体前面 / 左側面



本体背面

マウス / テンキーボード用コネクタ

マウス



テンキーボード



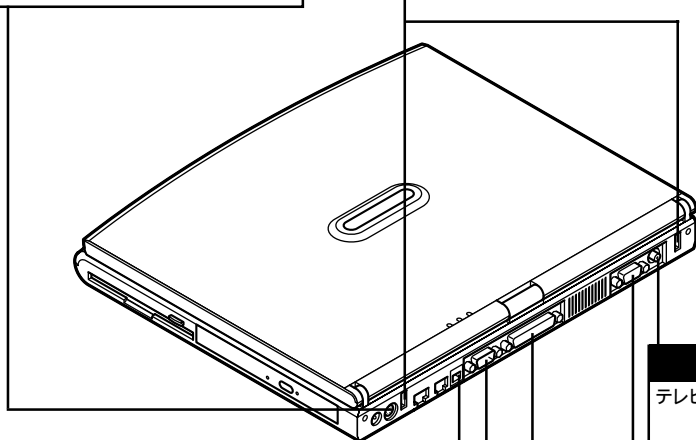
USBコネクタ

USB 機器



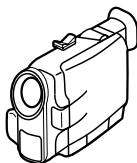
マウス / キーボード

携帯電話、PHS 端末
(携帯電話 / PHS 接続
ケーブルが必要)



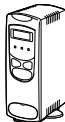
IEEE1394コネクタ

デジタルビデオカメラ



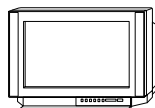
シリアルコネクタ

ターミナルアダプタ



映像出力端子

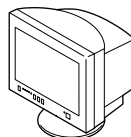
テレビ



ビデオ

外部CRT用コネクタ

外部ディスプレイ



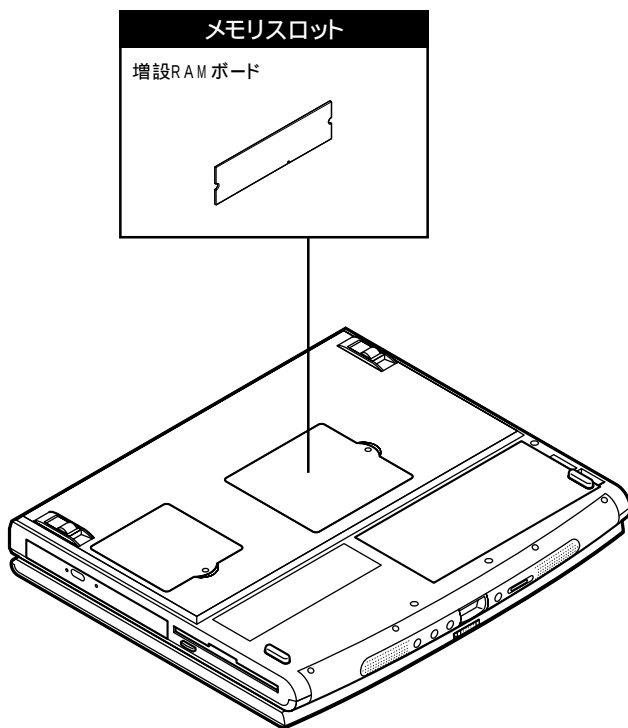
パラレルコネクタ

プリンタ



4

周辺機器を使う



周辺機器を接続する前に

周辺機器を利用する

プリンタや外部ディスプレイなど、パソコンに接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。このパソコンには、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています(→p.176,177)。



メモ

Windows MeのCOM1ポートはこのパソコンのシリアルコネクタ(ポート)に、LPT1はパラレルコネクタ(ポート)にあたります。

4

周辺機器を使う

周辺機器を利用するときの注意

⚠ 警告



感電注意

- 雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠ 注意



感電注意

- 周辺機器の取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、本機と周辺機器の電源コードを抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま、周辺機器の取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。
- 濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

周辺機器の取り付け / 取り外し時の注意

- ・スタンバイ状態または休止状態のときは、周辺機器を取り付けたり取り外したりしないでください。
スタンバイ状態または休止状態のときは、復帰させてデータを保存してから電源を切り、周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。
- ・別売の周辺機器を取り付けるときには、その周辺機器がこのパソコンに対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の説明書などをよく読んで使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、周辺機器の製造元 / 発売元などに上記の事項を確認してください。
- ・周辺機器の取り付けや取り外しは、周辺機器の取扱説明書にしたがって正しく行ってください。
- ・周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認して用意しておいてください。

リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の周辺機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。この場合は、次の手順でリソースが競合しないように変更してください。



参照

リソースについて → PART6の「割り込みレベルとDMAチャネル」(p. 246)

- 1 起動しているアプリケーションをすべて終了する
- 2 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
- 3 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
「デバイスマネージャ」画面が表示されます。
- 4  や  が表示されていて動作しない周辺機器を選び、「プロパティ」ボタンをクリックする
- 5 「プロパティ」画面で「リソース」タブをクリックし、「自動設定」を  にする
- 6 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選び、ダブルクリックする
「競合の情報」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。

- 7 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする
「競合するデバイス」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。



他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、「この設定のリソースは変更できません」と表示された場合は、その値への変更はできません。



選んだ周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。

- 8 リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」画面で「OK」ボタンをクリックする
- 9 「変更不可の環境設定の作成」の画面が表示されるので、「はい」ボタンをクリックする
元の画面に戻るまでに、しばらく時間がかかることがあります。そのままお待ちください。
- 10 「OK」ボタンをクリックし、「システムのプロパティ」を閉じる
- 11 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」をクリックする
「Windowsの終了」画面が表示されます。
- 12 をクリックして「再起動」を選び、「OK」ボタンをクリックする
再起動します。

周辺機器をえるようにセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバをパソコンにセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、パソコンと周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことで、ドライバと呼ぶこともあります。デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。



デバイスドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、パソコンの動作が不安定になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルにしたがって、再度デバイスドライバを正しくセットアップしてください。

- 「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器の場合

周辺機器を接続してWindowsを起動すると自動的にドライバの設定が行われ、周辺機器が使用可能な状態になります。



メモ

このパソコンにインストールされているWindows Meには、プラグ&プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

- 「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合

周辺機器を接続したあと、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、このパソコンやドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。



メモ

READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで簡単に見ることができます。

周辺機器の電源を入れる / 切る順序

このパソコンに周辺機器を接続しているときには、次の順序で電源を入れたり、切ったりしてください。

- 電源を入れるとき

周辺機器 → パソコン

- 電源を切るとき

パソコン → 周辺機器

プリンタ

プリンタを接続する

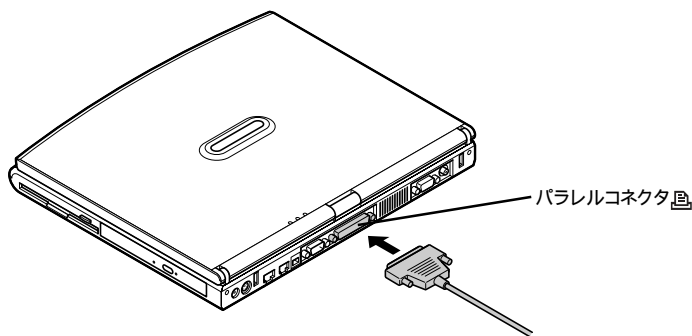
このパソコンに接続できるプリンタには、パラレルコネクタに接続するプリンタとUSBコネクタに接続するプリンタの2種類があります。パラレルコネクタにプリンタを接続するには、25ピンパラレルインターフェイスに対応したプリンタケーブルが必要です。



参照

USBプリンタを使う→このPARTの「USB対応機器」(p. 213)

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で[]をクリックして「終了」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 パラレルコネクタにプリンタケーブルの小さいほうのコネクタを向き(上下)に注意して差し込む



- 4 プリンタケーブルの大きいほうのコネクタをプリンタのコネクタに差し込む
接続についてはプリンタのマニュアルもご覧ください。
- 5 パソコンにACアダプタを接続する
- 6 プリンタの電源ケーブルとパソコンの電源コードをACコンセントに接続する

プリンタを設定する

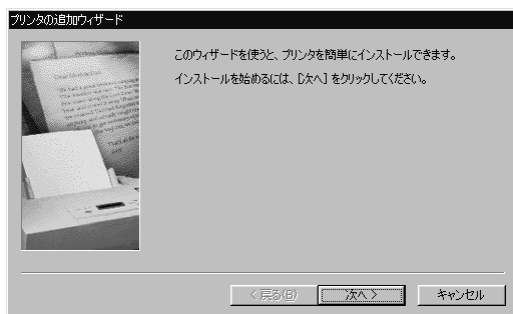
パラレルコネクタに接続したプリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに、Windowsの「プリンタ」の画面で行います。例えば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。

プラグ&プレイ機能対応のプリンタを設定する

プラグ&プレイ機能(→p.182)に対応したプリンタを設定する場合、プリンタをパソコンに接続したあと、プリンタ→パソコンの順に電源を入れると、自動的にプリンタドライバの組み込みが行われます。

プラグ&プレイ機能を利用しないでセットアップを行う場合

- 1 プリンタが正しく接続され、プリンタの電源が入っていることを確認する
- 2 「スタート」ボタン→「設定」→「プリンタ」をクリックする
「プリンタ」の画面が表示されます。
すでに設定済みのプリンタがある場合は、その機種のアイコンが表示されています。
- 3 「プリンタの追加」アイコンをダブルクリックする
「プリンタの追加ウィザード」が表示されます。



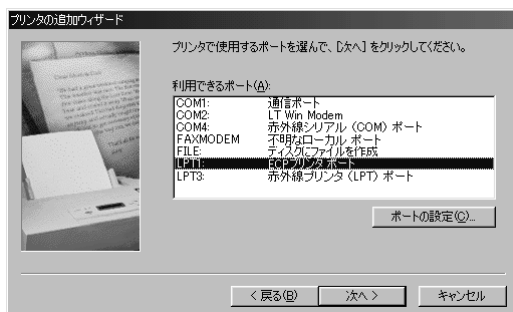
- 4 「次へ」ボタンをクリックする
- 5 「プリンタはどこに接続されていますか?」と表示された場合は、「ローカルプリンタ」をクリックして「次へ」ボタンをクリックする
「製造元」と「プリンタ」のリストが表示されます。

- 6 表示されたリストの中から、使用するプリンタの製造元とプリンタの機種 または互換性のある機種)を選ぶ



プリンタにインストールディスク/ドライバディスク が添付されており、そのインストールディスクを使用してセットアップを行う場合は、「ディスク使用」ボタンをクリックします。インストール場所を指定する画面が表示されたら、プリンタのマニュアルをご覧ください。インストールディスクの指定を行ってください。

- 7 「次へ」ボタンをクリックすると、プリンタを使用できるポートのリストが表示されるので、LPT1を選ぶ

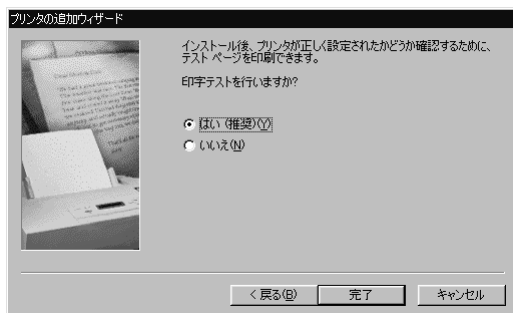


- 8 「次へ」ボタンをクリックし、表示された画面の「プリンタ名」欄に使用するプリンタの名前を付ける
この欄には手順6で選んだプリンタの機種名がプリンタ名として表示されるので、特に名前を付け直す必要がなければ、そのままにしておきます。

9 「次へ」ボタンをクリックする

テスト印刷を行うかどうかを選ぶ画面が表示されます。

「はい(推奨)」を選ぶと、テストページの印刷によってプリンタの接続や設定が正常に行われたかどうか確認することができます。この場合は、あらかじめプリンタのマニュアルにしたがって用紙などをセットしておいてください。



10 設定が終了したら「完了」ボタンをクリックする

もし、今までの設定を変更したい場合は、「戻る」ボタンをクリックして前の設定画面に戻り、設定をやり直します。

このあと必要なファイルのコピーが行われます。ファイルのコピーがすべて終了すると、設定したプリンタのアイコンが「プリンタ」ウィンドウに表示されます。「Windowsのディスクを挿入してください」というメッセージが表示された場合は、「C: ¥WINDOWS¥OPTIONS¥CABS」を指定してください。



チェック

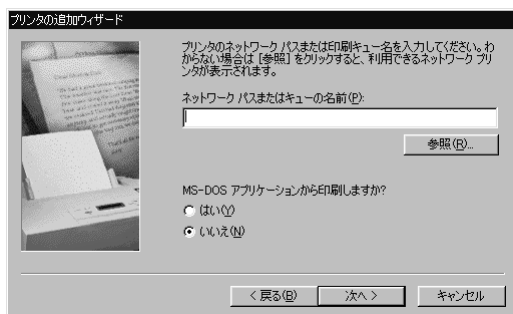
NEC製プリンタのMultiWriterシリーズ、MultiImpactシリーズでPrintAgentをお使いの場合は、スタンバイ機能に対応していない場合があります。その場合は、「コントロールパネル」の「電源の管理」の「電源設定」タブで「システムスタンバイをなし」に設定してください。

ネットワーク上の共有プリンタを使うための設定をする

ネットワークに接続されているプリンタを使用する場合は、次のように設定します。設定するには、あらかじめプリンタのパスを調べておく必要があります。プリンタのパス名など、ネットワークプリンタについては、ネットワークの管理者にお問い合わせください。

1 「プリンタを設定する(→ p.184)」の手順1～4を行う

- 2 「ネットワークプリンタ」をクリックして、「次へ」ボタンをクリックする
次のような画面が表示されます。



- 3 ネットワークパス名を入力する
「参照」ボタンをクリックすると、ネットワークに接続されているプリンタが表示されるので、そこから選ぶこともできます。
- 4 「次へ」ボタンをクリックし、あとは画面の指示にしたがってプリンタの設定を行う

マウス

別売のマウスの設定方法

このパソコンでは、別売のUSBマウス、シリアルマウス、PS/2互換マウスを使用することができます。それぞれのマウスを使用するための設定方法については、次からの説明をご覧ください。



チェック

マウスドライバの変更を行うとき、一時的にマウスやNXパッドなどのポインティングデバイスが使用できなくなる場合があります。その場合でもキーボードによる操作は可能ですので次の手順でパソコンを再起動してください。

- キーボードを使って再起動する

- 1 【Ctrl】を押しながら【Esc】を押す
- 2 カーソル移動キーで「Windowsの終了」を選択し【Enter】を押す
- 3 カーソル移動キーで「再起動」を選択し、【Enter】を押す

USBマウスを使用する

このパソコンにUSBマウスを接続して使用する場合は、次の手順で設定を行ってください。



チェック

マウスドライバの変更を行うときは、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「デバイス マネージャ」タブをクリックする
- 3 「マウス」の左の $\oplus$ をクリックする
- 4 「NX PAD」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックする
「NX PADのプロパティ」画面が表示されます。
- 5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。

- 6 「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 8 「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする



チェック

- ・「モデル」に「標準PS/2ポートマウス」が表示されていない場合は、「すべてのハードウェアを表示」をクリックして「製造元」から「標準マウス」を選択し、「モデル」から「標準PS/2ポートマウス」を選択してください。
- ・「ドライバ更新の警告」画面が表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

- 9 「次へ」ボタンをクリックする
必要なファイルがコピーされます。
- 10 「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする
「システム設定の変更」画面が表示されます。



チェック

ポインタが動かなくなった場合は、【Enter】を押してください。

- 11 「はい」ボタンをクリックする
パソコンが再起動します。

USBマウスを使用する場合は、Windowsが起動したあとにUSBマウスを接続してください。



チェック

「マウスのプロパティ」で「ポインタの速度」の設定を変更すると、USBマウスを動かしても、マウスポインタが正常に動作しない場合があります。
この場合は、次の手順でポインタの速度を標準設定に戻してください。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「マウス」アイコンをダブルクリックする
「マウスのプロパティ」が表示されます。
- 2 「ポインタ オプション」タブをクリックする
- 3 「ポインタの速度」を左から5番目に設定する



参照

マウスドライバのインストール方法→各機器のマニュアル

シリアルマウスを使用する

このパソコンにシリアルマウスを接続して使用する場合は、次の手順で設定を行ってください。



チェック

接続するときは、必ずこのパソコンの電源を切ってから接続してください。

- 1 シリアルマウスをこのパソコンのシリアルコネクタに接続する
- 2 「コントロールパネル」を開き、「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックする
「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示されます。
- 3 「次へ」ボタンをクリックする
- 4 「次へ」ボタンをクリックする
- 5 「デバイス是一覧にない」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 6 「はい(通常こちらを選択してください)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「プラグアンドプレイで検出されなかった新しいデバイスを検出します。」とメッセージが表示されたら、「次へ」ボタンをクリックする



チェック

ハードウェアの検出には数分かかる場合があります。

- 8 ハードウェアの検出が完了したら「詳細」ボタンをクリックし、「シリアルマウス」が認識されたことを確認する
- 9 「完了」ボタンをクリックする



チェック

シリアルマウスが動作しない場合は、パソコンを再起動してください。

PS/2互換マウスを使用する

このパソコンにPS/2互換マウスを接続して使用する場合は、次の手順で設定を行ってください。

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」でをクリックして「終了」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 3 マウス/テンキーボード用コネクタ/ にPS/2互換マウスを接続する

マウスに専用のドライバが添付されている場合は、マウスのマニュアルにしたがってドライバの変更を行ってください。

NXパッドを使用する設定に戻す

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
- 2 「デバイス マネージャ」タブをクリックする
- 3 「マウス」の左のをクリックする
- 4 現在使用しているマウスを選択し、「プロパティ」ボタンをクリックする
現在使用しているマウスのプロパティ画面が表示されます。
- 5 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」画面が表示されます。
- 6 「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 8 「モデル」の「NX PAD」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「次へ」ボタンをクリックする
必要なファイルがコピーされます。

10 「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました」と表示されたら、「完了」ボタンをクリックする

11 「閉じる」ボタンをクリックし、再び「閉じる」ボタンをクリックする

12 パソコンを再起動する

再起動後、NXパッドが有効になります。再起動してもポインタが動かない場合は、キーボードを使用してパソコンをもう一度再起動してください。

他社製のマウスドライバを使用するときの注意

他社製のマウスには、独自のマウスドライバが添付されているものがあります。他社製マウスドライバのインストール、アンインストールは次の手順で行ってください。



チェック

マウスドライバを変更するときは、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。

他社製のマウスドライバをインストールする

1 「USBマウスを使用する（→ p. 188）の手順1～11を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する

2 他社製のマウスドライバをインストールする



参照

マウスドライバのアンインストール→マウスのマニュアル

他社製のマウスドライバをアンインストールする

1 他社製のマウスドライバをアンインストールする



参照

マウスドライバのアンインストール→マウスのマニュアル

2 「USBマウスを使用する（→ p. 188）の手順1～11を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する

3 「NXパッドを使用する設定に戻す（→ p. 191）の手順にしたがって、NXパッドを使用する設定に戻す

外部ディスプレイを使う

CRTディスプレイを使う

このパソコンには別売のCRTディスプレイを接続することができます。CRTディスプレイの大画面を使った作業が可能になります。

CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

表示解像度 (ドット)	水平走査 周波数 (KHz)	垂直走査 周波数 (Hz)	表示色		
			256色	65,536色	1,677万色
640 × 480	31.5	60	○	○	○
	37.5	75	○	○	○
	43.3	85	○	○	○
800 × 600	37.9	60	○	○	○
	46.9	75	○	○	○
	53.7	85	○	○	○
1,024 × 768	48.4	60	○	○	○
	56.5	70	○	○	○
	60.0	75	○	○	○
1,280 × 1,024	64.0	60	○	○	○
	80.0	75	○	○	○
	91.1	85	○	○	○
1,600 × 1,200	75.0	60	○	○	○
	93.8	75	○	○	○

○ : 表示可能

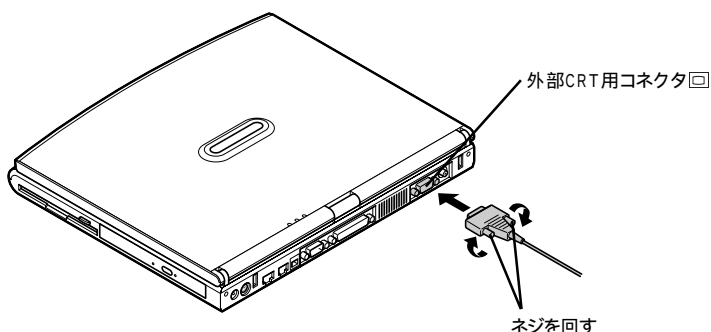


チェック

使用するCRTディスプレイによっては、上の表に記載されている走査周波数や解像度と異なる場合があります。CRTディスプレイを使用するときは、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

CRTディスプレイを接続する

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「終了」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 ディスプレイ用ケーブルをパソコンの外部CRT用コネクタに差し込み、ネジを回して固定する



- 4 CRTディスプレイの電源ケーブルを、ディスプレイ背面の電源コネクタに差し込む
詳しくはCRTディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 5 パソコンにACアダプタを接続する
- 6 CRTディスプレイの電源ケーブルとパソコンの電源コードをACコンセントに接続する
CRTディスプレイを接続した場合、パソコンはACアダプタで使用してください。

プロジェクタを使う

このパソコンには、別売のプロジェクタを接続することができます。プロジェクタは、プレゼンテーションなどに利用することができます。

プロジェクタと解像度について

別売のプロジェクタを使用する場合は、プロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度などを確認してください。

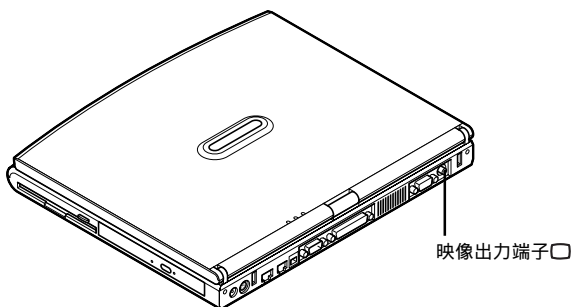


参照

プロジェクタとの接続のしかた→プロジェクタのマニュアル

テレビを使う

市販のビデオケーブルを使って、このパソコンの映像出力端子(□)とテレビやビデオなどのビデオ入力端子を持つ機器を接続すると、パソコンの画面やDVD VIDEOディスクの再生画面をテレビに出力することができるようになります。テレビへの出力のしかたについては、次の「表示するディスプレイを切り替える」をご覧ください。



参照

テレビで表示できる表示色と解像度→PART1の「液晶ディスプレイ」の「表示できる解像度と表示色」(p.57)

表示するディスプレイを切り替える

別売のCRTディスプレイやテレビなどが接続されているときは、キーボードを使って画面の出力先を切り替えることができます。

1【Fn】を押したまま【F3】を押す

キーを押すごとに、「このパソコンの液晶ディスプレイとCRTディスプレイの同時表示」→「テレビ」→「このパソコンの液晶ディスプレイ」→「CRTディスプレイ」の順に画面の出力先が切り替わります。



メモ

「テレビ」への出力は、テレビが接続されているときのみ切り替わります。

液晶ディスプレイとCRTディスプレイに同時に表示する

このパソコンの液晶ディスプレイとCRTディスプレイに同時に表示するためには設定が必要です。次の手順で設定を行ってください。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3 「ATI画面」タブをクリックする
「モニタ」パネル」の接続状態が表示されます。
- 4 「モニタ」パネル」のボタンをクリックして設定し、それぞれの隣にある
をクリックして表示するディスプレイを決定する
が水色の場合は表示がオンになり、グレーの場合はオフになります。
- 5 設定が終了したら「適用」ボタンをクリックし、表示が切り替わったことを確認して「OK」ボタンをクリックする
- 6 メッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする

接続した外部ディスプレイを設定する

ディスプレイに合わせてパソコンを設定する

別売のCRTディスプレイを使用したとき、表示されたメッセージが適切でなかったり、プラグ&プレイに対応していないディスプレイの場合には、次の操作を行ってください。

- 1 「コントロールパネル」を開き、「画面」アイコンをダブルクリックする
「画面のプロパティ」が表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細」ボタンをクリックする
- 3 「モニタ」タブをクリックし、「変更」ボタンをクリックする
「デバイスドライバの更新ウィザード」が表示されます。
- 4 「ドライバの場所を指定する(詳しい知識のある方向け)」を選んで、「次へ」ボタンをクリックする
- 5 「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を表示し、インストールするドライバを選択する」を選んで、「次へ」ボタンをクリックする

- 6 「すべてのハードウェアを表示」を選ぶ
- 7 一覧から「製造元」と「モデル」を選ぶ
一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」欄で「(標準モニタの種類)」を選び、「モデル」欄で接続したディスプレイに対応した解像度を選んでください。
- 8 「次へ」ボタンをクリックし、再び「次へ」ボタンをクリックする
- 9 「完了」ボタンをクリックし、「閉じる」ボタンをクリックする
- 10 「OK」ボタンをクリックする
これでディスプレイの設定が完了しました。

PCカード

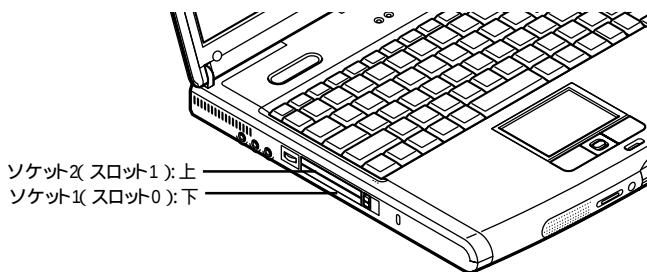
PCカードとPCカードスロットを使う

PCカードについて

PCカードには、メモリカードやモデムカード、SCSIインターフェイス対応機器をつなげるためのSCSIカードなどいくつかの種類があり、用途も幅広く使われています。PCカードを使うことで、パソコンの機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を接続することができます。このパソコンではPC Card Standard準拠のPCカードが使用できます。

PCカードスロットについて

- ・TYPE IかTYPE IIのPCカードを上下のスロットに1枚ずつ2枚まで、または上下のスロットを合わせて1枚のTYPE IIのPCカードを使用できます。
- ・CardBus対応のPCカードは、ソケット1(スロット0)またはソケット2(スロット1)の両方で同時に使うことができます。



PCカードの取り扱いについて

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
- ・濡らさないでください。
- ・重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしないでください。
- ・ぶつけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
- ・PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。

PCカードを使用するときの注意

- ・ PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。
- ・ ATAカードをセットしていると、カードをセットしていないときよりもスタンバイ状態または休止状態になるまでに時間がかかります。
- ・ マルチファンクションカードとATAカードを同時にセットして使用するときは、上側のスロット(スロット1)にマルチファンクションカードを、下側のスロット(スロット0)にATAカードをセットしてください。
- ・ CardBus対応PCカードのドライバをインストールしているときに、「例外エラー」が発生する場合があります。この場合、パソコンを再起動すると、正常にインストールを完了することがあります。

PCカードのセットのしかたと取り出しかた

⚠注意



高温注意

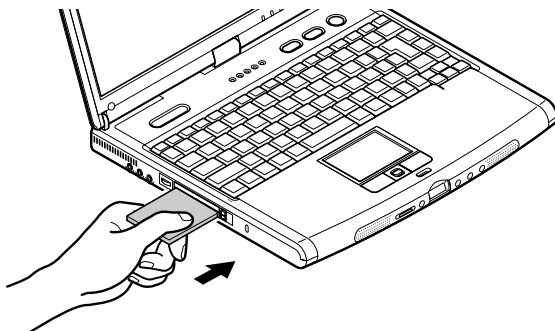
- ・ 本機の使用中や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。

PCカードをセットする / 取り出すときの注意

- ・ PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- ・ スタンバイ状態または休止状態のときは、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。パソコンの機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。
- ・ アプリケーションを使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。

PCカードをセットする

- 1 PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、水平に静かに差し込む

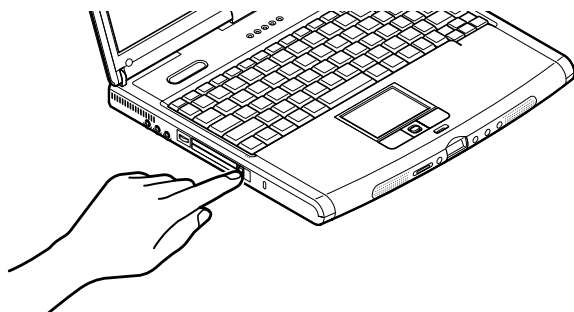


PCカードを取り出す

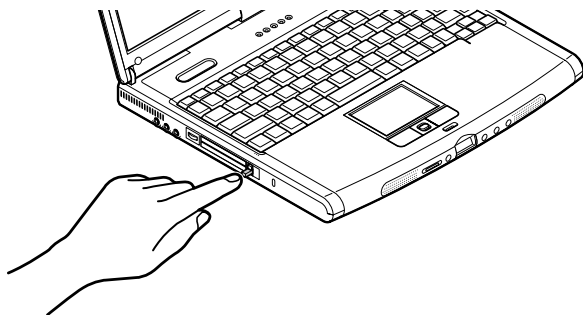
PCカードを取り出すときは、必ず次の手順で取り出してください。

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする
「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。
- 2 取り外したいPCカードを選択し、「停止」ボタンをクリックする
- 3 「OK」ボタンをクリックする
安全に取り外せるという内容のメッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする
- 5 「閉じる」ボタンをクリックする
「ハードウェアの取り外し」画面が閉じます。

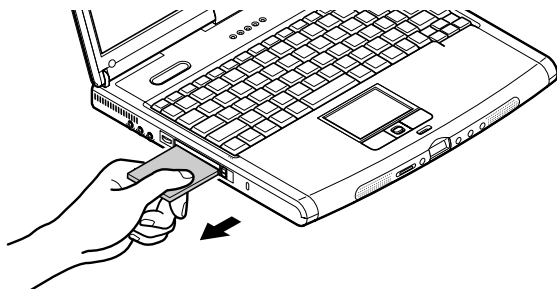
- 6** 本体のPCカードイジェクトボタンを押す
イジェクトボタンが手前にとび出します。



- 7** もう一度イジェクトボタンを押す
PCカードが少しとび出します。



- 8** PCカードを水平に静かに引き抜く



上記の手順以外の方法でPCカードを抜きとった場合は、「予期しないPCカードの取り外し」ウィンドウが表示される場合があります。「OK」ボタンをクリックして、ウィンドウを閉じてください。

PCカードの割り込みレベルを設定する

PCカードによっては、割り込みレベルの設定がパソコンの他の設定と重なってしまう場合があります。PART6の「割り込みレベルとDMAチャンネル」(→p.246)やPCカードのマニュアルをご覧ください。割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みレベルが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。



参照

割り込みレベルの設定を変更する→「リソースの競合について」(p.180)

メモリ

メモリを増設する

別売の増設RAMボードを取り付けてメモリを増やすことで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。



メモ

メモリスロットのもう片方に別売の128Mバイトの増設RAMボードを取り付けることで最大256Mバイトまでメモリを増設することができます。

このパソコンでは、次の増設RAMボードが使用できます。

型名	メモリ容量
PK-UG-M024	64Mバイト
PK-UG-M025	128Mバイト

増設RAMボードを取り扱うときの注意

⚠注意



感電注意

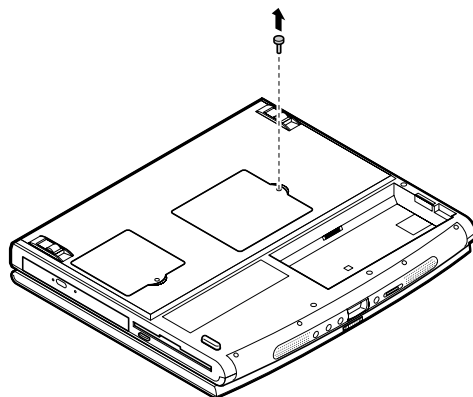
- 増設RAMボードの取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、電源コードとバッテリーパックを取り外してください。電源コードやバッテリーパックが取り付けられたまま増設RAMボードの取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。

- 増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- 増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- 増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、パソコンのコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。

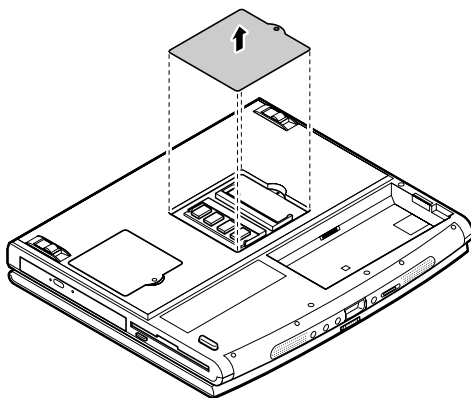
増設RAMボードの取り付けかたと取り外しかた

増設RAMボードを取り付ける

- 1 パソコンを使用中の場合は、「スタート」ボタン→「Windowsの終了」で▼をクリックして「終了」を選び、「OK」ボタンをクリックして電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタをパソコンから取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、パソコンを裏返す
- 4 バッテリパックを取り外す(→p.69)
- 5 図のネジをプラスドライバで取り外す



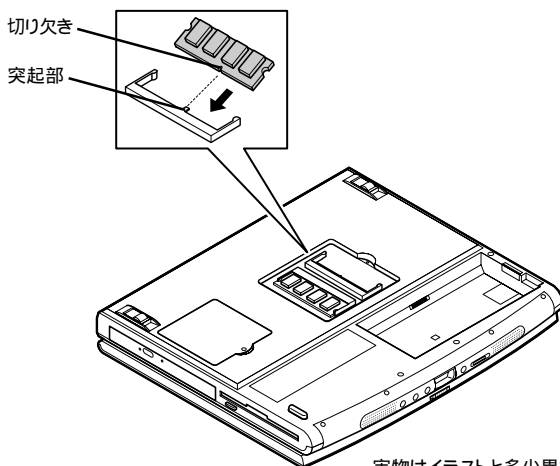
6 メモリスロットのカバーを取り外す



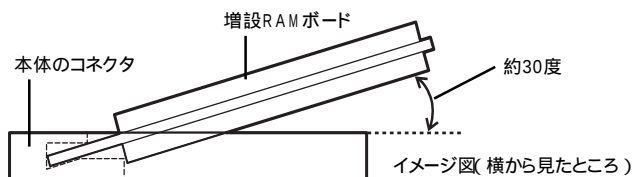
- 7 増設RAMボードの切り欠き部分をコネクタの突起部に合わせ、コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する。増設RAMボードを奥まで挿入できているときは、端子部分(金色)のほとんどが、本体のコネクタに差し込まれた状態になります。

チェック

増設RAMボードの表と裏が逆の場合は、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部の位置が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。



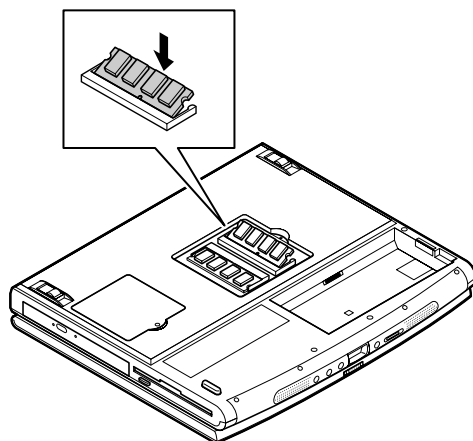
実物はイラストと多少異なる場合があります



チェック

挿入するときに、コネクタが固いことがあります。奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。

8 カチッと音がする位置まで増設RAMボードをコネクタに強く倒し込む



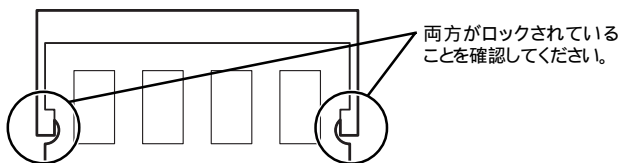
9 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認する

正しくロックされている場合は、増設RAMボードが水平で、端子の金色の部分が少し(1mm程度)見える状態です。



チェック

確実にロックされていないと、本体のコネクタ部や増設RAMボードの故障の原因となります。また、パソコンが正しくメモリを認識できないこともあります。



10 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける

11 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける

メモリ増設後は、次の「増設したメモリ(RAM)の確認」にしたがって、正しく増設できたかどうか確認してください。

増設したメモリ(RAM)の確認

増設したメモリがパソコンに正しく認識されているかどうかを確認します。

- 1** 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
- 2** 「全般」タブで右下に表示されている「***MBのRAM」の数値を確認する
***MBがこのパソコンの総メモリ容量です。



メモ

システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合がありますが故障ではありません。

メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。

- ・ 増設RAMボードが正しく取り付けられているか
- ・ このパソコンで利用できる増設RAMボードを取り付けているか

ハードディスクの空き容量を確認する

このパソコンで休止状態の機能(→p.76)を使用する場合は、次の手順1～4の操作を行って設定を確認してください。増設したメモリ容量分、ハードディスクの空き容量が必要になります。

1 パソコンの電源を入れる



チェック

パソコンの起動直後にメッセージが表示されますが、動作上問題ありません。

2 「コントロールパネル」を開き、「電源の管理」アイコンをダブルクリックする 「電源の管理のプロパティ」画面が表示されます。

3 「休止状態」タブをクリックする

4 「休止のためのディスク領域」欄で、「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値よりも大きいことを確認する

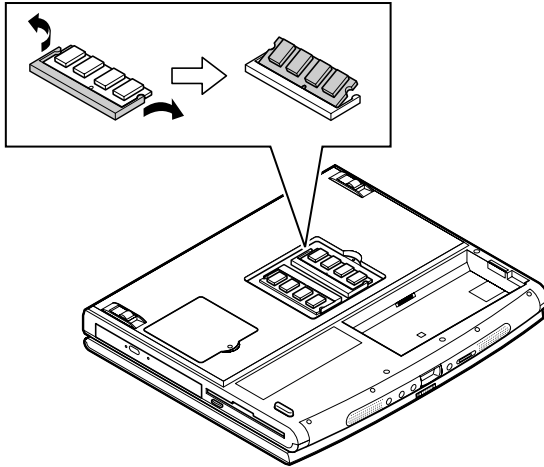


チェック

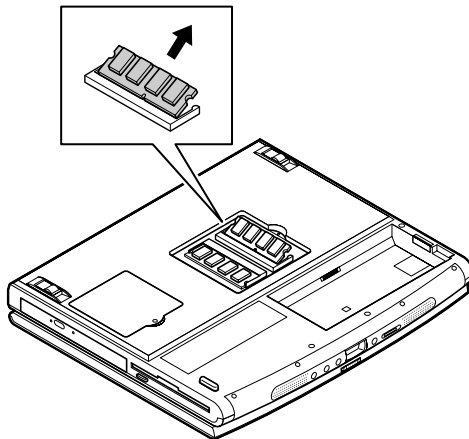
「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値より小さいと休止状態にできなくなります。このような場合は、不要なファイルを削除するなどしてディスクの空き領域を増やしてください。

増設RAMボードを取り外す

- 1 「増設RAMボードを取り付ける (→p.204) の手順1～6にしたがって、メモリスロットのカバーを取り外す
- 2 メモリスロットのコネクタの両端部分を左右に押し広げる
増設RAMボードが図のようにおきあがります。



- 3 そのまま増設RAMボードを斜めに引き抜く



- 4 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本体底面に取り付ける
- 5 バッテリーパックを取り付ける

IEEE1394コネクタ

IEEE1394とは

IEEE1394は、IEEE(米国電気電子技術者協会)で標準化された規格の一つで、パソコンと周辺機器のデータのやりとりを高速に行うことができるインターフェイスです。転送速度が早いので、動画などの容量の大きいデータもスムーズに転送することができます。

IEEE1394に対応している周辺機器には、デジタルビデオカメラやデジタルビデオデッキなどがあります。

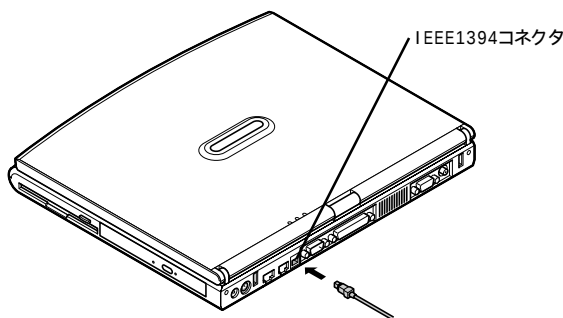
IEEE1394対応機器を接続する

接続する前に

- ・このパソコンと、IEEE1394コネクタを持っている周辺機器を接続するときは、別売のケーブルが必要です。このパソコンのIEEE1394コネクタは、4ピンのコネクタです。ケーブルを購入する際には、接続するパソコンや機器側のコネクタの形状も確認しておいてください。
- ・周辺機器によっては、IEEE1394に対応した端子のことを別の名称(DV端子など)で呼んでいる場合もあります。

IEEE1394コネクタに接続する

- 1 本体背面のIEEE1394コネクタにIEEE1394ケーブルのプラグを接続する





チェック

接続するときは、プラグの向きに注意してください。間違った向きで無理に差し込もうとすると、本体側のコネクタやケーブルのプラグの故障または破損の原因となります。

- 2 ケーブルのもう一方のプラグを周辺機器に接続する
周辺機器との接続については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

IEEE1394コネクタから機器を取り外す



チェック

IEEE1394対応機器は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。正しい手順で取り外しを行わないとパソコンが正常に動作しなくなることがあります。

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする
「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。
が表示されていない場合は手順6へ進んでください。
- 2 取り外したい機器名をクリックして「停止」ボタンをクリックする
機器名が表示されていない場合は、手順5へ進んでください。
- 3 「ハードウェア デバイスの停止」画面で取り外したい機器名をクリックして
「OK」ボタンをクリックする
安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする
- 5 「閉じる」ボタンをクリックして「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる
- 6 取り外す機器のプラグを、本体のIEEE1394コネクタから取り外す

IEEE1394コネクタでファイルを転送する

このパソコンのIEEE1394コネクタと別のパソコンのIEEE1394コネクタとを別売のIEEE1394接続ケーブルで接続すると、パソコン間でのファイルの転送ができるようになります。



チェック

IEEE1394接続ケーブルは、接続先のコネクタ形状に合わせたケーブルを使用してください。

接続にはホームネットワークの設定が必要です。

ホームネットワークの設定をするには、「ホーム ネットワーク ウィザード」を使います。「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ホーム ネットワーク ウィザード」をクリックして表示された画面にしたがって設定を行ってください。

USB 対応機器

USBとは

このパソコンにはUSB対応機器を取り付けるためのUSBコネクタが2つあります。USBとはUniversal Serial Busの頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ&プレイ機能にも対応しています。USBコネクタはUSBポートと呼ぶこともあります。現在利用できる主なUSB対応機器として、次のようなものがあります。

- ・ マウス
- ・ キーボード
- ・ プリンタ
- ・ テンキーボード
- ・ イメージスキャナ
- ・ 携帯電話接続用ケーブル
- ・ デジタルカメラ
- ・ PHS接続用ケーブル
- ・ ISDNターミナルアダプタ など



メモ

USB対応機器の、このパソコンでの動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧ください。各機器の発売元にお問い合わせください。なお、NEC製のUSB機器の情報は、NECのホームページ「121ware.com(ワントウワンウェア ドット コム)」をご覧ください。

<http://121ware.com/>

USBコネクタに接続する

接続する前に

機器によっては、接続する前や接続したあとに、ドライバのインストールや各種スイッチなどの設定が必要な場合がありますので、接続するUSB対応機器のマニュアルを読んで、接続する前に設定が必要な場合は、設定をしてください。また、ドライバなどインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意しておいてください。



メモ

- ・ USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態でも接続できますので、接続前に電源を切る必要はありません。
- ・ 別売のUSBマウスなどで、接続してすぐ使うことができるものがあります。ただし、いくつかの機能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでください。

USB対応機器を接続するときの注意

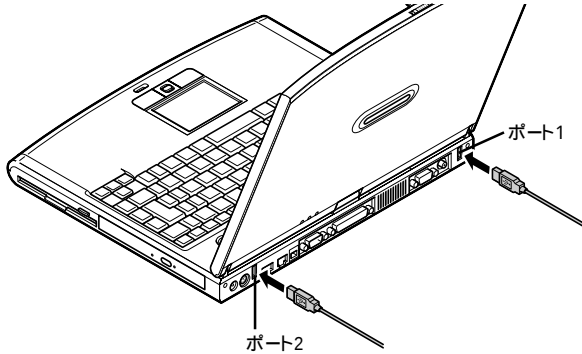
- ・ コントロールパネルの「システム」アイコンをダブルクリックすると表示される「デバイスマネージャ」の画面にある「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」または「Universal Serial Bus Controller」の記述は削除しないでください。
- ・ USB対応機器の抜き差しを行うときは、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- ・ USBコネクタにプラグをすばやく差したり斜めに差ししたりすると、信号が読みとれずに不明なデバイスとして認識されることがありますので、その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、もう一度正しく接続しなおしてください。
- ・ はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、もう一度差し込んでみてください。

なお、USB対応機器は一度設定をすれば、次回からはプラグを差し込むだけで、すぐに機器が使用可能になります。このとき画面には何も表示されませんが、故障ではありません。

- ・ スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中、休止状態中、休止状態へ移行中、休止状態から復帰中のときは、USBコネクタにプラグを抜き差ししないでください。
- ・ USB対応機器を接続した状態ではスタンバイ状態に移行できない場合があります。スタンバイ状態に移行する前に、USB対応機器を取り外してください。
- ・ USBハブ経由でUSB対応機器を使用するときは、USBハブをパソコンに接続してからUSB対応機器を接続するようにしてください。USBハブにUSB対応機器を接続した状態でUSBハブをパソコンに接続すると、USB対応機器が正常に認識されないことがあります。

USBコネクタにプラグを差し込む

1 パソコン本体のUSBコネクタにプラグを差し込む



- 2 接続したUSB対応機器がパソコンに正しく認識されたかどうかを確認する
確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。



メモ

- ・ 別売のUSBマウスを接続したときに、NXパッドでの操作を無効に設定しておくことができます。無効に設定しておくことにより、NXパッドでの誤操作を防ぐことができます。USBマウスを接続したときにNXパッドを無効にするには、BIOSセットアップメニューの「詳細」メニューで「NXパッド&PS/2マウス」を「使用しない」に設定(→p.226)してください。
- ・ このパソコンではUSBハブを内蔵しており、ポート2はハブを経由します。ハブの接続数に制限のあるオプションのUSB対応機器をポート2に接続して正常に動作しない場合はポート1に接続してください。

USBコネクタから機器を取り外す



チェック

USB対応機器は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。正しい手順で取り外しを行わないとパソコンが正常に動作しなくなることがあります。

- 1 インジケータ領域(タスクトレイ)にあるをダブルクリックする
「ハードウェアの取り外し」画面が表示されます。
が表示されていない場合は手順6へ進んでください。
- 2 取り外したい機器名をクリックして「停止」ボタンをクリックする
機器名が表示されていない場合は、手順5へ進んでください。
- 3 「ハードウェア デバイスの停止」画面で取り外したい機器名をクリックして
「OK」ボタンをクリックする
安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。
- 4 「OK」ボタンをクリックする
- 5 「閉じる」ボタンをクリックして「ハードウェアの取り外し」画面を閉じる
- 6 取り外す機器のプラグを、本体のUSBコネクタから取り外す

その他の機器を使う

その他の周辺機器について

このパソコンでは、次のような別売の機器を使用することができます。

種 類	機 器
オーディオ機器	ヘッドホン、マイクロホン、オーディオ機器など
入力装置	マウス、外付けキーボード、テンキーボード、デジタルカメラ、イメージスキャナなど
通信機器	携帯電話、PHS、外付けモデム、ターミナルアダプタなど

それぞれの周辺機器をパソコンのどのコネクタに接続するかは、周辺機器が使用しているインターフェイスによって異なります。また、周辺機器によってインターフェイスが決まっている訳ではありません。詳しくは、各周辺機器のマニュアルをご覧ください。

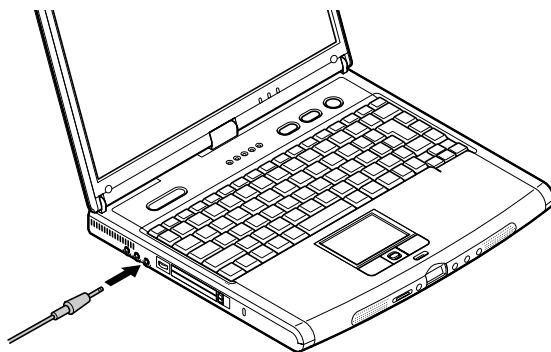


チェック

スタンバイ状態または休止状態のときは、周辺機器を接続したり、接続していた機器を取り外したりしないでください。パソコンの機器構成が変更されると、データが消えてしまうことがあります。

ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子

ヘッドホンやデジタル入力を持ったオーディオ機器を接続することができます。



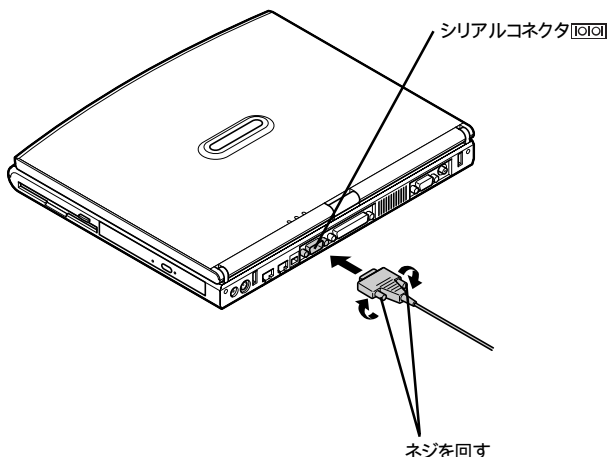
デジタル入力を持ったオーディオ機器を接続する場合、市販の光デジタルケーブルを使用します。パソコン本体側の端子は光ミニ端子です。

！チェック

- ・ 機器によっては、デジタル入力端子が光デジタルではない場合があります。このような場合、別途、変換ユニットが必要になる場合があります。
- ・ このパソコンの光デジタル出力のサンプリングレートは48KHzです。デジタル入力のあるオーディオ機器を接続する場合、そのオーディオ機器が48KHzのサンプリングレートに対応している必要があります。オーディオ機器のマニュアルやカタログで確認するか、販売店、メーカーにお問い合わせください。

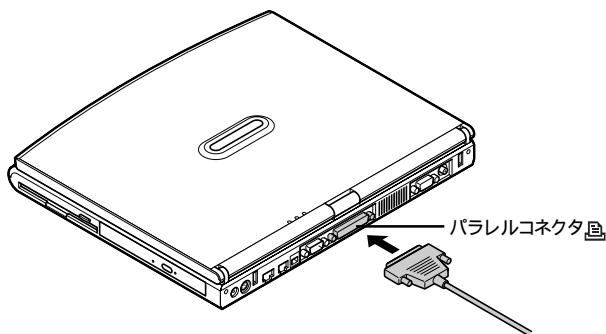
シリアルコネクタ

シリアル対応機器を接続するためのコネクタです。一般的なコンピュータ用語ではこれをシリアルポートと呼び、WindowsではCOM1やCOM2の名称で呼んでいます。シリアルコネクタには、外付けモデムやターミナルアダプタなどを接続することができます。また、ほかのパソコンとケーブルで接続してデータ転送することもできます。



パラレルコネクタ

別売のプリンタなどのパラレル対応機器を接続するためのコネクタです。一般的なコンピュータ用語ではこれをパラレルポートと呼び、WindowsではプリンタポートまたはLPT1の名称で呼んでいます。パラレル対応機器であればプリンタ以外の機器も接続することができます。また、シリアルコネクタと同じように、ほかのパソコンとケーブルで接続してデータ転送することができます。



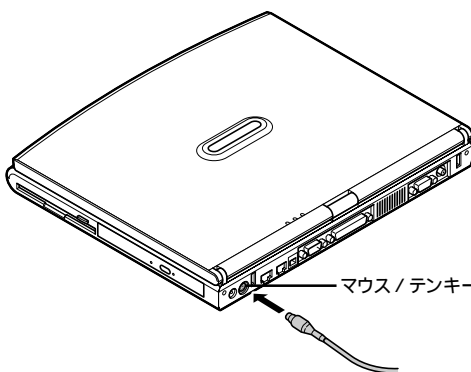
マウス / テンキーボード用コネクタ

別売のマウスやテンキーボードなどのPS/2タイプの機器を取り付けるためのコネクタです。



チェック

マウスやテンキーボードを接続するときは、必ず、「スタート」ボタン → 「Windowsの終了」でパソコンの電源を切ってから接続してください。



マウス / テンキーボード用コネクタ /



メモ

- ・ 別売のPS/2タイプのマウスを接続したときに、NXパッドでの操作を無効に設定しておくことができます。無効に設定しておくことにより、NXパッドでの誤操作を防ぐことができます。PS/2タイプのマウスを接続したときにNXパッドを無効にするには、BIOSセットアップメニューの「詳細」メニューで「NXパッド&PS/2マウス」を「自動」に設定(→p.226)してください。
- ・ マウスとテンキーボードの両方を同時に接続したいときは、別売のYケーブル(PK-KB012)またはマウスに添付されているYアダプタを使ってください。

5

BIOSセッアップメニュー

セキュリティや省電力など、パソコンの使用環境の設定について説明します。設定方法を間違えると正しく動作なくなってしまうので、十分注意してください。また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

BIOS セットアップメニュー

BIOSセットアップメニューを使ってできること

BIOSセットアップメニューは、パソコンの使用環境を設定するためのものです。BIOSセットアップメニューを使うと次のような設定ができます。

- ・現在の日付と時間の設定
- ・BIOSセットアップメニューで使用する言語の選択
- ・ハードウェア環境の確認と変更
- ・セキュリティの設定
- ・起動デバイスの起動順位の設定

BIOSセットアップメニューを使う

BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

1 電源を入れて「NEC」のロゴが表示されたらすぐに【F2】を押し続ける



チェック

BIOSセットアップメニューが表示されない場合は、いったん電源を切り【F2】を押しながら電源を入れ直してください。

次のようなメイン画面が表示されます。画面上では「PhoenixBIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ			
メイン	詳細	セキュリティ	起動 終了
	システム時刻: システム日付: 言語: フロッピーディスクA: 内蔵HDD: ▶ 内蔵CD/DVD: 起動時表示デバイス: システムメモリ: 拡張メモリ: CPUタイプ: CPU速度: BIOSバージョン:	[hh:mm:ss] [yy/mm/dd] [日本語(JP)] [1.44/1.25Mb 3.5"] [XXXXMB] [CD/DVD] [両方] XXXXKB XXXXXXKB XXX XXXXXX MHz XXXX-XXXX-XXXX/XXXX	項目ヘルプ <Tab>キー、<Shift-T ab>キー、<Enter>キー は、項目を選択します。 F1 ヘルプ ↑ ↓ 項目の選択 Esc 終了 ← → メニューの選択 F5/F6 値の変更 Enter ▶ サブメニューの選択 F9 デフォルトの設定 F10 保存して終了

BIOSセットアップメニューの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【←】【→】でメニューを選び、【↑】【↓】で設定項目を選びます。
- ・設定内容の値は【F5】【F6】で変更します。

BIOSセットアップメニューを終了する

変更を保存して終了する

- 1 【F10】を押す
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
終了を中止したいときは【Esc】を押してください。
- 2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。



メモ

- ・メニューバーの「終了」で「変更を保存して終了する」を選んでBIOSセットアップメニューを終了することもできます。
- ・変更を保存せずに終了したいときなどは、次の「メニューバーから終了する」で終了してください。

メニューバーから終了する

【←】【→】でメニューバーの「終了」を選ぶと、以下のメニューが表示されます。

- 変更を保存して終了する
変更内容を保存してBIOSセットアップメニューを終了します。
- 変更を保存せずに終了する
設定値を保存せずにBIOSセットアップメニューを終了します。設定の変更を行った場合も、すべて無効にして終了します。
- デフォルト値をロードする
すべての設定項目にデフォルト値を書き込みます。これによりBIOSセットアップメニューの設定値は工場出荷時の状態に戻ります。
- 変更を取り消す
すべての設定項目に対して変更前の値を読み込みます。BIOSセットアップメニューは終了しません。

- 変更を保存する
変更値を保存します。BIOSセットアップメニューは終了しません。
- バッテリリフレッシュ
バッテリリフレッシュはバッテリーの機能を回復させるための機能です。バッテリリフレッシュの詳細手順については、PART1「バッテリー」の「バッテリリフレッシュ」(→ p. 66)をご覧ください。

工場出荷時の値に戻す

- 1 キーボードの【F9】を押す
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
- 2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
デフォルト値を読み込みます。
- 3 キーボードの【F10】を押す
セットアップ確認のダイアログボックスが表示されます。
- 4 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
設定の変更を保存して終了します。



メモ

メニューバーの「終了」で「デフォルト値をロードする」を選んで工場出荷時の値に戻すこともできます。

設定項目一覧

ここでは、BIOSセットアップメニューでどのような設定ができるかを説明しています。表中の反転部分は、購入時の設定です。

「メイン」メニューの設定



チェック

内蔵HDDの設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合がありますので、通常は初期設定のまま使用してください。

設定項目	設定値	説 明
システム時刻(時: 分:秒)	-	現在の時刻を「時:分:秒(24時間形式)」で設定します。
システム日付(年/ 月/日)	-	日付を「年/月/日(西暦)」で設定します。「言語」を「英語」に設定している場合は、「月/日/年」で入力します。
言語	English(US) 日本語(JP) Francais(FR)	BIOSセットアップメニューで使用する言語を設定します。標準では「日本語(JP)」に設定されています。
フロッピーディスクA	使用しない 1.44/1.25Mb 3.5	「1.44/1.25Mb 3.5"」の場合、フロッピーディスクドライブが使用できます。「使用しない」の場合、フロッピーディスクドライブが使用できません。
内蔵HDD / 内蔵 CD/DVD	-	現在接続されているIDEデバイスが表示されます。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すと設定画面が表示されます。表示できるのは「内蔵HDD」の項目のみです。【Esc】を押すとメイン画面に戻ります。
タイプ	自動 ユーザ CD/DVD なし	BIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。設定は変更しないでください。
32ビットI/O	使用しない 使用する	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定します。
起動時表示デバイス	両方 CRT LCD	起動時に表示するディスプレイを設定します。
システムメモリ	-	搭載されているシステムメモリ容量を表示します。
拡張メモリ	-	搭載されている拡張メモリを表示します。
CPUタイプ	-	CPUタイプを表示します。
CPU速度	-	CPU速度を表示します。
BIOSバージョン	-	BIOSのバージョンを表示します。

「詳細」メニューの設定

設定項目	設定値	説 明
起動時のNum-Lock	オン オフ	起動時にNum Lockをオンにするかを設定します。
NXパッド&PS/2マウス	使用しない 両方 自動	「自動」に設定すると、PS/2マウスを接続したときにNXパッドが使用できなくなります。「両方」に設定すると、NXパッドとPS/2マウスを同時に使用できます。USBマウスを使用するときにNXパッドを無効にしたい場合は、「使用しない」に設定します。
LCDパネルの拡張表示	オフ オン	LCDパネルの拡大表示を行うかどうかを設定します。「オン」に設定すると、LCDパネルの最大表示サイズ以下の表示画面では拡大されて表示されます。
スリープ時警告音	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、スリープモード移行時に警告音を鳴らします。
セットアップ移行画面表示	非表示 表示	「表示」に設定すると、セットアップの移行画面に関するメッセージが表示されます。
ハイバネーション警告表示	表示 非表示	「表示」に設定すると、ハイバネーションの警告に関するメッセージが表示されます。このパソコンでは「非表示」で使用してください。
セットアップ情報画面	使用しない 使用する	起動時にシステム設定状況を表示します。
サイレントブート	自己診断画面 ロゴ画面 非表示	ブート時の画面を設定します。
Intel(R) SpeedStep(™)テクノロジーの設定	バッテリー 自動 使用しない	“自動”に設定すると、AC電源でコンピュータ使用時に自動的に最高性能で動作します。“バッテリー”に設定すると、常にバッテリー最適性能で動作します。“使用しない”に設定すると、Intel® SpeedStep™テクノロジーは使用できません。

：BIOSセットアップメニューを起動する場合は、電源を入れた後、1秒おきに【F2】を押すことを何度かくりかえしてください。

設定項目	設定値	説 明
周辺機器設定	-	各周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルを合わせて【Enter】を押すと設定を行うことができます。
シリアルポートA	使用しない 使用する 自動	「自動」に設定すると、BIOSがI/Oベースアドレスと割り込み番号を自動的に設定します。「使用する」に設定すると、ユーザがI/Oベースアドレスを設定できます。「使用しない」に設定すると、シリアルポートは使用できません。
I/Oベースアドレス	3F8 2F8 3E8 2E8	「シリアルポートA」を「使用する」に設定すると表示されます。シリアルポートにI/Oベースアドレスを設定します。
パラレルポート	使用しない 使用する 自動	「自動」に設定すると、BIOSが自動的にパラレルポートの設定を行います。「使用する」に設定すると、ユーザがパラレルポートの「モード」「I/Oベースアドレス」「DMAチャネル」を設定できます。「使用しない」に設定すると、パラレルポートは使用できません。
モード	出力のみ 双方向 EPP ECP	パラレルポートのモードを設定します。
I/Oベースアドレス	378 278 3BC	パラレルポートを「使用する」に設定すると表示されます。パラレルポートにI/Oベースアドレスを設定します。
フロッピーコントローラ	使用しない 使用する	設定は変更しないで「使用する」のまま使用してください。

「セキュリティ」メニューの設定

- スーパーバイザパスワード設定

スーパーバイザパスワードの設定または変更を行います。

【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。



参照

パスワードの設定 → PART1の「セキュリティ機能」(p.81)

- ユーザパスワード設定

ユーザパスワードの設定または変更を行います。

スーパーバイザパスワードを設定していないとユーザパスワードは設定できません。

【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。



参照

パスワードの設定 → PART1の「セキュリティ機能」(p.81)

設定項目	設定値	説 明
起動時のパスワード	使用しない 使用する	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかを設定します。
ハードディスク起動セクタ	通常動作 書き込み禁止	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。
ディスクアクセス	スーパーバイザ ユーザ	「スーパーバイザ」に設定すると、ユーザパスワードで起動した状態ではディスクドライブに対してアクセスできなくなります。

:スーパーバイザパスワードを設定していないと「起動時のパスワード」は設定できません。

起動順位の設定

「起動」メニューでは、起動するデバイスを優先順にしたがってリスト表示します。パソコンを起動するときには、上から順にOSを検索します。もしOSが存在しないなど起動に失敗した場合は次のデバイスから起動します。

起動デバイスの表示と順位の変更

デバイス名の左に+の表示があるデバイスにカーソルを合わせて【Enter】を押すと展開表示されます。

起動するデバイスを変更するには【↑】【↓】を使用して変更したいデバイスにカーソルを合わせます。のキーと【Shift】を同時に押すとリストの上側に移動し、を押すとリストの下側に移動します。

なお、ニューメリックロックキーランプ()が点灯しているときには前面に【+】【-】の刻印のあるキーでもリストの上下にカーソルを移動させることができます。

P A R T

6

付録

ここでは、このパソコンの機能に関連した補足情報を説明しています。

パソコンのお手入れ

用意するもの

- 汚れが軽いとき
やわらかい素材の乾いたきれいな布
- 汚れがひどいとき
水かぬるま湯を含ませ堅くしぼったきれいな布



メモ

OA機器用クリーニングキットも汚れを拭き取るのに便利です。OA機器用クリーニングキットについてはご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などにお問い合わせください。



参照

NECのお問い合わせ先→『121wareガイドブック』または「サポートセンター」-「NECのサービス&サポート」

パソコンのお手入れをはじめる前に

⚠注意



感電注意

- お手入れの前には、必ず本機や本機の周辺機器の電源を切り、電源コードをACコンセントから抜いてください。
電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。

パソコンのお手入れをするときは、次のことに注意してください。

- 水やぬるま湯は、絶対にパソコンに直接かけないでください。パソコンの傷みや故障の原因になります。
- シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんなどは使わないでください。パソコンの傷みや故障の原因になります。

お手入れのしかた

- 液晶ディスプレイ

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。水やぬるま湯、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんは使わないでください。

- 本体 / NXパッド / キーボード

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭きます。

キーボードのキーのすきまにゴミが入ったときは、専用のクリーナーなどでゴミをとってください。ゴミがとれないときは、ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所に問い合わせてください。



参照

NECのお問い合わせ先 → 『121wareガイドブック』または「サポートセンタ」・「NECのサービス&サポート」

- フロッピーディスクドライブ

クリーニングディスク(別売)を使ってフロッピーディスクドライブをクリーニングします。ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

- 電源コード

電源コードのプラグを長時間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にほこりを拭き取るようにしてください。

Windows 2000 Professionalを使う

Windows 2000 Professionalを使うための手順



チェック

このパソコンにインストールされているソフトウェア、および添付のソフトウェアはWindows 2000 Professionalでは利用できません。

このパソコンで別売のWindows 2000 Professionalを使う場合の手順については、添付の「アプリケーションCD-ROM Vol.2」をCD-R/RWドライブなどにセットして下記のファイルをご覧ください。

- セットアップ手順
E:¥Win2K¥Setup.txt
- セットアップ時の注意事項
E:¥Win2K¥Readme.txt



メモ

EはCD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのドライブを表しています。実際と異なる場合は読み替えてください。



チェック

セットアップ中、ファイルを見ることができなくなる場合がありますので、印刷してご利用になることをおすすめします。

機能一覧

本体

6

付録

型 名	LC800J/74DH	LC750J/74DH
型 番	PC-LC800J74DH	PC-LC750J74DH
CPU	インテル®SpeedStep™ テクノロジ対応 モバイル Pentium® プロセッサ800MHz	インテル®SpeedStep™ テクノロジ対応 モバイル Pentium® プロセッサ750MHz
内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト	
セカンドキャッシュメモリ	256Kバイト(CPU内蔵)	
メモ リ	R O M	512Kバイト(BIOSほか)
	メインRAM	標準128Mバイト(システムバス100MHz)
	最大	256Mバイト(別売の増設RAMボード(128Mバイト)を2枚取り付け付けた場合)
	ビデオRAM	8Mバイト
表示 機能	表示素子 ¹	バックライト付14.1型TFTカラー液晶ディスプレイ(XGA)
	ウインドウアクセラータ	ATI RAGE™ Mobility-M1標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)
		640×480ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) ² 1600×1200ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) ²
	別売のCRTディスプレイ接続時	640×480ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1600×1200ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色)
サウ ンド 機能	サウンドチップ	ESS社製 ES1988搭載
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz) 全二重化対応
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源(WAVE Table音源最大64音))
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵
	サラウンド	3Dボジショナルサウンド

型 名	LC800J/74DH		LC750J/74DH
型 番	PC-LC800J74DH		PC-LC750J74DH
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56Kbps(K56flex/V.90)エラー訂正V.42/MNP4データ圧縮V.42bis/MNP5)	
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17 FAX制御クラス1))	
	LAN	LAN内蔵(100BASE-TX / 10BASE-T)	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな) Fnキー(ホットキー対応) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付	
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備(スクロールスライドスイッチ付)	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1内蔵(720K/1.2M ³ /1.44Mバイトタイプの3モードに対応)	
	固定ディスクドライブ ⁴	内蔵 約30.0Gバイト ⁵	内蔵 約20.0Gバイト ⁵
	CD-R/RW with DVD-ROMドライブ ⁶	読み込み最大24倍速(CD-ROM)/8倍速(DVD-ROM) 書き込み最大8倍速、書き換え最大4倍速	
インターフェイス		マウス / デンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン) パラレル D-SUB25ピン) シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応) ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン) IEEE1394(4ピン)×1、USB×2、ビデオ出力	
サウンド関連		ライン入力(ステレオ、ミニジャック) ヘッドホン出力 / ライン出力(ステレオ、ミニジャック)/ 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力用(光ミニジャック) マイク入力(モノラル、ミニジャック) ライン入力インピーダンス10k Ω 入力レベル1Vrms、 マイク入力インピーダンス2.2k Ω 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms	
PCカードスロット		TYPE ×2スロット(TYPE ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応	
パワーマネージメント		自動または任意設定可能	
セキュリティ機能		ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用)	
バッテリー駆動時間 ⁷		約1.5~2.1時間(最大約2.7~3.6時間)	
バッテリー充電時間 ⁷ (ON / OFF時)		標準約2.3 / 2.3時間(最大約2.7 / 2.7時間)	
バッテリーによるスタンバイ状態保持時間 ⁷		約2.5日(バッテリーフル充電時)	
電源		ニッケル水素バッテリー DC9.6V、3,800mAh) リチウムイオンバッテリー DC14.4V、3,800mAh) ⁸ またはAC100V $\pm$ 10%、50/60Hz(ACアダプタ経由 ⁹)	
消費電力		約20W(内蔵オプション最大接続時 約60W)	

型 名	LC800J/74DH	LC750J/74DH
型 番	PC-LC800J74DH	PC-LC750J74DH
温湿度条件	5～35、20～80% ¹⁰ (ただし、結露しないこと)	
外形寸法	308(W)×270(D)×38～40(H)mm(突起部含まず ⁸)	
質量 ⁷	約3.3kg	

1 : 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。

2 : パーチャルスクリーン表示。

3 : 3モード対応フロッピーディスクドライバのセットアップが必要です。

4 : 固定ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。

5 : Windowsのシステムからは約18.5Gバイトと認識されます。

6 : Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。

7 : 時間や質量は、ご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。

8 : バッテリパックは消耗品です。

9 : ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。

10 : 18～25、45～75%での使用を推奨。

LaVie Gシリーズ

の項目の仕様は、ご使用のモデルによって異なります。

型 名	LG10J	LG75J
CPU	インテル®SpeedStep™ テクノロジー対応モバイルPentium® プロセッサ1.0GHz	インテル® SpeedStep™ テクノロジー対応モバイル Pentium® プロセッサ750MHz
内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト	
セカンドキャッシュメモリ	256Kバイト(CPU内蔵)	
メモリ		
ROM	512Kバイト(BIOSほか)	
メインRAM	128Mバイト / 256Mバイト	
	最大	256Mバイト(別売の増設RAMボード(128Mバイト)を2枚取り付けた場合)
ビデオRAM	8Mバイト	
表示機能	表示素子 ¹	バックライト付14.1型TFTカラー液晶ディスプレイ(XGA)
	ウィンドウアクセラレータ	ATI RAGE™ Mobility-M1標準搭載 (ビデオアクセラレーション機能対応) 640×480ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) ² 1600×1200ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) ²
	別売のCRTディスプレイ接続時	640×480ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 800×600ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色) 1600×1200ドット(26万色中256色 / 65536色 / 1677万色)
サウンド機能	サウンドチップ	ESS社製 ES1988搭載
	PCM録音・再生機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz) 全二重化対応
	MIDI音源機能	内蔵 拡張WAVE Table音源(WAVE Table音源最大64音)
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵
	サラウンド	3Dボジショナルサウンド

型 名	LG10J	LG75J
通信機能	モデム	モデム内蔵(データ転送速度 最大56kbps(LAN内蔵モデルのみX2/V.90、LAN内蔵モデル以外はK56flex/V.90)エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)
	携帯電話 / PHS 接続ケーブル	なし / ケーブル添付 携帯電話:9.6Kbpsデータ通信 / 9.6Kbps・28.8Kbps/パケット通信(DoPa) cdmaOne:14.4Kbpsデータ通信 / 64Kbps/パケット通信(PacketOne) PHS(NTTドコモ / アステル):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.0) PHS(DDIポケット):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.1)
	FAX	内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17 FAX制御クラス1))
	LAN	なし / LAN内蔵(100BASE-TX / 10BASE-T)
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな) Fnキー(ホットキー対応) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備(スクロールスライドスイッチ付)
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1内蔵(720K/1.2M ³ /1.44Mバイトタイプの3モードに対応)
	固定ディスクドライブ ⁴	内蔵(約10Gバイト / 約20Gバイト / 約30Gバイト)
	CD-R/DVDドライブ ⁵ / CD-R/RW with DVD-ROMドライブ ⁵	・CD-R/RWドライブの場合: 読み込み最大24倍速、書き込み最大8倍速、書き換え最大4倍速 ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-ROM)/8倍速(DVD-ROM) 書き込み最大8倍速、書き換え最大4倍速
	インターフェイス	マウス / テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン)、パラレル(D-SUB25ピン)、シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、IEEE1394(4ピン)×1、USB×2、ビデオ出力
	サウンド関連	ライン入力(ステレオ、ミニジャック) ヘッドホン出力 / ライン出力(ステレオ、ミニジャック) / 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力用(光ミニジャック) マイク入力(モノラル、ミニジャック) ライン入力インピーダンス10kΩ 入力レベル1Vrms、 マイク入力インピーダンス2.2kΩ 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms
	PCカードスロット	TYPE ×2スロット(TYPE ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応
	パワーマネージメント	自動または任意設定可能
	セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(市販の盗難防止用ケーブルを使用)

型 名	LG10J	LG75J
バッテリー駆動時間 ⁶	約1.4～1.9時間(最大約2.6～3.3時間)	約1.5～2.1時間(最大約2.7～3.6時間)
バッテリー充電時間 ⁶ (ON / OFF時)	標準約2.3 / 2.3時間(最大約2.7 / 2.7時間)	
バッテリーによる スタンバイ状態 保持時間 ⁶	約2.5日(バッテリーフル充電時) (LAN内蔵モデルの場合は約1.5日(バッテリーフル充電時))	
電源	ニッケル水素バッテリー(DC9.6V、3,800mAh)、リチウムイオンバッテリー(DC14.4V、3,800mAh) ⁷ またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由 ⁸)	
消費電力	約21W (内蔵オプション最大接続時 約60W)	約20W (内蔵オプション最大接続時 約60W)
温湿度条件	5～35℃、20～80%RH(ただし、結露しないこと)	
外形寸法	308(W)×270(D)×38～40(H)mm(突起部含まず)	
質量 ⁶	約3.3kg	

1: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのムラや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがあります。故障ではありません。

2: バーチャルスクリーン表示。

3: 3モード対応フロッピーディスクドライバのセットアップが必要です。

4: 固定ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。

5: Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。

6: 時間や質量は、ご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。

7: バッテリーパックは消耗品です。

8: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。

9: 18～25℃、45～75%RHでの使用を推奨。

内蔵FAXモデム

機能概要

項 目	規 格
CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU 部	・ダイヤルパルス送出機能 ・リング検出機能
モデムチップセット部	・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット - X2、V.90(LAN内蔵モデルのみ) - K56flex、V.90(LAN内蔵モデル以外のモデル) - V.34 - V.32bis - V.32、V.22bis、V.22、V.21 - V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 - V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファックス・モデム送受信速度 - V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット準拠 - ATコマンド - レジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびバルスダイヤリング (DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

FAX 機能

項 目	規 格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	QAM: 14400/12000/9600/7200bps
	DPSK: 4800/2400bps
	FSK: 300bps
送信レベル	-9 ~ -15dBm(出荷時 -11dBm LAN内蔵モデル / -15dBm LAN内蔵モデル以外のモデル)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

: 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能(LAN内蔵モデルの場合)

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps ¹ 受信 56000/54666/53333/52000/50666/49333/48000/46666/ 45333/44000/42666/41333/40000/38666/37333/36000/34666/ 33333/32000/30666/29333/28000bps ¹
通信規格	X2 ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	PCM:56000/54666/53333/52000/50666/49333/48000/ 46666/45333/44000/42666/41333/40000/38666/37333/ 36000/34666/33333/32000/30666/29333/28000bps TCM:33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/ 16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400bps QAM:9600/7200bps DPSK:4800/2400/1200bps FSK:1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-9 ~ -15dBm(出荷時-11dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 ²

1: 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

2: ATコマンドについては、「サポートセンタ」・「ハードウェア情報」・「ATコマンド一覧」をご覧ください。

NCU 機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

データモデム機能(LAN内蔵モデル以外のモデルの場合)

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps ¹ 受信 56000/54666/54333/54000/52000/50666/50000/49333/ 48000/46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/ 38666/38000/37333/36000/34666/34000/33333/32000/30667/ 29333/28000bps ¹
通信規格	K56flex ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	TCM:56000/54666/54333/54000/52000/50666/50000/49333/ 48000/46666/46000/45333/44000/42666/42000/41333/40000/ 38666/38000/37333/36000/34666/34000/33600/33333/32000/ 31200/30667/29333/28800/28000/26400/24000/21600/19200/ 16800/14400/12000/9600/7200bps QAM:9600/7200bps DPSK:4800/2400/1200bps FSK:1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LPM) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-9 ~ -15dBm(出荷時 -15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 ²

1: 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

2: ATコマンドについては、「サポートセンタ」・「ハードウェア情報」・「ATコマンド一覧」を
ご覧ください。

NCU 機能

項 目	規 格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS) トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

携帯電話 / PHS接続機能

携帯電話 / PHS接続機能は、携帯電話 / PHS接続ケーブルが添付の場合、または別売の携帯電話 / PHS接続ケーブルを別途購入された場合のみ使用できます。

個別仕様

種 類	項 目	規 格
PHS(NTTドコモ / アステル) 接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PHS後位16芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2Kbps(実効値)
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4Kbps(実効値)
PHS(DDIポケット) 接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PHS後位12芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2Kbps(実効値)
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4Kbps(実効値)
携帯電話 (DoPa/PDC) 接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(PDC5式携帯電話端末後位16芯)
	通信速度	9.6Kbps(データ通信) 9.6Kbps(パケット通信) 28.8Kbps(パケット通信)
cdmaOne 接続ケーブル	適用回線	移動電話回線(CDMA方式携帯電話端末後位18芯)
	通信速度	14.4Kbps(データ通信) 64Kbps(パケット通信)

共通仕様

項 目	規 格
制御コマンド	ATコマンド
網制御機能	A A

:ATコマンドについては、「サポートセンタ」-「ハードウェア情報」-「ATコマンド一覧」をご覧ください。

内蔵LAN機能

LAN機能は、LAN内蔵モデルのみの機能です。

項 目	規 格 概 要
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時:100Mbps
	10BASE-T使用時:10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時:UTPカテゴリ5
	10BASE-T使用時:UTPカテゴリ3、4、5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台 / ネットワーク
ステーション間距離 ネットワーク経路長	100BASE-TX:最大約200m / ステーション間 10BASE-T :最大約500m / ステーション間 最大100m / セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA/CD方式

:リピータの台数など、条件によって異なります。

割り込みレベルとDMAチャネル

割り込みレベルとDMAチャネルについて

パソコンで利用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャネル」などがあります。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。1つのリソースが複数の機器に割り当てられている状態(リソースの競合)では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

割り込みレベル

割り込みレベル(IRQ)は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを決めるものです。このパソコンでは、購入時には次のように割り当てられています。

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	10	IEEE1394
1	キーボード		内蔵FAXモデム
2	割り込みコントローラ		内蔵LANインターフェイス
3	(空き)		CardBusコントローラ
4	通信ポート		PCIステアリングホルダー
5	USBホストコントローラ	11	(空き)
	サウンド	12	NXパッド
	アクセラレータ	13	数値データプロセッサ
	PCIステアリングホルダー	14	IDEコントローラ(内蔵ハードディスク)
6	フロッピーディスクコントローラ	15	IDEコントローラ(内蔵CD-R/RW ドライブまたは内蔵CD-R/RW with DVD-ROMドライブ)
7	プリンタポート		
8	システムクロック		
9	ACPI用システム制御割り込み		

: LAN内蔵モデルのみ。

DMA チャンネル

DMAチャンネルは、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。このパソコンでは、購入時には次のように割り当てられています。

D M A	インターフェイス			
	デフォルト	プリンタポート をE C Pで使用する 場合(#1使用時)	プリンタポート をE C Pで使用する 場合(#0使用時)	プリンタポート をE C Pで使用する 場合(#3使用時)
#0	(空き)		E C P	(空き)
#1	(空き)	E C P	(空き)	
#2	フロッピーディスクコントローラ			
#3	(空き)			E C P
#4	DMAコントローラ			

補足情報

サウンド機能について

音楽CDを利用する

- 音楽CDを再生する

Windows Meでは、Windows Media Playerを使って音楽CDを再生することができます。また、Windows Media Playerには、インターネットでCDのデータの検索をしたり、音楽CD再生中に視覚エフェクトを表示させる機能もあります。



参照

音楽CDの再生について→Windows Media Playerのヘルプ

このパソコンでは、音楽CDをデジタルで再生したり、アナログで再生することができます。購入時は、デジタルで再生するように設定されています。



チェック

音楽CDをデジタル再生で再生しているときに、ほかのアプリケーションを使用すると、音楽CDの再生音が音飛びする場合があります。その場合は、ほかのアプリケーションを終了するか、音楽CDの再生方法をデジタル再生からアナログ再生に変更してください。



参照

音楽CDの再生方法を変更するには→「音楽CDの再生方法の変更」(p.249)

- 音楽CDをハードディスクにコピーする

Windows Media Playerの「CDオーディオ」の「音楽のコピー」で、音楽CDをハードディスクにコピーすることができます。



参照

音楽CDのハードディスクへのコピーについて→Windows Media Playerのヘルプ

このパソコンでは、ハードディスクに音楽CDをデジタルでコピーしたり、アナログでコピーすることができます。



参照

音楽CDのハードディスクへのコピー方法を変更するには→「音楽CDからのコピー方法の変更」(p.250)

音楽CDの再生方法の変更

次の手順で、音楽CDの再生方法をデジタル再生、またはアナログ再生のどちらかに設定することができます。

■ Windows Media Playerの場合

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「Windows Media Player」をクリックする
Windows Media Playerが起動します。
- 2 メニューバーの「ツール」→「オプション」をクリックする
- 3 「CDオーディオ」タブをクリックし、「再生の設定」欄の「デジタル再生」を設定したい再生方法にあわせて選択する
 - ・デジタル再生にする場合
「デジタル再生」を☒にします。
 - ・アナログ再生にする場合
「デジタル再生」を☐にします。
- 4 「OK」ボタンをクリックする
- 5 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。
- 6 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
- 7 「CD-ROM」の左の $\oplus$ をクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする
CD-ROMデバイスのプロパティが表示されます。
- 8 「プロパティ」タブをクリックする
- 9 「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を設定したい再生方法にあわせて選択する
 - ・デジタル再生にする場合
☒にします。
 - ・アナログ再生にする場合
☐にします。
- 10 「OK」ボタンをクリックする

設定した再生方法によって、音楽CDの音量の調整方法が変わります。

■ その他のプレイヤーの場合

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
- 3 「CD-ROM」の左の $\oplus$ をクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする
CD-ROM デバイスのプロパティが表示されます。
- 4 「プロパティ」タブをクリックする
- 5 「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROM デバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を設定したい再生方法にあわせて選択する
 - ・デジタル再生にする場合
☒にします。
 - ・アナログ再生にする場合
☐にします。
- 6 「OK」ボタンをクリックする

Windows Media Player以外のプレイヤーを使用する場合の音楽CDの音量の調整は、設定した再生方法にかかわらず「CD Audio」の項目で行います。



参照

音楽CDの再生音量の調整 → 「音楽CDの音量を調整する」(p.252)

音楽CDからのコピー方法の変更

次の手順で、音楽CDからのコピー方法を設定することができます。

- 1 「スタート」ボタン → 「プログラム」 → 「Windows Media Player」をクリックする
Windows Media Playerが起動します。
- 2 メニューバーの「ツール」 → 「オプション」をクリックする

3 「CDオーディオ」タブをクリックし、「コピーの設定」欄の「デジタルコピー処理」を設定したいコピー方法にあわせて選択する

- ・デジタルでコピーしたい場合
「デジタルコピー処理」を☒にします。
- ・アナログでコピーしたい場合
「デジタルコピー処理」を☐にします。

4 「OK」ボタンをクリックする

5 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。

6 「デバイスマネージャ」タブをクリックする

7 「CD-ROM」の左のをクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする
CD-ROMデバイスのプロパティが表示されます。

8 「プロパティ」タブをクリックする

9 「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」を設定したい再生方法にあわせて選択する

- ・デジタル再生にする場合
☒にします。
- ・アナログ再生にする場合
☐にします。

10 「OK」ボタンをクリックする

設定した再生方法によって、音楽CDの音量の調整方法が変わります。

音楽CDの音量を調整する



チェック

このパソコンを再起動すると、再起動前にボリュームコントロールで調整した音量が調整前の音量に戻っている場合があります。この場合は、再度音量を調整してください。

■ 再生音量を調整する

「Volume Control」画面で音楽CDの再生音量の調整をすることができます。音楽CDの再生音量の調整方法は、音楽CDの再生方法によって異なります。購入時の状態では、音楽CDはデジタル再生するように設定されています。



参照

音楽CDの再生方法を変更する→「音楽CDの再生方法の変更」(p.249)

- 1 「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」→「エンターテインメント」→「ボリュームコントロール」をクリックする
「Volume Control」画面が表示されます。
- 2 音楽CDの再生方法に応じて、「Volume Control」画面の以下の項目の音量つまみを上下にドラッグして音量を調整する
 - ・デジタル再生に設定している場合
「Volume Control」または「Wave」
 - ・アナログ再生に設定している場合
「Volume Control」または「CD Audio」



チェック

- ・Windows Media Player以外のプレーヤーを使用する場合は、再生方法にかかわらず、「Volume Control」または「CD Audio」で音量を調整してください。
- ・「Volume Control」はスピーカから出力されるすべての音量を調整する項目です。音楽CDの再生音量のみを調整したい場合は「Wave」または「CD Audio」で調整してください。

■ 録音音量を調整する

次の手順で、音楽CDからの録音音量を調整できます。

- 1 「Volume Control」画面のメニューバーの「オプション」→「プロパティ」をクリックする

- 2 「音量の調整」で「録音」を選択し、「表示するコントロール」で「Mixer」にチェックを付けて「OK」ボタンをクリックする
「Recording Control」画面が表示されます。

- 3 「Mixer」の「選択」にチェックを付ける

- 4 「Mixer」の音量調整つまみを上下にドラックして録音音量を調整する



チェック

購入時、音楽CDからの録音はデジタル録音に設定されています。「Recording Control」の「CD Audio」は、音楽CDからアナログで録音する場合の音量を調整する項目です。デジタル録音に設定しているときに「CD Audio」を設定しても録音することはできません。

「CD Audio」での録音は、音楽CDからの録音をアナログ録音に設定にすることで可能になります。次の手順で、音楽CDからの録音をアナログ録音に設定できます。

- 音楽CDからの録音方法を変更する

- 1 「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをダブルクリックする
「システムのプロパティ」が表示されます。
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックする
- 3 「CD-ROM」の左の $\oplus$ をクリックし、表示されたデバイス名をダブルクリックする
CD-ROMデバイスのプロパティが表示されます。
- 4 「プロパティ」タブをクリックする
- 5 「デジタルCD再生」欄の「このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする」が $\checkmark$ になっている場合は $\square$ にする
- 6 「OK」ボタンをクリックする
- 7 「OK」ボタンをクリックする
- 8 「音楽CDの再生方法の変更（→ p. 249）の手順にしたがって、音楽CDの再生方法をアナログ再生に変更する

索 引

索引

英字

BIOSセットアップメニュー 222
CATVインターネット 112
CD-R/RWドライブ 2, 42
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ 2, 42
CD/DVDプレーヤボタン 2, 121
CDの再生 48, 120
CDブレイモード 48, 122
CDプレーヤボタン 2, 121
CRTディスプレイ 193
DCコネクタ 3
DirectCD 51
DMAチャネル 247
DVDit! 148, 149
DVD VIDEOディスクの再生 48, 126
DVD形式のビデオデータ 146
Easy CD Creator 49, 125
FAT32ファイルシステム 36
FDISK 33
【Fn】(エフエヌキー) 13, 15
IEEE1394コネクタ 3, 177, 210
Intel® SpeedStep™ テクノロジ ... 71, 78
iモード機能付き電話との連携 105
Jet-Audio Player 48, 123, 126
LAN 108, 245
LAN用モジュラーコネクタ 3, 109
LCDインジケータ 121
MACアドレス 111
MP3 123
MPEG 147
MS-IME 18
NXパッド 2, 19, 191
NXパッドの設定 22
PCカード 198
PCカードイジェクトボタン 201
PCカードスロット 3, 176, 198
PHS接続ケーブル 96

SmartGallery 138, 157
USB 213
USBコネクタ 3, 177, 213
VideoStudio 127, 134
Video Wizard 128
Windows 2000 Professional 234

あ行

アクセスランプ(本体) 6
イルミネーション・エンブレム™ 3, 7
インターネット設定切替ツール 95
【インターネット】ボタン 2, 9
インナーシートクリエータ 27
映像出力端子 3, 177, 195
映像の再生 126
映像の編集 127
液晶ディスプレイ 2, 55
オーディオ電源スイッチ 121
オーディオ入力端子 3, 176
お手入れ 232
親子でね!ととりんく 113
オリジナルCDの作成 125
オリジナルMDの作成 123
音楽の再生 120
音量調節つまみ 3, 86

か行

解像度 57
外部CRT用コネクタ 3, 177, 194
外部ディスプレイ 193
外部マイクロホン端子 3, 176
画面表示の調整 55
カラーコーディネートパネル 2, 25
キーボード 2, 13, 17
キーボードの設定 16
輝度 55
起動順位の設定 229
キャップスロックキーランプ 6

休止状態 71, 76
 休止状態から復帰 78
 共有プリンタ 186
 クリックボタン 19
 携帯電話4N 104
 携帯電話 / PHS接続機能 96, 244
 携帯電話接続ケーブル 96
 携帯電話連携機能 104
 コントロールパネル iv

さ行

サウンド機能 86, 248
 サスペンド 71, 73
 サポートセンタ iv
 周辺機器 176, 179, 217
 省電力機能 71
 シリアルコネクタ 3, 177, 218
 スーパーバイザパスワード 82, 228
 スクロールロックキーランプ 6
 スクロールスライドスイッチ 19, 20
 スタンバイ状態 71, 73
 スタンバイ状態から復帰 74
 スナップショット 138
 スピーカ 2
 スリープ状態 71
 セキュリティ機能 81
 増設RAMボード 203

た行

ダイヤル設定 98
 タップ 19
 ダブルタップ 19
 ディスプレイの切り替え 55, 195
 ディスプレイの設定 196
 デバイスドライバ 181
 デュアルディスプレイ機能 60
 テレビ 195
 電源スイッチ 2

電源ランプ 5
 添付ソフトの使い方 iv
 電話回線用モジュラーコネクタ 3, 92
 盗難防止用ロック 3, 85
 ドライバ 181
 ドラッグ 20

な行

内蔵マイクロホン 2
 日本語入力 18
 ニューメリックロックキーランプ 6

は行

バーチャルスクリーン 59
 ハードディスク 32
 ハードディスク起動セクタ
 へのウイルス感染防止 84
 ハイバネーション 71, 76
 パスワード 81
 バックアップ 32
 バッテリ 62
 バッテリーアンロック 4, 69
 バッテリー残量の確認 64
 バッテリー充電ランプ 5
 バッテリーの充電 62
 バッテリーバック 4, 69
 バッテリーバックの交換 67
 バッテリーリフレッシュ 66
 パッド 19
 パラレルコネクタ 3, 177, 183, 219
 ビープ音の設定 89
 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力機能 89
 光デジタルオーディオ(S/PDIF)出力端子 89
 非常時ディスク取り出し穴 42, 47
 ビデオ登録君 142
 表示色 57
 表示ランプ 2, 3, 5
 フォーマット(ハードディスク) 35

フォーマット(フロッピーディスク) 41
 復帰 71, 74, 78
 プラグ&プレイ機能 182
 プリンタ 183
 プロジェクタ 194
 フロッピーディスクアクセスランプ 6
 フロッピーディスクイジェクトボタン ... 39
 フロッピーディスクドライブ 2, 39
 ヘッドホン / オーディオ / 光デジタルオーディオ
 (S/PDIF)出力端子 3, 176, 217
 ホームネットワーク 113
 ホットキー機能 15
 ボリュームコントロール 86

ま行

マイクの感度 88
 マウス 188
 マウス / テンキーボード用
 コネクタ 3, 177, 220
 メール着信ランプ 6
 【メール】ボタン 2, 10
 メモリ 203
 メモリスロット 4, 178, 205
 メモリ容量の確認 207
 モデム 92, 241

や行

ユーザパスワード 82, 228
 ユニバーサル管理アドレス 111

ら行

ライブフォト/i 139
 リソースの競合 180
 領域の確保 34
 レジューム 71
 ロックレバー 2

わ行

割り込みレベル 202, 246
 ワンタッチスタートボタン 9
 ワンタッチスタートボタンの設定 11

「サポートセンタ」を活用しよう

「サポートセンタ」は、添付アプリケーションの操作方法を知りたいときや、パソコンを使って困ったときなどに、どうしたらよいかを画面上で見ることができる電子マニュアルです。

1 デスクトップ上の「サポートセンタ」をクリックする



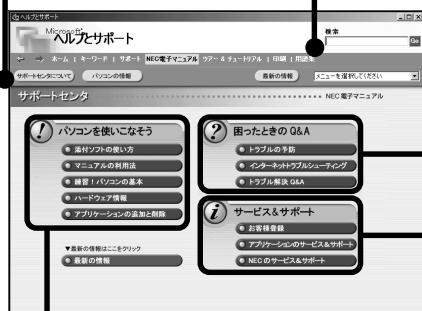
サポートセンタ ここをクリックする

▼ サポートセンタのメインメニュー画面が表示されます。

2 見たい項目をクリックする

サポートセンタについて
サポートセンタの内容と使いかたについて説明します。

用語集
パソコン関連の用語を説明しています。



サポートセンタのメインメニュー画面

? 困ったときの Q&A

- ・トラブルの予防
トラブルを予防するソフトの使いかたを説明します。
- ・インターネットトラブルシューティング
インターネットに接続する際に起こるトラブルの解決方法を説明します。
- ・トラブル解決 Q&A
トラブルの解決方法を Q & A 方式で説明します。



i サービス&サポート

- ・お客様登録
- ・アプリケーションのサービス&サポート
- ・NECのサービス&サポート

! パソコンを使いこなそう

- ・添付ソフトの使い方
このパソコンに添付されているソフトの使いかたの説明です。
- ・マニュアルの利用法
このパソコンに添付されているマニュアルを紹介します。



- ・練習! パソコンの基本
このパソコンの使いかたを練習できるソフトを起動します。
- ・ハードウェア情報
ハードウェアに関する情報を載せています。
- ・アプリケーションの追加と削除
各ソフトの追加と削除の方法を説明します。

LaVie

もっと知りたいパソコン



初版 2001年5月
NEC
P
853-810028-132-A

PC98-**NX** SERIES

LaVie

LC800J・LC750J